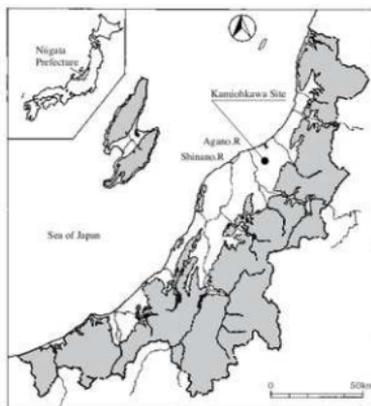


上大川遺跡 第2次調査

— 市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第2次発掘調査報告書 —



2009

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は、新潟県新潟市北区葛塚字上大川 799 番地 1 ほか^{新潟県新潟市北区}に所在する上大川遺跡^{新潟県新潟市北区}の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、市道正尺・早通線道路改良工事に伴い、新潟市長（北区建設課）から新潟市教育委員会（以下、市教委という）が執行委任を受けて調査主体となり、新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター（以下、市埋蔵文化財センターという）が補助執行した。
- 3 本発掘調査（第 2 次調査）は平成 20 年 5 月 7 日から 8 月 9 日に行った。発掘調査面積は 1,776.2m²である。
- 4 平成 20 年度に発掘調査と整理作業、報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第 III 章に記した。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市埋蔵文化財センターが保管・管理している。
- 6 本書の編集は渡邊ますみ（市埋蔵文化財センター主査）が行い、池田ひろ子（市埋蔵文化財センター専門臨時職員）が補佐した。執筆は、第 I 章・第 III 章・第 VII 章第 2 節を渡邊が、第 II・IV 章を池田が、第 V 章・第 VII 章第 1 節を渡邊・池田が担当した。第 VI 章は株式会社火山灰考古学研究所に委託した。
- 7 本書で用いた遺跡・遺構の写真は、渡邊・池田が撮影を行ったものである。遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に撮影を依頼した。ただし、写真図版 1 は国土地理院の提供による。
- 8 各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビアスに委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 9 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。
春日真実、菅澤正史、関雅之、水澤幸一、南憲一、葛塚土地改良区、新潟県教育庁文化行政課。
(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団（所属・敬称略、五十音順）

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
- 3 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものについては、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 本文中の注は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 5 遺構番号は現場で付したものを用了。番号は遺構の種類ごとに付さず、通し番号とした。
- 6 土層観察の色調は『新版標準土色帖』〔農林水産省農林水産技術会議事務局1967〕を用い、その記号を本書に掲載した。
- 7 土器実測図で全周の1/12以下の遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。
- 8 遺物実測図において、土器の赤彩は濃い網目、木製品の欠損は斜線のトーンで表した。
- 9 遺物の注記は、頭に調査年の2008年の「08」を記し、その後に「上大川」・出土地点・層位を記した。
- 10 遺物番号は種別ごとに通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 11 遺構・遺物観察表の（ ）付きの数値は、推定値を意味する。

目 次

第I章 序 章	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1
第II章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 周辺の遺跡	2
第3節 歴史的環境	6
第III章 調査の概要	7
第1節 試掘調査	7
A 調査方法と経過	7
B 調査体制	7
第2節 本発掘調査	8
A 調査方法	8
B 調査経過	8
C 調査体制	9
第3節 整理作業	9
A 整理方法	9
B 整理経過	9
C 整理体制	9
第IV章 遺 跡	10
第1節 概 要	10
第2節 層 序	10
第3節 遺 構	10
第V章 遺 物	19
第1節 遺物の概要	19
第2節 用語の説明と分類	19
第3節 出土土器等各説	21
A 遺構出土土器	21
B 遺構外出土土器	25
C 土 製 品	28
D 石 製 品	28
E 木 製 品	29
F 近世の遺物	29

第VI章 自然科学分析	30
第1節 土層とテフラ	30
A テフラ検出分析	30
B 屈折率測定	31
C 火山ガラスの主成分化学組成分析	31
D 考 察	31
第2節 放射性炭素 (^{14}C) 年代測定	32
A 測定試料と測定方法	32
B 測定結果と所見	32
第3節 プラント・オパール分析	33
A 試料と分析法	33
B 分析結果	34
C 考 察	34
第4節 花粉分析	35
A 試料と分析法	35
B 結 果	36
C 花粉分析から推定される植生と環境	37
第5節 珪藻分析	37
A 試料と方法	37
B 結 果	37
C 珪藻分析から推定される堆積環境	39
第6節 種実同定	39
A 試料と分析法	39
B 結 果	39
C 考 察	39
第VII章 総 括	41
第1節 上大川遺跡出土の土器について	41
第2節 上大川遺跡の性格について	42
引用・参考文献	44
報告書抄録・奥付	巻末

挿 図 目 次

第1図 周辺の地形分類図 (1/100,000)	3	第9図 上大川遺跡③地点における花粉ダイアグラム	36
第2図 周辺の遺跡 (1/50,000)	4	第10図 上大川遺跡の花粉・寄生虫卵	36
第3図 試掘調査土層柱状図・調査位置図 (1/3,500)	7	第11図 上大川遺跡①地点における主要珪藻ダイアグラム	38
第4図 土器分類図 (S=1/6)	20	第12図 上大川遺跡③地点における主要珪藻ダイアグラム	38
第5図 各地点 (①・②・③)の土層柱状図	30	第13図 上大川遺跡の珪藻	39
第6図 上大川遺跡におけるプラント・オパール分析結果	34	第14図 上大川遺跡の種実	40
第7図 植物珪藻体 (プラント・オパール)の顕微鏡写真	34	第15図 周辺遺跡の消長 (弥生時代後期～古墳時代)	43
第8図 上大川遺跡①地点における花粉ダイアグラム	36		

表 目 次

第 1 表	テフラ検出分析結果	30	第 7 表	放射性炭素年代測定の試料と方法	32
第 2 表	屈折率測定結果	31	第 8 表	放射性炭素年代測定結果	33
第 3 表	①地点試料 18 に含まれる火山ガラスの主成分科学組成分析結果	31	第 9 表	上大川遺跡におけるプラント・オパール分析結果	34
第 4 表	SE457 試料 2 に含まれる火山ガラスの主成分科学組成分析結果	31	第 10 表	上大川遺跡における花粉分析結果	35
第 5 表	SE491 周辺試料 1 に含まれる火山ガラスの主成分科学組成分析結果	31	第 11 表	上大川遺跡における珪藻分析結果	37
第 6 表	上大川遺跡のテフラ試料と代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果	32	第 12 表	上大川遺跡における種実同定結果	40
			第 13 表	土器編年対照表	41
			第 14 表	井戸検出遺跡一覧	42

別表目次

別表 1	上大川遺跡 主要遺構計測表	47	別表 4	上大川遺跡 木製品観察表	53
別表 2	上大川遺跡 土器・土製品・陶器観察表	49	別表 5	上大川遺跡 遺構出土土器器種構成率	54
別表 3	上大川遺跡 石製品観察表	53			

図版目次

図版 1	周辺の旧地形図 (1/25,000)		図版 21	遺構実測図 8 (1/40)	
図版 2	上大川遺跡と周辺遺跡 (1/10,000)		図版 22	遺構実測図 9 (1/40)	
図版 3	グリッド設定図 (1/2,500)		図版 23	遺構実測図 10 (1/40)	
図版 4	遺跡全体図 (1/300)		図版 24	遺構実測図 11 (1/40)	
図版 5	遺構全体図面別付図 (1/400)		図版 25	小グリッド別出土土器重量分布図 (1) (1/400)	
図版 6	遺構平面部分図 1 (1/100)		図版 26	小グリッド別出土土器重量分布図 (2) (1/400)	
図版 7	遺構平面部分図 2 (1/100)		図版 27	小グリッド別出土土器重量分布図 (3) (1/400)	
図版 8	遺構平面部分図 3 (1/100)		図版 28	出土遺物 1 SE8・SE81・SE170・SE255・SE457・SE491	
図版 9	遺構平面部分図 4 (1/100)		図版 29	出土遺物 2 SK37・SK231・SK144・SK349・SK458・SK459	
図版 10	遺構平面部分図 5 (1/100)		図版 30	出土遺物 3 SK459・SD447・SX536・P98・P189・P417・P473・P476・P502	
図版 11	遺構平面部分図 6 (1/100)		図版 31	出土遺物 4 遺構外	
図版 12	遺構平面部分図 7 (1/100)		図版 32	出土遺物 5 遺構外	
図版 13	基本層序実測図 (1/40・1/500)		図版 33	出土遺物 6 遺構外	
図版 14	遺構実測図 1 (1/60・1/40)		図版 34	出土遺物 7 遺構外	
図版 15	遺構実測図 2 (1/60・1/40)		図版 35	出土遺物 8 遺構外・土製品・陶器・石製品	
図版 16	遺構実測図 3 (1/60・1/40)		図版 36	出土遺物 9 木製品	
図版 17	遺構実測図 4 (1/60・1/40)				
図版 18	遺構実測図 5 (1/40)				
図版 19	遺構実測図 6 (1/40)				
図版 20	遺構実測図 7 (1/40)				

写真図版目次

写真図版 1	上大川遺跡周辺空中写真	写真図版 5	完掘状況 SB605・SB606・SD447 (北から) 土器集合写真
写真図版 2	上大川遺跡周辺空中写真 (南東から)	写真図版 6	調査前現況 1 (南から) 調査前現況 2 (北から) 東壁基本層序 1 (西から) 東壁基本層序 2 (西から) 東壁基本層序 3 (西から) 東壁基本層
写真図版 3	空中写真 (西から) 空中写真 (北から)		
写真図版 4	空中写真 (全景) 完掘状況 遺構集中区・SB601～SB604 (北から)		

- 序4 (西から) 東壁基本層序5 (西から) 東壁基本層序6 (西から)
- 写真図版7 SE8 土層断面(西から) SE8 完掘(南から)
SE81 土層断面(西から) SE81 底面遺物
出土状況(西から) SE81 完掘(西から)
SE170 土層断面(南から) SE170 完掘(南
から) SE170・P258・P257 完掘(南から)
- 写真図版8 SE255 土層断面(東から) SE255 完掘(東
から) SE457 土層断面(東から) SE457
完掘(東から) SE491 土層断面(南から)
SE491 完掘(南から) SX36 土層断面(西
から) SX36 完掘(西から)
- 写真図版9 SX173 土層断面(北から) SX173 完掘(北
から) SK48 土層断面(南から) SK48
完掘(南から) SK200 土層断面(南から)
SK200 完掘(南から) SK49 土層断面(東
から) SK49 完掘(南から)
- 写真図版10 SK25・P26 土層断面(東から) SK25・
P26 完掘(東から) SK42 土層断面(西
から) SK43 土層断面(南から) SK42・
SK43 完掘(北から) SK285 土層断面(東
から) SK285 完掘(東から) SK34 土
層断面(東から)
- 写真図版11 SK34 完掘(東から) SK37・SK231 遺
物出土状況(南から) SK37・SK231 土層
断面(南から) SK37・SK231 完掘(北か
ら) SK64 土層断面(南から) SK64 完
掘(南から) SK104・SK127 土層断面(西
から) SK104・SK127 完掘(西から)
- 写真図版12 SK80 土層断面(南から) SK80 完掘(南
から) SK184 土層断面(南から) SK185
土層断面(南から) SK184・SK185 完掘
(南から) SK211・P212 土層断面(西から)
SK211 完掘(西から) SK190・P191
土層断面(南から)
- 写真図版13 SK190・P191 完掘(南から) SK77 土
層断面(南から) SK77 完掘(南から)
SK261 土層断面(東から) SK261 完掘
(東から) SK144 SK144 土層断面(南
から) 遺物出土状況(南から) SK144 完
掘(南から)
- 写真図版14 SK221 土層断面(南から) SK221 完
掘(南から) SK299 土層断面(南から)
SK299 完掘(南から) SK272 土層断面
(南から) SK272 完掘(南から) SK349
土層断面(南から) SK349 完掘(南から)
- 写真図版15 SK422 土層断面(南から) SK422 完
掘(南から) SK418 土層断面(西から)
SK418 完掘(西から) SK515 土層断面
(南から) SK515 完掘(南から) SK458
土層断面(南から) SK458 完掘(南から)
- 写真図版16 SK505 土層断面(南から) SK505 完
掘(南から) SK215 土層断面(南から)
SX228 土層断面(東から) SK459 土層
断面(南から) SK459 完掘(東から)
SD447A 土層断面(西から) SD447B
土層断面(西から)
- 写真図版17 SD447C 土層断面(西から) SX536 土
層断面(東から) SX513 土層断面(南から)
SX513 完掘(南から) P383 土層断面(北
から) P258 土層断面(北から)
P327 土層断面(南から) P430 土層断
面(南から)
- 写真図版18 P89 土層断面(南から) P89 完掘(南か
ら) P102 土層断面(南から) P102 完
掘(南から) P339 土層断面(南から)
P204 土層断面(南から) P394 土層断
面(南から) P427 土層断面(南から)
- 写真図版19 P135 土層断面(南から) P139・P140
遺物出土状況(東から) P189 遺物出土状
況(南から) P498・P500 磁石出土状況(西
から) P473 遺物出土状況(南から) 包
含層遺物出土状況(東から) 管玉出土状況
(南から) 勾玉出土状況(東から)
- 写真図版20 出土遺物1 SE8・SE81・SE170・SE255・
SE491・SE457・SK37
- 写真図版21 出土遺物2 SK37・SK231・SK144・
SK349・SK458・SK459・SD447
- 写真図版22 出土遺物3 SD447・SX536・P98・P189・
P147・P476・P502・P473・遺構外
- 写真図版23 出土遺物4 遺構外
- 写真図版24 出土遺物5 遺構外
- 写真図版25 出土遺物6 遺構外
- 写真図版26 出土遺物7 土製品・陶器・石製品・木製品

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観

上大川遺跡は、新潟市北区葛塚字上大川 799 番地 1 他に所在する。かつては、水田が広がる地域であったが、現在は、日本海沿岸東北自動車道の建設や市街地の拡大によって、それ以前の水田地帯とは趣を異にしている。

新潟平野で最も低湿な阿賀野川右岸のこの地域は、福島島周辺を中心とした強低湿地帯が広がり、その干拓は近世に始まった。その頃の絵図や検地帳といった史料から、当時の集落が砂丘や自然堤防のような微高地に形成されていたことがわかるが、それより古い時代もまた砂丘を中心とした微高地を選んで活動・生活の場としていたことが遺跡の分布にみるができる。

当遺跡は、平成 19 年 3 月の試掘調査で発見された遺跡であり、自然堤防上に立地している。地表面の標高は約 0.5m を測り、遺跡はそこから約 0.6 ～ 0.7m 下で姿を現す。周辺には、北から東にかけて 5ヶ所の遺跡がここを取り囲むように存在している。いずれも古墳時代前期の自然堤防上の遺跡であり、この時代の中心的地域であったことが窺える。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

調査の原因となった正尺・早通線道路改良工事は、旧豊栄市建設課が担当となって計画されたもので、「合併建設計画」として、そのまま新潟市に引き継がれた事業である。新潟市歴史文化課（以下、歴史文化課という）は、合併前に各市町村の合併建設計画を含む全ての公共事業について照会を行っており、本事業はその中で埋蔵文化財に係る協議案件としてあがっていたものである。具体的な協議は、事業の見通しがついた平成 18 年度にはいつてから行った。歴史文化課は、工事予定地には周知の遺跡はないが、周辺に遺跡が多数確認されていることから、未知の遺跡が存在する可能性があると判断し、豊栄支所建設課（平成 20 年度から北区建設課となる。以下、建設課という）に試掘調査の必要性を伝えた。

平成 19 年 2 月 28 日付けで、建設課から事前（試掘）調査の依頼があり、それを受けて歴史文化課は平成 19 年 3 月 7 日～3 月 9 日の 3 日間の試掘調査（第 1 次調査）を実施した。この調査で古墳時代前期の遺物と遺構が確認され、遺跡の存在が明らかになったため、新潟県教育長（以下、県教育長という）あてに終了報告書（平成 19 年 3 月 12 日付け新歴 1656 号の 5）および埋蔵文化財発見通知書（平成 19 年 3 月 13 日付け新歴第 1656 号の 6）を提出した。平成 19 年 3 月 29 日付け教文第 1578 号で県教育長から新潟市教育長（以下、市教育長という）へ文書が送付され、新遺跡が周知化された。

同年 3 月 19 日、歴史文化課と建設課は協議を行い、本発掘調査の対象地を工事が遺跡におよぶ約 2,000m² の範囲としたが、実施時期については、平成 19 年度における歴史文化課の対応が不可能であったため、平成 20 年度の実施とした。幸い、本体工事の工期が平成 21 年度までであり、調査終了までは調査地とその隣接地を除いた場所の工事を進めることで調整を図ることになった。この 1 年後、建設課は、歴史文化課へ本発掘調査依頼書（平成 20 年 4 月 18 日付け新北建第 61 号）を提出するとともに、県教育長あてに文化財保護法 94 条の規定に基づく通知（平成 4 月 19 日付け新北建第 63 号）を行った。

歴史文化課は、平成 20 年 4 月 25 日付け新歴第 5024 号の 5 で県教育長あてに文化財保護法 99 条の規定に基づく発掘調査の着手報告をし、5 月 7 日に本発掘調査を着手する（第 2 次調査）。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

新潟市は越後平野のほぼ中央に位置し、市域の地形は大きく海岸部の砂丘地帯、南西側の角田・弥彦山塊と南東側の新津丘陵、その間の沖積層からなっている。市域の大半を占める越後平野は、信濃川・阿賀野川などをはじめ大小の河川によって形成された沖積層であり、発達した砂丘列とその内陸側に広がる低湿地帯が特徴である。

砂丘は、河川が運ぶ大量の砂が、沿岸の海流で押しとめられて砂州となり、それが冬の季節風で移動して高く積もったものである。海岸線から内陸へ10kmに及ぶ10列の砂丘列を構成しており、砂丘の地形や砂丘の表面の腐植層の状態、砂丘上に残された遺跡の時代などから大きく3つに分けられている。形成された時代から内陸よりの新砂丘Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと区分されており、Ⅰ群は4列、Ⅱ群は4列、Ⅲ群は2列に細分されている〔新潟古砂丘グループ1974〕。

砂丘列の内陸側に広がる低湿地帯には、紫雲寺潟・福島潟・鳥屋野潟・鏡潟など多くの潟湖群が形成された。これは河川の上砂により形成された砂丘が、河川の流れを阻み、内部排水を引き起こしたためである。しかし現在では、河川の整備とともに潟湖もほとんど干拓されて水田地帯となっている。

今回調査した上大川遺跡が所在するのは新潟市の北東部に位置する北区である。北区は阿賀野川右岸に位置し、東は聖籠町、新発田市、南は阿賀野市に隣接しており、北には日本海が広がっている。その地形は砂堆・砂丘帯とその間の砂丘間低地、自然堤防とそれに伴う後背湿地帯、福島潟などの潟湖からなっている。

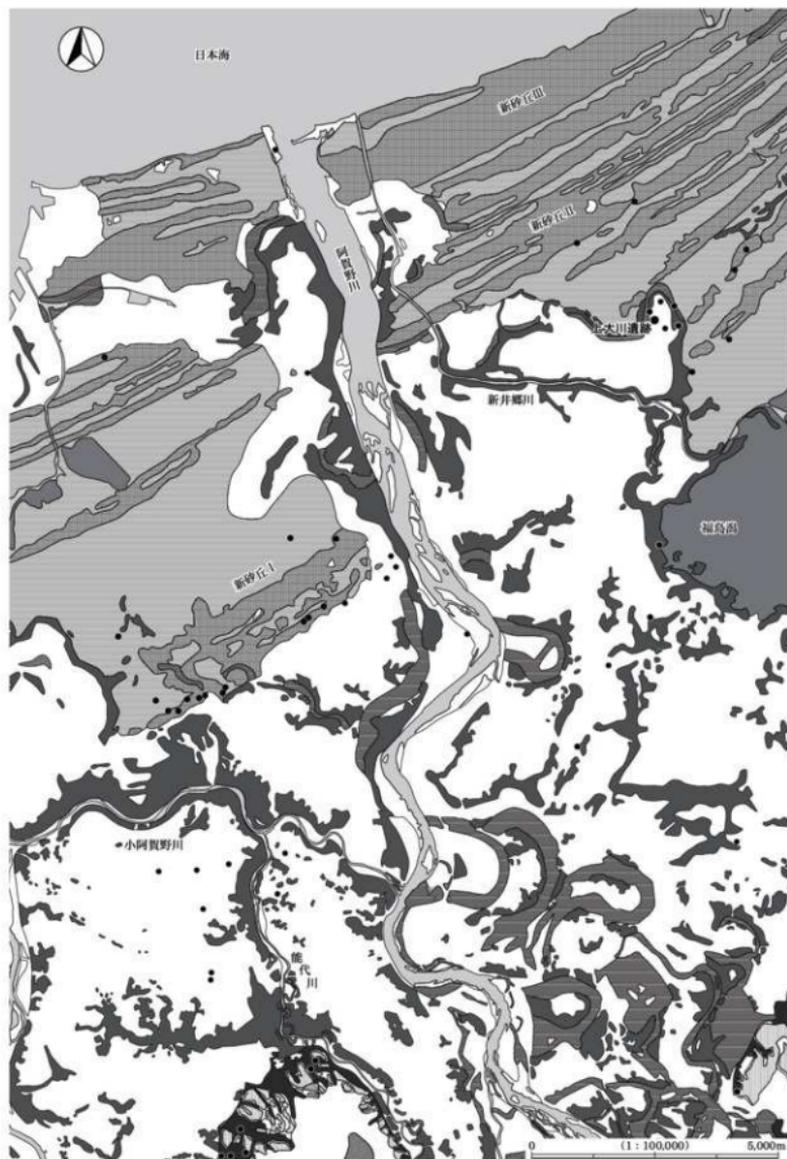
福島潟は享保年間以降干拓が進められ、現在の大きさに縮小されたが、1645年に描かれた「越後国絵図」においては長さ約5km、幅約3.4kmの範囲が示されている。この範囲は「阿賀野川水害地形分類図」〔大矢・加藤1986〕にみる福島潟の範囲とほぼ同じと推定されている〔南1998〕。また福島潟から流出する新井郷川は、洪水のたびにかなり河道が動いていたことが古い地形図や空中写真から確認できる。

この福島潟から北西に約4km離れた地点に位置する上大川遺跡は、新潟市北区葛塚字上大川799-1番地他に所在し、新砂丘Ⅰ-3列・Ⅰ-4列の2つの砂丘列の間に位置している。周辺には同時代の遺跡がまとまっていることから、当時このあたりが中心的な場所であった可能性がある（第1図）。

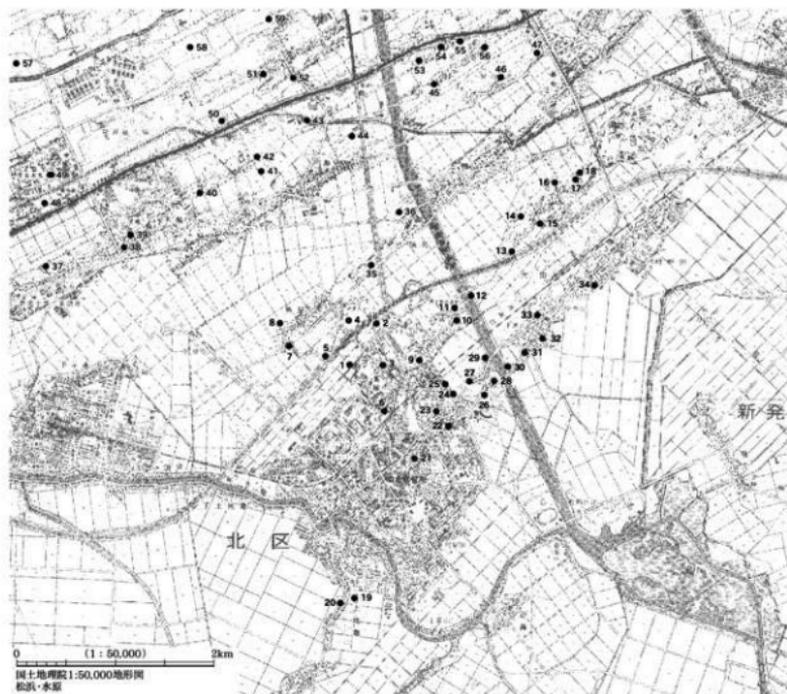
標高は現在の田面で0.5mを測り、遺跡はこの面から0.6～0.7m下で見られる。低湿な土地に生活していたことが伺え、また包含層の上にはガツボ（未分解有機物層）が形成されていることから、遺跡の発掘以降は沼や潟のような湿地であったと思われる。

第2節 周辺の遺跡

上大川遺跡周辺の遺跡の立地は、砂丘上と自然堤防上の2つに分かれる。時代別に遺跡の分布をみると、縄文・弥生時代では砂丘上のみ遺跡が存在し、自然堤防上に遺跡の分布がみられるようになるのは古墳時代以降のことである。古墳時代になると、遺跡の増加と自然堤防への進出に加えて、大型集落の出現といった著しい変化がみられる。さらに奈良・平安時代になると、沼垂郡では、集落・官衙関係の遺跡の成立や須恵器・鉄・塩といった手工業生産の開始がみられる。一方で、砂丘上の多くの集落は9世紀後半には衰退し、これ以降、中・近世から現代に至るまで平野部が主たる生活の場となる（第2図）。以下では、各時代に分けて上大川遺跡周辺の遺跡を概観する。



新井川「土地分類基本調査 第四 - 新津」1972 - 1974年より作成 (1/100,000)
 第1図 周辺の地形分類図



No.	名称	時代
1	上大川遺跡	古墳
2	正尺A遺跡	古墳・平安・近世
3	正尺B遺跡	古墳
4	正尺D遺跡	古墳
5	正尺C遺跡	古墳
6	下大川遺跡	古墳
7	鳥屋遺跡	縄文
8	寸苗庵跡塚	江戸
9	甲山遺跡	平安
10	城山館跡	室町
11	亀田城山遺跡	縄文
12	新五兵衛山遺跡	平安
13	松影A遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世
14	松影D遺跡	縄文・古墳
15	松影E遺跡	不明
16	松影C遺跡	古墳
17	松影B遺跡	古墳
18	大池遺跡	古墳
19	上土地亀A遺跡	古墳・平安
20	上土地亀B遺跡	古墳・古代

No.	名称	時代
21	葛塚遺跡	古墳
22	法花島屋A遺跡	縄文・古代
23	法花島屋B遺跡	縄文・弥生・古代
24	法花島屋C遺跡	古代
25	法花島屋D遺跡	古代
26	稲C遺跡	縄文・弥生・古墳・古代
27	サンマイ塚	不明
28	名山B遺跡	縄文
29	名山A遺跡	古代
30	名山C遺跡	古代
31	稲B遺跡	古代
32	稲A遺跡	縄文・古代
33	下黒山遺跡	不明
34	中黒山遺跡	中世
35	横井遺跡	平安
36	内島見C遺跡	室町
37	尾山C遺跡	平安
38	尾山B遺跡	平安
39	尾山A遺跡	平安
40	たやしき遺跡	弥生

No.	名称	時代
41	内島見B遺跡	平安
42	あかしやだA遺跡	平安
43	引越遺跡	弥生
44	内島見遺跡	縄文
45	樋ノ入B遺跡	縄文
46	原山B遺跡	縄文
47	原山A遺跡	縄文
48	樋ノ入A遺跡	縄文
49	樋ノ入A遺跡	縄文
50	原山C遺跡	縄文
51	原山B遺跡	縄文
52	原山D遺跡	平安
53	切尾C遺跡	縄文
54	切尾B遺跡	縄文
55	切尾A遺跡	縄文
56	樋ノ入A遺跡	縄文
57	向山遺跡	平安
58	上舟橋遺跡	平安
59	原山A遺跡	縄文

第2図 周辺の遺跡

縄文時代

縄文時代の遺跡は新砂丘1-2・3・4上に分布がみられる。1-2列では、縄文時代前期後半の土器が出土した上黒山遺跡のほか、法花鳥屋遺跡などがある。法花鳥屋遺跡は法花鳥屋の集落を中心として4地点(A遺跡～D遺跡)で遺物が採集されており、そのうちB遺跡では、縄文時代前期末～晩期の土器と土偶の破片などが出土している[関2005]。1-3列では、砂丘の南斜面に松影A遺跡が存在する。発掘調査では縄文時代中期前葉を最古として、縄文時代後期、晩期、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世の遺物が出土している[加藤2001]。1-4列では、縄文時代後半～最終末の標識遺跡である鳥屋遺跡が存在する。3次にわたって調査された結果、土坑と考えられる遺構が190基検出され、これらの遺構からは石鏃や磨製石斧などの石器、壺や浅鉢・深鉢・高杯・甕などの土器に加えて、耳飾や垂れ飾りといった装身具や土偶・石冠といった呪術具などが出土している[関2018]。

弥生時代

弥生時代の遺跡も同じく新砂丘1-2・3上に分布がみられる。1-2列に位置する法花鳥屋B遺跡では縄文土器に混じて弥生時代後期末の壺がほぼ完形で出土している。土器の体部には縄文が施されており、縄文土器の流れをくむ東関東地方の土器の特徴がみられる。また同じ砂丘上には松C遺跡が存在する。調査では、弥生時代後半から古墳時代初頭にかけての遺物が多く出土している。中でも北方系の統縄文土器がまとまって出土したことが注目され、長野県北部や北陸地方の影響を受けた土器もみつかっている[新潟市2007]。1-3列上では、前時代に続き松影A遺跡が存在する。

古墳時代

古墳時代になると、砂丘上の集落に加えて、自然堤防を中心とする微高地への居住が始まる。まず、新砂丘1-2・3では、縄文から中世の複合遺跡である松影A遺跡や上黒山遺跡がある。自然堤防上には、正尺遺跡、葛塚遺跡などがあり、古墳時代前期の良好な資料が認められる。正尺遺跡は、4地点(A遺跡～D遺跡)が知られており、このうち日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、正尺A・C遺跡が本調査された。その結果、古墳時代前期の竪穴住居のほか、周囲を溝で区画した掘立柱建物などの遺構が検出された。遺物は土器を中心に多量に出土しており、東海地方や東北地方との関連が窺える土器もある。特に器台が多いことが特徴的であり、装飾器台をはじめとした祭祀色の強い遺物が多数出土している[尾崎2001・土橋2006]。葛塚遺跡では古墳時代前期の良好な土器群とともに統縄文土器など、北方系の要素もみられる。また線刻人物画のある赤彩の土師器壺が出土している[関1999]。

奈良平安

奈良・平安時代は、市内でも遺跡数が最も多く、その立地も沖積地の微高地が多いのが特徴である。砂丘上では、新砂丘1-3列上に新五兵衛山遺跡と甲山遺跡がある。新五兵衛山遺跡は平安時代を中心とした遺跡で、須恵器・土師器とともに鍛冶炉と考えられる炉の底部や、櫛の羽口、炉の壁材などがみつかった。また出土した鉄滓の化学分析により、砂鉄製錬滓・精錬鍛冶滓・鍛錬鍛冶滓の3種が確認されたことから、本遺跡では鉄素材の生産から鍛造鉄製品の仕上げまでの作業が行われていたことがわかった。この他、管状土錘が200点近く出土しており、魚網を用いた内水而漁業を盛んに行っていた遺跡の一つと考えられる[関2018・1989・1996]。甲山遺跡は、平安時代を主体とする複合遺跡で、井戸が1基検出されている[関2005]。一方、新砂丘1-2列の南側地域には低湿地帯が広がり、駒林川流域に形成された自然堤防上には、古代の遺物を主体とする遺跡が多数存在している。その一つに上土地亀遺跡がある。上土地亀遺跡では、舟状遺構が検出され、古墳時代中期のほかに9世紀頃の遺物も出土している[関1993]。

中近世

中世以降の集落遺跡では、自然堤防上に位置する下前川原遺跡があげられる。下前川原遺跡では、井戸10基、溝42条などの遺構とともに、珠洲焼や青磁・白磁などの遺物が多く出土した。これらの出土品は当時の物流の

様子を反映したものであり、河川交通を利用した拠点集落であることが想定されている。出土した遺物の時期は12世紀後半から15世紀前半に及ぶが、主要な時期は12世紀後半から13世紀代である。出土遺物の特徴は、青磁の碗・皿を主とする中国産の陶磁器が181点と比較的多く出土していることである。青白磁の合子も6点認められるが、城館などから出土する威信財的な超高級品はなかった〔速藤 2004〕。

第3節 歴史的環境

『和名類聚抄』によれば、10世紀ころの越後国には、頸城・三島・古志・魚沼・蒲原・沼垂・磐舟の7郡があったが、当初から越後国に属していたのは、阿賀野川以北の沼垂・磐舟の2郡であった。上大川遺跡のある葛塚地域は沼垂郡に属しており、沼垂郡には足羽・沼垂・賀地の3郷が置かれていたとされる。その現在地については必ずしも明確ではないが、沼垂郷は信濃川河口右岸から聖籠町の境界線付近の砂丘地帯を含む北東地域、賀地郷は福島潟右岸で加治川中流域の新発田市を中心とする地域と推定されており、足羽郷は中世の奥山荘と白河荘の2説があるが、地名からは判断し難い。

「康平・寛治絵図」には「東濁」という記載があり、これが現在の福島潟を示しているのではないかと考えられている。その他いろいろな名称で呼称されていたようであるが、特徴的なのは、「濁」「湖」「水海」などと呼ばれていることから、大きな「濁湖」であったことがわかる。このことから遺跡があったその周辺地域の景観は、一面の濁湖におおわれた湿地帯にいくつかの村が点在していたと推測されている〔長谷川 1998〕。

中世においてこの地域は、「白河荘」と「豊田荘」に分かれる。前者は阿賀野川を西の境として、岡方・長浦地区を含んだ阿賀野市を領域とし、後者は新井郷川以北から新発田を領域としている。また、新崎・濁川の付近は「金津保」に属しており、阿賀野川付近は3つの荘園の境界であったと考えられる。本遺跡のある地域は豊田荘に属すとされる。豊田荘は長承4（1135）年に成立した東大寺領の荘園である。この荘園は、東大寺領の頸城郡石井荘と古志郡土井荘が廃絶したため、両荘の代わりに沼垂郡加地郷の中に成立し、以後越後における唯一の東大寺領荘園として存続した。

建久8（1197）年、治承3年から建久7年に至る18年間にわたって、白河荘の領主である九条家が白河荘の作田・損田・得田の面積の変遷を記録に留めた「建久八年白河荘年々作田注文案」によると、中世期においても阿賀野川の洪水被害に悩まされていたことが分かる。阿賀野川は洪水・地震などの自然災害によって、度々その流路を変えてきたが、激しい河道の変更は、同時に肥沃な耕地を与えることにもなる。その結果、周辺地域には新たな自然堤防や微高地が生まれ、新しい村が出現していった。

慶長3（1598）年の上杉家会津転封により、遺跡周辺は新発田藩領となったが、新発田藩は収入増加のため、紫雲寺潟や福島潟を干拓し新田開発を行った。享保15（1730）年には、幕府の監督の下、阿賀野川を松ヶ崎で掘り割り、日本海に直接流す分水路の工事を行った。この掘割工事とその翌年の洪水による掘割の阿賀野川本流化によって、広大な干上がり地が生まれ、耕地の開発が進んだ。

第三章 調査の概要

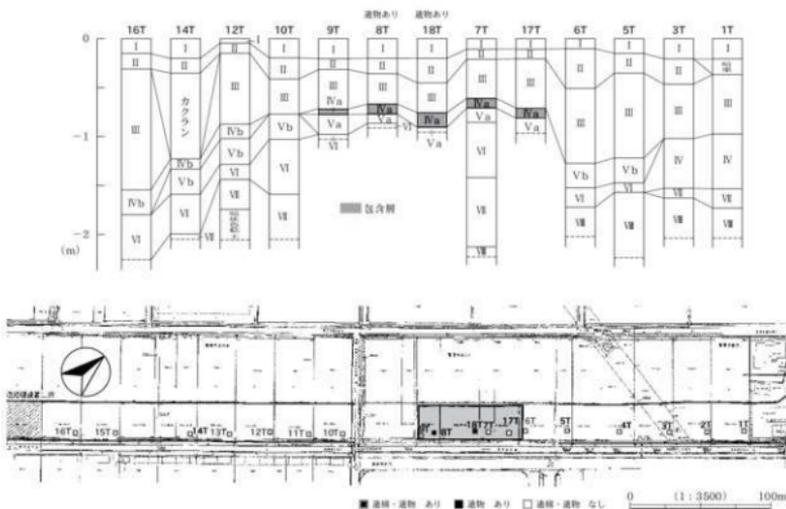
第1節 試掘調査

A 調査方法と経過

試掘調査（1次調査）は、正尺・早通線道路改良工事の予定地約 26,000m²を対象に平成 19 年 3 月 7 日～9 日の3日間行われた。対象地は休耕地となっており、18箇所の試掘坑を設定した。試掘調査面積は108m²である。調査においては、バックホウで少しずつ掘り下げながら、遺物包含層の確認や遺構検出・土層の精査を人力で行い、その都度、遺構・遺物の有無、土層の堆積状況を記録した。土層記録は、地表面を「0m」とし、各層位をそこからの深さで表わした（第3図）。包含層はガツボ層（Ⅲ層）直下の黒褐色～暗灰色粘質シルト（Ⅳa層）であり、7・8・9・17・18Tで確認された。地表面（Ⅱ面）からの深さは60～80cmで、厚さは5～15cmである。8・18Tで古墳時代前期の遺物が確認され、18Tでは遺構が検出された。このことから、新発見の遺跡として「上大川」遺跡と名付けられ、周知化されるに至った。

B 調査体制

調査主体	新潟市教育委員会（佐藤満夫）		
所管課	新潟市歴史文化課（課長 渡辺ユキ子 課長補佐 倉地一則 埋蔵文化財係長 渡邊明和）		
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊明和）		
調査担当	新潟市埋蔵文化財センター 副主査 朝岡政康		



第3図 試掘調査土層柱状図・調査位置図

第2節 本発掘調査

A 調査方法

1) グリッドの設定 (図版3)

グリッドは、X座標 214100.000・Y座標 62650.000 (世界測地系平面直角座標第Ⅲ系)、緯度 37° 55' 38.14829°、経度 139° 12' 45.55187° とする基点を設定し、それをもとに 10m 方眼の大グリッドを組んだ。大グリッドの名称は、北西隅(基点)を「1A」杭として、南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで表わした。さらに、その中を 2m 方眼で区切って 25 分割する小グリッドを設定し、「4C13」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。任意の隣り合う 2つのグリッド杭、7H 杭・8H 杭の座標は、7H 杭が X座標 214040.000・Y座標 62720.000、8H 杭が X座標 214030.000・Y座標 62720.000 であり、8H 杭の座標北は真北に対し 26 分 19 秒東偏、同座標北は真北に対し 7 度 46 分西偏する。

2) 調査方法

①表土剥ぎ 試掘調査によって遺物が出土しないことが予想されたため、遺物包含層 (IV層) 上面まで、バックホウにより除去した。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湛水防止のために表土剥ぎと平行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2 時のポンプで強制排水を行ったが、排水がうまくいかなかったため、調査区東壁・南壁沿いに管を伏せた暗渠を設置した。西壁・北壁沿いは人力で排水溝を掘削し、砕石を入れた。

②包含層掘削・遺構検出・発掘 遺物包含量が場所によって著しく異なることが予想されたため、その掘削作業は、少量のところは重機で、それ以外のところは人力で行った。遺構プランの検出は包含層 (IV層) 直下ではわかりにくい土質のため、全体に 2～3cm ほど下げて行っている。遺構掘削については、半載→完掘という手順で行っているが、溝はベルトを設定し掘削、また半載できないような小さい遺構は裁ち割りを行ったものもある。

③実測・写真 調査に係る実測・測量は全て測量業者に委託した。断面実測は写真測量、平面実測はトータルステーションを用いて作業を行った。遺構断面・遺構平面の写真撮影は、調査員が撮影内容によって、デジタル・35mm 版・6×7 版のカメラおよび白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜選択しながら行った。遺構の全体(俯瞰)写真撮影は、測量業者がラジコンヘリコプターにより行った。

④遺物取り上げ 包含層出土遺物については、小グリッド単位の取り上げを基本としたが、遺構を反映する可能性がある遺物集中部分は、遺構出土遺物と同じように測量業者の測量によりドットで取り上げた。

⑤自然科学分析 年代推定の参考とするためにテフラ検出分析及び放射性炭素 (¹⁴C) 年代測定、古環境復元のためにプラントオパール・種実同定・花粉分析・珪藻分析を行った。

B 調査経過

平成 20 年 5 月 13 日から諸準備にはいり、22 日まで重機による表土掘削を行った。それと並行して、作業員 6 名程度で土側溝掘削・法面仕上げを行い、調査区南壁面と東壁面の基本土層図を作成した。5 月 15 日から測量業者による杭打ちが行われ、23 日より包含層掘削・遺構検出・掘削作業を開始した。途中、暗渠の設置を行っている (6 月 5 日～10 日)。作業は南から北へ進め、遺構調査がほぼ終了したのは 8 月 6 日である。7 月 31 日には自然科学分析のための土壌採取をした。7 月 27 日に現地説明会、8 月 6 日に豊栄博物館が主催する北区小学生対象の遺跡見学が行われた。翌 8 月 7 日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、同日午後、いくつかの完掘遺構について断ち割りによる確認を行った。8 月 9 日に機材撤収を含め全ての調査が終了した。期間中、天候などの理由により調査中止のときは、土壌洗浄を行なった。最終的な発掘調査面積は上端 1776.2m² 下端 1660.5m² である。

C 調査体制

調査主体	新潟市教育委員会（佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 山田一雄 埋蔵文化財係長 渡邊明和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊明和）
調査員	（調査担当）新潟市埋蔵文化財センター 主査 渡邊ますみ（調査員）同専門臨時職員 池田ひろ子
整理補助員	埋蔵文化財センター臨時職員 桑野多真美 沼澤綾子

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

試掘調査・本発掘調査あわせて、コンテナ（内径 54.5 × 38.6 × 10.0cm）約 110 箱分の遺物が出土している。土器がほとんどであり、他に石製品・木製品が各数点ある。

遺物の整理作業は、水洗→注記→グリッド別、器種毎の重量・個体数計測→遺構出土遺物の器種毎の重量・個体数計測→接合→報告書掲載遺物の抽出→実測図、観察表作成→トレース図作成→版下作成の手順で行った。実測は整理補助員が、版下レイアウトは調査員が行い、そのデジタル図化・編集を業者に委託した。写真撮影は、業者に委託した。

2) 遺構

遺構断面図・平面図の個別修正は現場作業と並行して行い、調査終了後、両図面の整合作業を進めた。報告書の 1/80、1/40 の遺構平面原図は測量業者がデジタルデータで作成し、加工・編集は専門業者が行った。

B 整理経過

発掘調査作業と並行して出土遺物の水洗・注記を行い、調査終了後、出土遺物の計測・接合・実測を進めるとともに測量業者に委託した遺構平面図・断面図の整合作業を行った。並行して、職員は報告書の章立て・レイアウトを作成し、図版作成・原稿執筆を行った。

C 整理体制

調査主体	新潟市教育委員会（佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 山田一雄 埋蔵文化財係長 渡邊明和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊明和）
調査員	（調査担当）新潟市埋蔵文化財センター 主査 渡邊ますみ（調査員）同専門臨時職員 池田ひろ子
整理補助員	青池光子 小野里絵梨子 桑野多真美 佐々木陽子 清野環 高木裕貴子 沼澤綾子 野崎裕美

第IV章 遺 跡

第1節 概 要

上大川遺跡では古墳時代の遺物が出土し、同時代の遺構が検出された。遺跡は、調査区北東側に落ちていく地形であり、遺構はそこそと南側の凹凸した浅い窪地との間の比較的狭い空間に集中している。掘立柱建物や井戸が検出されたことから、居住地と考えられるが、竪穴住居は検出されなかった。

出土遺物の多くは古墳時代の土師器で、石製品、木製品が少量存在する。注目されるのは、出土遺物の中の玉類であり、異なる石材や未成品の存在は、遺跡の性格を考える上で重要である。

検出された遺構は掘立柱建物 6 棟、井戸 6 基、土坑 39 基、溝 1 条、性格不明遺構 5 基、小土坑 488 基である。なお井戸などの大型の遺構については、覆土を採取し土壌洗浄を行なっている。

第2節 層 序 (図版 13、写真図版 6)

基本層序を図版 13 に示す。下記のとおり、大きく 6 層に分けられる。Ⅰ～Ⅱ層は現代の耕作土あるいは床土である。Ⅲ層は未分解植物を含むいわゆるガツゴ層である。またこの層からは江戸時代の京焼が 1 点出土している。このことから、遺跡の廃絶後、この地は沼地のような湿地帯になっていたと考えられる。Ⅳ層は遺物包含層であり、古墳時代の遺物のみが出土する。遺構検出面はⅤ層上面である。

- Ⅰ 層 灰色 (5Y5/1) 粘質土。耕作土。
- Ⅱ 層 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土。床土。
- Ⅲ a 層 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘質シルト。腐植物を含む。しまりあり、粘性あり。
- Ⅲ b 層 黒褐色 (10YR2/2) 粘質シルト。炭化物を少量含む。腐植物を多く含む。しまりあり、粘性あり。
- Ⅳ a 層 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質シルト。炭化物を含む。しまりあり、粘性強い。遺物包含層。
- Ⅳ b 層 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質シルト。炭化物φ 1cm 程度を多く含む。しまりあり、粘性強い。遺物包含層。
- Ⅴ 層 灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性強い。遺構確認面。
- Ⅵ 層 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土とシルトの互層。粘性ややあり、しまりややあり。Ⅴ層との境付近では粘質土小ブロックが多いところがある。

第3節 遺 構

遺構番号は遺構の種類に関係なく検出順に番号を付した。説明は掘立柱建物 (以下、SBとする)、井戸 (以下、SEとする)、土坑 (以下、SKとする)、溝 (以下、SDとする)、性格不明遺構 (以下、SXとする)、小土坑 (以下、ピットとする。記述の際は省略して P とする)、の順に平面図図版ごとに記す。詳しい遺構の計測値などは別表 1 に示した。遺構出土土器の詳細は別表 2 に示しており、本節では一部省略している。出土土器は古墳時代の土師器であり、本文では器種名のみを記述した。遺構覆土には 2 つのパターンがみられる。ひとつは包含層土に近い炭化物を含んだ灰色～黒色の粘質土を主体とするもの (覆土 a)、もうひとつはそれが少なく灰色粘質シルトが主体となるもの (覆土 b) である。灰色～黒色粘質土は遺物を含むことが多いため、覆土 a の遺構は遺物を包含す

るものが多い。覆土bには、地点によって灰色砂質シルトを含むものがある。以下に各遺構の概要を述べる。

1) SB (掘立柱建物)

SB601 (図版 14, 写真図版 4)

8G23～25、9G3～5・8～10・13～15に位置する。桁行2間×梁行1間の側柱建物である。遺構が集積する地点からはやや外れた位置から検出された。この建物の南側には、井戸集中区から離れて独立しているSE8があり、SB601に伴う井戸の可能性が有る。建物の方向はN-2°-Wを指し、長軸6.08m、短軸4.35mを測る。柱掘方は円形を呈し、規模は長軸0.28～0.41m、短軸0.28～0.40m、深さは0.10～0.17mである。断面形は概ね半円形を呈し、覆土は灰色またはオリブ黒色の粘質土を主体とするa類である。柱根は検出できなかった。遺物はP97から糞の破片が2点出土している。

SB602 (図版 15, 写真図版 4)

7G23～25、8G3～5・8～10・13～15・18・19に位置する。桁行2間×梁行1間の側柱建物である。SE170・255などの井戸が集積する範囲と重複するように検出されたが、出土遺物からの判断では先後関係は不明瞭である。建物の方向はN-7°-Wを指し、SB601と主軸をほぼ同じくして、重複しないように分布することから、これらは並存した可能性がある。規模は長軸7.12m、短軸3.90mを測る。柱掘方は円形もしくは楕円形を呈し、規模は長軸0.23～0.32m、短軸0.18～0.32m、確認面からの深さは0.09～0.41mとややばらつきがある。断面形は概ね半円形を呈し、覆土は灰色またはオリブ黒色の粘質土を主体とするa類である。柱が遺存するのはP258とP383(図版36-4・5)である。遺物はP356から糞の破片が1点出土している。

SB603 (図版 16, 写真図版 4)

7G6～8・11～13・16・17に位置する。桁行1間×梁行1間の側柱建物である。建物の方向はN-86°-Eを指し、長軸3.75m、短軸2.90mを測る。柱掘方は円形もしくは楕円形を呈し、規模は長軸0.27～0.31m、短軸0.24～0.29m、確認面からの深さは0.15～0.42mとややばらつきがある。断面形はそれぞれ異なっているが、覆土はオリブ灰色または灰色の粘質土を主体としたa類である。柱が遺存するのはP327のみである。遺物はP238とP327から糞の破片が1点ずつ出土している。

SB604 (図版 16, 写真図版 4)

7H21・22、8H1・2・6・7、8G5に位置する。桁行1間×梁行1間の側柱建物である。方向はN-27°-Eを指し、長軸4.42m、短軸2.60mを測る。柱掘方は円形を呈し、規模は長軸0.20～0.35m、短軸0.20～0.32m、深さは0.07～0.25mである。断面形は半円形もしくは台形状を呈し、覆土は灰色～黒色の粘質土を主体とするa類である。柱が遺存するのはP430(図版36-7)のみである。遺物はP174から糞と燵の破片が、P430の1・2層より糞の破片が5点、P437から糞の破片1点がそれぞれ出土している。

SB605 (図版 17, 写真図版 5)

7G5・10・15、7H1～3・6～8・11～13に位置する。桁行2間×梁行1間の側柱建物である。方向はN-89°-Wを指し、長軸5.40m、短軸3.45mを測る。柱掘方は円形を呈し、規模は長軸0.21～0.42m、短軸0.19～0.34m、深さは0.08～0.27mである。断面形は半円形を呈し、覆土は記録したものが少ないが概ね灰色またはオリブ黒色の粘質土を主体とするa類である。柱根は検出できなかった。遺物はP445から糞の破片が2点出土している。

SB606 (図版 17, 写真図版 5)

6H20・25、6I16・17・21・22に位置する。桁行1間×梁行1間の側柱建物である。方向はN-85°-Eを指し、長軸2.55m、短軸2.45mを測る。柱掘方は概ね円形を呈し、規模は長軸0.20～0.74m、短軸0.20～0.56mとややばらつきがある。深さは0.16～0.26mである。断面形は半円形を呈し、覆土はオリブ黒色または灰色の粘質土を主体とするa類である。柱根は検出できなかった。

2) SE (井戸)

SE8 (図版 18, 写真図版 7)

9G13・14・18・19に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 1.36m、短軸 1.32m のほぼ円形で、断面の形状は平坦な底部から壁が外反して急斜度に立ち上がる。北壁はいったん急斜度に立ち上がった後、確認面下 0.70m 付近で屈曲して大きく外側に開く。遺構の深さは 1.04m である。覆土は a 類で、5 層に分かれ、覆土下位は水平に、上位はレンズ状堆積をなす。1・2 層は黒褐色を主体とした粘質土で、未分解の腐植物を多量に含んでいる。遺物は 1～5 層より出土しており、特に 3 層からの出土が多い。甕と壺 (図版 28-1～3) が出土している。なお、湧水により調査中に下層が崩れ始めたため、底部の形状及び深さは一部推定のところがある。

SE81 (図版 18, 写真図版 7)

8H11に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 0.80m、短軸 0.77m のほぼ円形で、断面の形状は緩い丸底から急斜度に立ち上がり、確認面下 0.20m 付近を境に緩やかに立ち上がる 2 段構造である。下方は水の侵食を受けている。遺構の深さは 0.54m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、覆土下位は水平に、上位はレンズ状堆積をなす。遺物は 1～4 層より出土している。遺構底面では壺の大きな破片 (図版 28-6) が割えられた状態で検出されており、水溜めとして使われていた可能性がある。また壺の内外面にはスス・コゲが付着していることから、水溜めとして利用される以前に熱を受けたものと推測される。壺の他、甕・鉢 (図版 28-4～7)・高杯が出土している。また土壌洗浄を行った結果、白玉 2 点 (図版 35-3・4) が出土した。

SE170 (図版 18, 写真図版 7)

8G15・20に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 0.85m、短軸 0.78m のほぼ円形で、断面は他の井戸とは異なり、半円形に近い形状で、深さも 0.42m と浅めである。覆土は a 類で、6 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は 1～5 層より出土しており、特に 1 層からの出土が多い。甕 (図版 28-8～11)・壺・高杯が出土している。また P257・258 は SE170 の東西に位置するビットであるが、東側の P258 からは柱根 (図版 36-4) が検出されている。

SE255 (図版 18, 写真図版 8)

8G10・15に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 1.22m、短軸 1.13m のほぼ円形で、断面の形状は底部に平坦面をもち、ほぼ垂直に立ち上がるが、確認面下 0.30m 付近を境に立ち上がりが緩やかになる 2 段構造である。遺構の深さは 0.75m である。覆土は a 類で、10 層に分かれ、覆土下位は水平に、上位はレンズ状堆積をなす。遺物は 1～10 層より出土しており、多くは 1～7 層で出土している。甕・高杯 (図版 28-12～14)・壺・鉢が出土している。また土壌洗浄を行った結果、白玉 1 点 (図版 35-5) が出土した。

SE457 (図版 18, 写真図版 8)

6I12・13・17・18に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 1.57m、短軸 1.55m の円形で、断面の形状は平坦な底部から壁が外反して急斜度に立ち上がり、確認面下 0.25m 付近を境に立ち上がりが緩やかになる 2 段構造である。遺構の深さは 0.53m である。覆土は a 類で、10 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は 1～6 層より甕 (図版 28-15) と壺が出土している。

SE491 (図版 19, 写真図版 8)

6I7・12・13に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 1.74m、短軸 1.73m の円形で、断面の形状は SE457 と類似するが、底部は半円形を呈する。遺構の深さは 0.69m である。覆土は a 類で、9 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。特に 5 層下方では 3mm 以下の炭化物を層状に多く含み、粘性も強い。遺物は 1～6 層より甕・壺 (図版 28-16～18)・高杯が出土している。

3) SK (土坑)

SK48 (図版 19, 写真図版 9)

9G4・9に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。規模は長軸 1.03m、短軸 0.87m、深さ 0.19m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1・2 層は炭化物を少量含んでいる。遺物の出土はない。

SK200 (図版 19, 写真図版 9)

9F19に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸 0.54m、短軸 0.50m、深さ 0.23m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1～3 層は粘性の強い粘質土が堆積している。遺物は 1 層より甕が出土している。

SK49 (図版 19, 写真図版 9)

9G8に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する P97 を切っている。規模は長軸 0.70m、短軸 0.58m、深さ 0.14m である。覆土は a 類で、3 層に分かれ、水平堆積に近い。1 層は 5mm 以上の炭化物を多く含んでいる。覆土中から甕が出土している。

SK25 (図版 19, 写真図版 10)

9G3・8に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する P26 に切られる。規模は長軸 0.66m、短軸推定 0.62m、深さ 0.14m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物の出土はない。

SK42 (図版 19, 写真図版 10)

9G1・2に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する SK43 を切っている。規模は長軸 0.73m、短軸 0.65m、深さ 0.16m である。覆土は a 類で、3 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から甕が出土している。

SK43 (図版 19, 写真図版 10)

9G1・2、8G21・22に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する SK42 に切られる。規模は長軸 1.74m、短軸 1.06m、深さ 0.21m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、U 字状に近い堆積である。当初、粘性の強い 1・2 層を覆土と判断してピットと認識していたが、粘質シルトに混じる粘質土の割合が多いことから、完掘時に拡張した。その結果、粘質土ブロックが少なくなる灰色粘質シルト層で立ち上がりが確認できた。遺物の出土はない。

SK285 (図版 20, 写真図版 10)

8F20・25に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。規模は長軸 0.87m、短軸 0.58m、深さ 0.16m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は 1・2 層から甕が出土している。

SK34 (図版 20, 写真図版 10・11)

8G16・17・21・22に位置する。平面形は不整形、断面形は皿形である。重複関係は隣接する P87 に切られる。規模は長軸 1.19m、短軸 1.15m、深さ 0.15m である。覆土は a 類で、3 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。SK34 が位置するこの付近の地山は、シルトの上に粘質土が堆積するという性質を持ち、遺構覆土と地山の線引きが難しい。そのためこのエリアにおいては当初ピットとして認識していたが、形状がかわり、種別を変更したものが多し。SK43 同様、本遺構もピットとして断面の記録を行ったが、完掘の段階で拡張することが分かった。遺物は 3 層より甕が出土している。

SK37 (図版 20, 写真図版 11)

8G11・16に位置する。平面形は円形、断面形は皿形である。重複関係は隣接する SK231 に切られる。規模は長軸 0.93m、短軸推定 0.84m、深さ 0.15m である。覆土は a 類で、3 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1 層は炭化材片と 5mm 以上の炭化物を非常に多く含む。遺物は 1 層より出土しており、甕・壺・鉢 (図版 29 - 19 ~ 24)・高杯が出土している。

SK231 (図版 20, 写真図版 11)

8G16に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。重複関係は隣接するSK37を切っている。規模は長軸0.75m、短軸0.57m、深さ0.15mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土の構成はSK37とほぼ同様であるが、3層の粘質土の割合がSK37より多い。覆土中から甕(図版29-25)が出土している。

SK64 (図版 20, 写真図版 11)

8F15に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形である。規模は長軸0.56m、短軸0.40m、深さ0.12mである。覆土はb類で、2層に分かれる。遺物は1層より甕が出土している。

SK104 (図版 20, 写真図版 11)

8F4・5に位置する。平面形は楕円形、断面は箱形である。重複関係は隣接するP199を切っている。規模は長軸0.71m、短軸0.41m、深さ0.15mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は3層より甕が出土している。

SK127 (図版 20, 写真図版 11)

8F4・5に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形である。重複関係は隣接するSK125を切っている。規模は長軸0.65m、短軸0.43m、深さ0.14mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は2層より甕が出土している。

SK125 (図版 20)

8F5・10に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。重複関係は隣接するSK127に切られる。規模は長軸0.56m、短軸推定0.58m、深さ0.13mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層はしまりが強い。遺物の出土はない。

SK159 (図版 20)

8F10に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。重複関係は隣接するSK160を切る。規模は長軸0.46m、短軸0.39m、深さ0.17mである。覆土はb類で、2層に分かれ、レンズ状に近い堆積である。1層は炭化物を多く含んでいる。遺物の出土はない。

SK160 (図版 20)

8F10に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。重複関係は隣接するSK159に切られる。規模は長軸推定0.43m、短軸0.34m、深さ0.09mである。覆土はb類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は炭化物を多く含んでいる。遺物の出土はない。

SK172 (図版 20)

8F4に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸0.62m、短軸0.41m、深さ0.16mである。覆土はb類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は炭化物を多く含んでいる。遺物は1・2層より高杯が出土している。

SK80 (図版 20, 写真図版 12)

8G20・25に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。規模は長軸1.44m、短軸1.30m、深さ0.16mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。2層は灰色粘質土と粘質シルトの混合であるが、粘質土ブロックがなかなか切れず、他の遺構で見られる粘質シルトとは異なり立ち上がりの判断が付きにくかった。そこでトレンチを入れ確認し、粘質土ブロックは完全にはとりきれないが、少なくなると立ち上がりで判断した。遺物は1・2層より甕が出土している。

SK184 (図版 21, 写真図版 12)

8G14に位置する。平面形は円形、断面は箱形である。規模は長軸0.53m、短軸0.48m、深さ0.17mである。覆土はa類で、4層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は5mm以上の炭化物を非常に多く含んでいる。遺

物は1層より甕が出土している。

SK185 (図版 21, 写真図版 12)

8G14に位置する。平面形は円形、断面形は半円形である。規模は長軸0.39m、短軸0.38m、深さ0.17mである。覆土はa類で、3層に分かれる。覆土の構成はSK184と類似する。遺物は1層より甕が出土している。

SK211 (図版 21, 写真図版 12)

7F20に位置する。平面形は不整形、断面は血形である。重複関係はP212に切られる。規模は長軸0.79m、短軸推定0.45m、深さ0.18mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から甕が出土している。

SK190 (図版 21, 写真図版 12・13)

8G1・2に位置する。平面形は円形、断面は血形である。重複関係は隣接するP191を切っている。規模は長軸0.64m、短軸0.61、深さ0.19mである。覆土はb類で、3層に分かれ、水平堆積をなす。1層は2～3mmの炭化物を多く含む。遺物の出土はない。

SK77 (図版 21, 写真図版 13)

8G6に位置する。平面形は楕円形、断面は血形である。規模は長軸0.58m、短軸0.47m、深さ0.17mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は2～3mmの炭化物を多く含む。遺物は1層より甕が出土している。

SK261 (図版 21, 写真図版 13)

7G11・16に位置する。平面形は楕円形、断面は血形である。規模は長軸1.12m、短軸推定0.68m、深さ0.09mである。覆土はb類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。2層直下には粘質土が強く残る部分があり、その部分から長軸0.27m、短軸0.24m、深さ0.31mのピットが検出された。平面形は円形で、断面はU字状である。このピットの最下層からは遺物が1点出土している。

SK144 (図版 21, 写真図版 13)

7G24、8G4に位置する。平面形は楕円形、断面は血形である。規模は長軸0.97m、短軸0.63m、深さ0.13mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は5mm以上の炭化物を非常に多く含む。鉢(図版 29-26)と甕が出土している。2・3層は炭化物がごく少量で、遺物の出土も少ない。このように下層にいくほど遺物量が減るという構成の中で特異的なのは、底面に鉢が置かれたような状態で検出された点である。さらにその下に、長軸0.14m、短軸0.13m、深さ0.21mのピットが検出された。平面形は円形で、断面はU字状である。覆土はa類で、2層に分かれる。

SK221 (図版 21, 写真図版 14)

8H1・2に位置する。平面形は長方形、断面は箱形である。重複関係は隣接するP313に切られる。規模は長軸0.80m、短軸0.60m、深さ0.17mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状に近い堆積をなす。覆土中から甕が出土している。

SK299 (図版 21, 写真図版 14)

7G7・8に位置する。平面形は楕円形、断面は血形である。規模は長軸0.77m、短軸0.57m、深さ0.14mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は2～4mmの炭化物を多く含む。遺物は1・2層より甕と壺が出土している。

SK272 (図版 21, 写真図版 14)

7G17に位置する。平面形は楕円形、断面は血形である。規模は長軸0.55m、短軸0.39m、深さ0.17mである。覆土はa類で、2層に分かれる。1層は2～3mmの炭化物を多く含む。遺物は1・2層より甕が出土している。

SK349 (図版 21, 写真図版 14)

7G9に位置する。平面形は楕円形、断面は台形状である。規模は長軸0.55m、短軸0.36m、深さ0.16mである。

覆土はb類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は2～5mmの炭化物を多く含んでいる。遺物は1・2層から甕(図版29～27)・壺・鉢が出土している。

SK422 (図版22, 写真図版15)

7H1に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸0.43m、短軸0.32m、深さ0.10mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は1～3mmの炭化物を多く含む。遺物は1層より甕が出土している。

SK418 (図版22, 写真図版15)

7H1・6に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸0.66m、短軸0.50m、深さ0.13mである。覆土はb類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。2・3層は灰色砂質シルトを主体とするが、2層は同色の粘質土をブロック状に含んでいる。遺物は1・2層より甕が出土している。

SK515 (図版22, 写真図版15)

6H25、6I21に位置する。平面形は長方形、断面は半円形である。規模は長軸0.74m、短軸0.56m、深さ0.26mである。覆土はb類で、5層に分かれ、斜位に堆積している。覆土中から甕が出土している。

SK458 (図版22, 写真図版15)

6I18・23に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸0.75m、短軸0.41m、深さ0.28mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は1～3層より鉢(図版29～28)と甕が出土している。

SK505 (図版22, 写真図版16)

7I9に位置する。平面形は不整形、断面は台形状である。重複関係は隣接するP555を切っている。規模は長軸0.94m、短軸0.75m、深さ0.27mである。覆土はa類で、5層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から甕が出土している。

SK215 (図版22, 写真図版16)

8H13に位置する。平面形は円形、断面は箱形である。規模は長軸0.48m、短軸0.47m、深さ0.27mである。覆土はa類で、4層に分かれ、1～3層は炭化物を少量含んでいる。覆土中から甕が出土している。

SK459 (図版22, 写真図版16)

6G22、7G2・3に位置する。調査区外へ広がるため全体の形状は不明瞭ではあるが、平面形はおおよそ円形である。断面は皿形である。規模は長軸2.24m、短軸推定1.40m、深さ0.09mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は4～5mmの炭化物を多く含む。遺物は1・2層より出土しているが、特に1層からの出土が多い。甕・壺・鉢・高杯(図版29～29～35・図版30～36～38)が出土している。

4) SD (溝)

SD447 (図版23, 写真図版16・17)

6G18・19・20・23・24・25、6H16、～25、6G18・23、7G4・5、7H1に位置する。軸方向はN-85°-Eを指す。規模は長軸13.55m、短軸7.45m、深さは0.19mで、断面は皿形を呈する。底部にはところどころ凹凸が見られる。覆土はa類で、レンズ状堆積をなす。この溝を境にするように北側では遺構が極端に少なくなることから、何らかの区画的性格を有する可能性が考えられる。遺物は甕、壺、鉢、高杯、器台(図版30～39～53)が出土しており、特に1層からの出土が多い。

5) SX (性格不明遺構)

SX36 (図版19, 写真図版8)

8F13・14・18・19に位置する。平面形は不整形、断面は皿形である。規模は長軸3.55m、短軸1.50m、深さ0.08mで緩やかに立ち上がる。覆土は腐植物を多く含む灰色粘質土の単層堆積である。出土した土器は全

て瘦の小破片で、磨耗しているものが多い。

SX173 (図版 19, 写真図版 9)

8G1・6に位置する。平面形は不整形、断面は皿形である。SK77、P89・98・146・194・196に切られる。規模は長軸1.80m、短軸1.44m、深さ0.14mである。覆土はb類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物の出土はない。

SX513 (図版 22, 写真図版 17)

6H5、6I1に位置する。平面形は楕円形、断面は台形状である。規模は長軸1.08m、短軸0.69m、深さ0.53mである。覆土はb類で、4層に分かれる。遺物の出土はない。

SX228 (図版 23, 写真図版 16)

7F23、8F3に位置する。調査区外へ広がるため全体の形状は不明瞭である。断面は皿形である。規模は長軸2.76m、短軸推定0.55m、深さ0.05mとごく浅く、緩やかに立ち上がる。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物の出土はない。

SX536 (図版 23, 写真図版 17)

6I11・12・16・17に位置する。平面形は不整形、断面は皿形である。規模は長軸1.89m、短軸1.60m、深さ0.06mである。明確な掘り込みをもたず、灰色粘質土を主体とした覆土の広がりである。遺物は2層より壺(図版30-54)・甕・鉢が出土している。

6) ビット

488基確認されている。7G・8G・8F・9Gグリッド周辺で特に集中的に検出された。遺物が出土したものは多くなく、また遺物があったとしても小片がほとんどである。配列なども平面図などで検討したが、建物を構成しうるのは少ない。ただ、柱列や作業小屋程度の小規模な建物が存在した可能性はある。

本節では、建物として認識できたもの、建物として認識するには至らなかったが柱根などが検出されたもの、図示できる程度の遺物が伴うものを中心として選択し記載した。ただし掘立柱建物に関わるものは1)で扱っている。

P89 (図版 23, 写真図版 18)

8G6に位置する。平面形は楕円形、断面はU字状である。規模は長軸0.38m、短軸0.28m、深さ0.34mである。覆土はa類で、5層に分かれ、レンズ状堆積をなす。底面付近は暗オリーブ灰色の砂質シルトがわずかに粘性をもち、残存長15.0cm、幅2.8cm、厚さ3.2cmの柱根(図版36-1)が検出された。土器などの遺物は出土していない。

P102 (図版 23, 写真図版 18)

8G18に位置する。平面形は円形、断面はU字状である。P107に隣接する。規模は長軸0.25m、短軸0.23m、深さ0.41mである。覆土はa類で、3層に分かれる。底面付近の灰色粘質土から残存長23.3cm、幅3.8cm、厚さ3.4cmの柱根(図版36-2)が検出された。土器などの遺物は出土していない。

P339 (図版 23, 写真図版 18)

8G12・13に位置する。平面形は円形、断面は漏斗状である。重複関係は隣接するP321を切っている。規模は長軸0.22m、短軸0.20m、深さ0.40mである。覆土はa類で、2層に分かれる。底面が確認できなかったため、断ち割ったところ残存長22.3cm、幅5.0cm、厚さ4.4cmの柱根(図版36-6)が検出された。P321の3層からは遺物が出土している。

P204 (図版 24, 写真図版 18)

7G20に位置する。平面形は円形、断面は漏斗状である。規模は長軸0.32m、短軸0.29m、深さ0.37mである。覆土はa類で、4層に分かれ、レンズ状堆積をなす。残存長31.8cm、幅10.2cm、厚さ8.6cmを測る柱根(図

版36-3)が検出された。柱根は南東側にやや傾斜している。掘り方は確認されなかった。遺物は1~3層より甕が出土している。

P394 (図版24, 写真図版18)

7G25に位置する。平面形は円形、断面はU字状である。規模は長軸0.08m、短軸0.08m、深さ0.13mである。柱根は検出できなかったが、柱根と思われる土層が堆積している。覆土中から壺が出土している。

P427 (図版24, 写真図版18)

7H16に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸0.07m、短軸0.07m、深さ0.08mである。柱根は検出できなかったが、柱根と思われる土層が堆積している。遺物の出土はない。

P135 (図版24, 写真図版19)

8H21に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸0.29m、短軸0.28m、深さ0.09mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は炭化物3mm以下を多く含んでいる。遺物は1層より甕、壺が出土している。

P139・P140 (図版24, 写真図版19)

8G12・13・17・18に位置する。P139・140は共に平面形が楕円形、断面は半円形を呈する。重複関係はP140がP139を切っている。P139の規模は長軸0.34m、短軸推定0.24m、深さ0.22m、P140の規模は長軸0.29m、短軸0.23m、深さ0.15mである。覆土はa類で、遺物は1層より甕が出土している。

P189 (図版24, 写真図版19)

8H18に位置する。平面形は楕円形で、断面は半円形である。規模は長軸0.43m、短軸0.34m、深さは0.11mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から甕、高杯が出土しており、このうち1層から、高杯の脚部(図版30-56)が残りのよい状態で出土している。

P98 (図版24)

8G1に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸0.29m、短軸0.27m、深さは0.16mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は高杯(図版30-55)が出土している。

P417 (図版24)

8H6に位置する。平面形が円形、断面は台形状を呈する。規模は長軸0.20m、短軸0.19m、深さ0.20mである。覆土はa類で、2層に分かれる。遺物は1層より甕(図版30-57)が出土している。

P473 (図版24, 写真図版19)

6I16に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形である。規模は長軸0.50m、短軸0.35m、深さは0.17mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は1・2層より甕・壺・鉢(図版30-58)が出土している。

P476 (図版24)

7H5に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸0.26m、短軸0.25m、深さは0.13mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から甕(図版30-59)が出土している。

P498・P500 (図版24, 写真図版19)

7I1・6に位置する。P498・P500は共に平面形が円形、断面は皿形を呈する。重複関係はP498がP500を切っている。覆土はともにa類で、レンズ状堆積をなす。遺物は1・2層より出土しており、P498からは甕、P500からは甕と壺が出土している。またP498の1層からは砥石(図版35-6)も出土している。

P502 (図版24)

7I7に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形である。規模は長軸0.27m、短軸0.21m、深さ0.10mである。覆土は2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から壺と鉢(図版30-60)がまとめて出土している。

第V章 遺物

第1節 遺物の概要

出土遺物総量はコンテナ（内径54.5×33.6×10.0cm）にして約110箱出土した。ほとんどが古墳時代前期の土師器であり、中期と思われる土器も若干認められる。基本層序Ⅲ層中からは京都・信楽産陶器が1点出土している。総破片数は14,143点、総重量98,844.8gである。また、土製品・石製品・木製品が少量存在する。各遺物の出土位置・種別・器種・分類・残存部位・法量・胎土・色調・焼成・調整・遺存率については、別表2に記した。土器については遺存率が高くなくても、口縁形態などが把握できるものは可能な限り抽出し図化するよう努めた。実測図において、土器の赤彩は濃い網目、木製品の欠損は斜線のトーンで表わしている。

第2節 用語の説明と分類

1) 用語の説明

遺物の記述で使用する成形・調整の表現・名称は次のように記述した。

- 1 ハケメ：板の木口面を使い、土器の表面を調整するもので、器面には平行する条線が残される。
- 2 ヘラナデ：ハケメと同様の工具で、調整の際に残る木目の凹凸が明瞭でないもの。
- 3 ケズリ：板状の工具で器面を削るもので、砂礫の移動痕が明瞭に残るもの。
- 4 ミガキ：幅の狭い工具で器面を磨いているもので、工具痕が明瞭に残るものと残らないものがある。
- 5 ナデ：不定方向のなで。回転を用いてなでるものを「ヨコナデ」とした。
- 6 指頭圧痕：指による強い圧痕。

2) 土器分類（第4図）

次に器種分類を行う。主な器種は甕・壺・鉢・高杯・器台・蓋である。分類は器形による分類とし、器種ごとに細分しアルファベットで（A・B・・・・）と表した。さらに細分する場合には数字を用いて表現した。本遺跡は出土量が少なく、個体間でみられるわずかな差異が器種を分ける特徴として捉えられるか判断しづらいものが多いため、ここでは、坂井・川村氏の研究〔坂井・川村1993〕や新潟県考古学会のシンポジウムにおける成果〔新潟県考古学会2005〕を援用しながら、比較的大きな特徴を基本として分類している。なお、高杯は脚部のみの出土が多く、それらについては分類できる特徴が抽出し得たことから、杯部・脚部の各特徴を並存させている。

甕

甕A類：口縁部が「く」字状または「コ」字状に屈曲するもの。

甕A1類：口縁部端部をつまみ上げるもので、端部に明確な面をもつもの。

甕A2類：甕A1類以外の端部に面をもつもの。

甕A3類：口縁部端部を丸くおさめるもの。面取りが明確ではないものも含む。

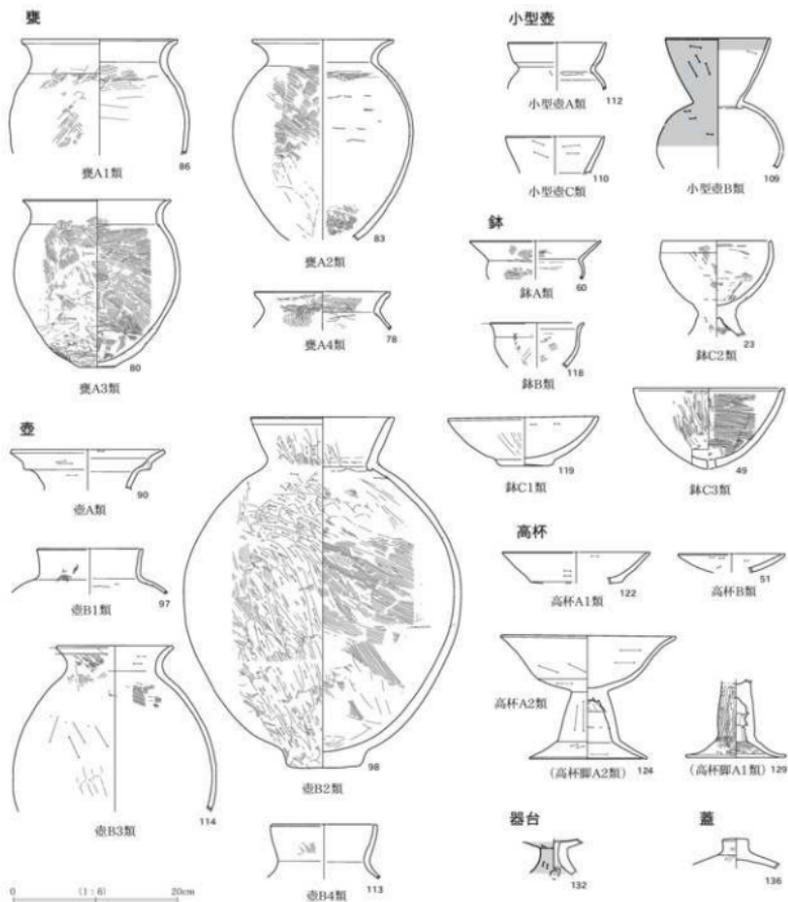
甕A4類：口縁部端部の調整が粗く指頭圧痕が残る。

壺

壺A類：二重口縁壺。

壺B類：口縁部が「く」字状に屈曲するもの。

壺B1類：口縁部が直立か外傾度が小さいもの。



第4図 土器分類図 (S=1/6)

壺B2類：口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもの。

壺B3類：口縁部が外反しながら立ち上がるもの。

壺B4類：口縁部が内湾しながら立ち上がるもの。

小型壺

小型壺A類：有段口縁をもつもの。

小型壺B類：球形の体部に「く」字状に屈曲する長い口縁部をもつもの。

小型壺C類：球形の体部に「く」字状に屈曲する短い口縁部をもつもの。

鉢

鉢A類：碗形の体部に「く」字状に屈曲する口縁部をもつもの。

鉢 B 類：碗形の体部に「く」字状に屈曲する短い口縁部をもつもの。

鉢 C 類：口縁部と体部の境がなく、碗形・砲弾形をしているもの。

鉢 C1 類：平底のもの。

鉢 C2 類：脚をもつもの。

鉢 C3 類：底部が穿孔されているもの。

高杯

高杯 A 類：杯部に段をもつもの。

高杯 A1 類：明瞭な段をもつもの。

高杯 A2 類：ゆるい段をもつもの。口縁部は上部で外反する。

高杯 B 類：杯部に段がないもの。

高杯脚 A 類：いわゆる畿内系柱状屈折脚をもつもの。

高杯脚 A1 類：脚柱が細いもの。

高杯脚 A2 類：脚柱が太いもの。

器台

器台：受部が内湾気味に立ち上がるもの。

蓋

蓋：つまみが中実で横断面形が長方形であるもの。

第3節 出土土器等各説

記述は遺構・包含層等の順に記した。遺構の順序は「第四章第3節遺構」の記述順序に準じる。

A 遺構出土土器

SE8 (図版 28, 写真図版 20)

土師器甕・壺が出土している。このうち甕 (1・2)・壺 (3) を図化した。1 は口縁部の破片で甕 A3 類である。口縁部は直線のみに立ち上がり、口縁上部で外反して「コ」字状を呈する。比較的硬い焼成で、内外面ともにヨコナデされている。2 は口縁部の破片で甕 A2 類である。口縁部の屈曲は緩やかで、端部は弱い面取りを行っている。内外面ともにヨコナデ調整され、外面にはススが付着する。3 は口縁部の破片で形状はやや不明瞭であるが二重口縁壺(壺 A 類)と思われる。端部は面をもつ。胎土は小石を多く含みやや粗い。内面は一部剥落しているが、内外面ともにヨコナデを施す。口縁部内面の上半部にススが付着している。

SE81 (図版 28, 写真図版 20)

土師器甕・壺・鉢・高杯が出土している。このうち甕 (4・5・6)・鉢 (7) を図化した。4 は口縁部から体部上半にかけての破片で甕 A3 類である。口縁部は「く」字状に外反し、体部はあまり張らない。比較的硬い焼成で、海面骨針を少量含んでいる。口縁部は内外面ともにヨコナデで、頸部は強くナデている。体部内面には輪積痕が残り、外面にはススが付着している。5 は口縁部から体部下半にかけての破片で甕 A3 類である。口縁部は「く」字状に外反し、体部は張りがある。口縁部内面の調整はヨコナデで、外面はハケメの後ヨコナデされる。体部の調整は内外面ともハケメで、外面の体部下半ではヘラナデが一部観察できる。体部外面にはススが付着している。6 は甕の体部から底部にかけての破片である。内外面ともにハケメが施されるが、底部付近の内面はハケメの後ナデ消している。体部内外面にはスス・コゲが多く付着している。7 は口縁部から体部にかけての破片で鉢 A 類である。内面に粘土を貼り付け肥厚した口縁部が緩く外反し、身が浅い。一之口遺跡[鈴木ほか 1994]の鉢 C 類と類似するものと思われる。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整であるが、内面はより丁寧なナデである。

体部外面はミガキ調整され、内面はハケメの後ナデ消している。

SE170 (図版 28、写真図版 20)

土師器甕・壺・高杯が出土している。このうち甕(8~11)を図化した。いずれも甕A3類である。8は口縁部から体部上半にかけての破片で、口縁部は「く」字状に外反し、端部は肥厚したま丸く収まる。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部の調整は外面にハケメを施す。9は口縁部の破片で、焼成は若干軟質であり、外面にススが付着している。内外面ともにヨコナデ調整である。11は口縁部から底部まで残る遺存率の高い甕である。肥厚した口縁部がやや直線的に立ち上がり、口縁上部で緩く屈曲して端部付近でさらに外反する。体部は球形を呈し、底部は3.1cmの平底である。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデしている。体部は内外面ともにハケメが施され、内面は丁寧なナデが加えられる。外面には一部ヘラケズリが見られる。体部内面には輪痕が3条ほど明瞭に残り、底部には指頭圧痕が残る。外面にはススが付着している。

SE255 (図版 28、写真図版 20)

土師器甕・壺・鉢・高杯が出土している。このうち甕(12)・高杯(13・14)を図化した。12は口縁部から体部下半にかけての破片で甕A3類で、最大径が口縁部にある。胎土は精良で硬い焼成である。口縁部は内外面ともにヨコナデで、体部は外面がハケメの後ヘラナデ、内面は丁寧なナデが施される。内外面にスス・コゲが付着している。13・14は高杯の屈折脚(高杯脚A類)と思われる。13は高杯脚A1類で、外面の調整はミガキで内面はナデが施される。14は裾付近の立ち上がり急で、端部はあまり広がらない。内外面ともにハケメの後ナデ消しされるが、内面はハケメが弱く残っている。

SE457 (図版 28、写真図版 20)

土師器甕・壺が出土している。このうち甕1点(15)を図化した。口縁部の破片で甕A2類である。口縁部は外反し、端部はつまみ上げている。比較的硬い焼成で、胎土は雲母が目立つ。器面の調整は内外面ともにヨコナデである。

SE491 (図版 28、写真図版 20)

土師器甕・壺・高杯が出土している。このうち甕(16・17)壺(18)を図化した。16は口縁部の破片で甕A3類である。端部は先を尖らせている。器面の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデを施す。17は甕の体部から底部にかけての破片である。底径3.3cmの平底で、体部内外面ともにハケメが施されるが、底部内面はナデが加えられる。内面にスス・コゲが付着している。18は口縁部の破片で甕A3類である。口縁部は「く」字状に外反し、端部は細くなって丸く収まる。胎土はやや粗く、焼成は若干軟質である。内面の調整はヨコナデで、外面はヨコナデの後単位幅が広く浅い斜め方向のハケメが施される。外面にはススが若干付着している。

SK37 (図版 29、写真図版 20・21)

土師器甕・壺・鉢・高杯が出土している。このうち甕(19~21)・壺(22)・鉢(23・24)を図化した。19は口縁部から体部下半にかけての破片で、荒れているため端部はわかりづらいが甕A3類とした。「く」字状に外反した口縁部が上部でさらに外反している。比較的硬い焼成で、口縁部は内外面ともにヨコナデ、体部は内外面ともにハケメが施されるが、外面の頸部付近はナデ消しされる。体部内面には輪痕が3条ほど明瞭に残る。外面にはススが付着する。20は口縁部から体部上半にかけての破片で甕A3類である。19に比べて口縁部が短い。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部はハケメが施される。21は甕で体部から底部にかけての破片である。底部は底径3.7cmの平底である。体部の調整は内外面ともハケメで、内面は強いナデが加えられる。底部内面には指頭圧痕が残る。内外面にスス・コゲが付着している。22は口縁部の破片で壺A類である。端部と内面の一部が欠損しているが、口縁部の段が残っている。口縁部と頸部の接合痕が明瞭に残る。内面は剥落が著しいが、ナデが確認できる。外面はヨコナデの後一部ハケメが施される。23は口縁部から脚部にかけての破片で鉢C2類である。椀状の体部に脚部が付く台付鉢で正尺C遺跡〔土橋^{us}2006〕などに類例がみられる。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデで、体部は内外面ともにヘラナデされる。24は体部下半から底部の破片で底

部穿孔の鉢C3類である。内面の調整はヘラナデで、指頭圧痕も見られる。外面はヘラケズリされており、砂粒の動きが顕著である。

SK231 (図版 29, 写真図版 21)

土師器甕が出土している。このうち1点(25)を図化した。口縁部から体部にかけての破片で甕A3類である。口縁部のくびれ部分が強くナデられるため、口縁部がやや肥厚しているようにみえる。胎土は精良で硬い焼成である。口縁部の調整は内面がハケメの後ヨコナデされ、外面はヨコナデである。体部は内面がヘラナデされ、外面はハケメ調整である。外面にはススが付着している。

SK144 (図版 29, 写真図版 21)

土師器甕・鉢が出土している。このうち鉢1点(26)を図化した。口縁部から底部の破片で鉢B類である。短く内湾気味の口縁が開き、体部は丸みをおびる。口縁部の調整はハケメの後ヨコナデで、体部内面は丁寧なナデが施される。外面はハケメが施される。底部は上げ底気味である。

SK349 (図版 29, 写真図版 21)

土師器甕・壺・鉢が出土している。このうち甕1点(27)を図化した。口縁部の破片で甕A3類である。口縁部はやや直線的に立ち上がり、口縁上部で短く外反して断面形態は「コ」字状を呈する。器面の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデされる。内外面にスス・コゲが付着している。

SK458 (図版 29, 写真図版 21)

土師器甕・鉢が出土している。このうち鉢1点(28)を図化した。口縁から体部にかけての破片で鉢C1類である。最大径が口縁部にあり、薄手のつくりで比較的硬い焼成である。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部内面はナデ、体部外面はハケメの後粗いミガキが施される。

SK459 (図版 29・30, 写真図版 21)

土師器甕・壺・鉢・高杯が出土している。このうち甕(29～32)・壺(33～35)・鉢(36)・高杯(37・38)を図化した。29は口縁部から体部上半にかけての破片で甕A3類である。口縁部はやや直線的に立ち上がり、口縁上部で外反して強く引き出され、断面形態は「コ」字状を呈する。小石などを含んだ胎土は粗く、焼成もやや軟質である。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデされるが、粗いハケメのため小石などが引きずられて器面は荒れている。体部は外面がハケメ、内面はナデが施される。30は口縁部から体部上半にかけての破片で甕A2類である。肥厚した口縁部が「く」字状に外反し、若干丸味をおびた面をもつ。胎土は精良で、口縁部は内外面ともヨコナデで、体部外面はハケメ、内面はナデが施される。外面にはススが付着する。31は頸部から体部にかけての甕A類の破片である。緩く外反し口縁上部に至るが、欠損のため端部の形状は不明である。体部外面はハケメ、内面はヘラナデに近いナデが施される。74と同一個体の可能性がある。外面にはススが付着している。32は口縁部から体部にかけての破片で、甕A3類。直線的に伸びる口縁部が端部付近で緩く屈曲し、わずかに外反する。端部は丸く取まる。胎土は比較的精良で、器面の調整は口縁部が内外面ともにハケメの後ヨコナデ、体部は内外面ともにハケメが施されるが、内面はヘラナデに近い丁寧なナデを加えている。内面には輪積痕が明瞭に残り、内外面にスス・コゲが付着する。33は壺の体部下半から底部の破片である。外面はミガキが施され、赤彩される。内面は底部に細密なハケメを施す。34は球形の体部に長い口縁部をもつと思われる小型壺(小型壺B類)。内面の調整はハケメの後ナデ消しされ、底部には指頭圧痕、輪積痕が明瞭に残る。外面にはミガキが施される。また底部を中心にススが付着している。35は体部の破片で極小型の壺であるが、口縁部の形態は不明。下膨れの体部で最大径は下半にくる。器面の調整は内外面ともにナデで、外面の一部ミガキが施される。36は口縁部から体部下半にかけての破片で鉢C1類である。内湾気味に開き、口縁部はわずかに内傾する。口径に比して身は深い。内面の調整は丁寧なナデで、外面は口縁から体部上半にかけてはハケメの後、粗いミガキを施す。体部下半はヘラケズリが施される。内面には植物痕のようなものが見られる。37は杯部の破片で高杯A1類である。杯底部の径が比較的小さいもので、内外面ともにミガキが施される。38は高杯

の脚部破片で、高杯脚 A1 類。胎土は緻密で硬い焼成である。内外面ともにミガキが施される。

SD447 (図版 30, 写真図版 21・22)

土師器甕・壺・鉢・高杯・器台が出土している。このうち土師器甕 (39～45)・壺 (46・47)・鉢 (48・49)・高杯 (50～52)・器台 (53) を図化した。39・40 は口縁部から体部上半にかけての破片で、39 は甕 A1 類、40 は甕 A2 類。39 は口縁断面形態が「コ」字状を呈した薄手の土器で、胎土には石英、長石が目立つ。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部は内外面ともにナデである。口縁外面にはススが付着している。40 は 39 同様薄手のつくりで、比較的硬い焼成である。39 より曲線的な屈曲で口縁断面形態は「コ」字状を呈し、端部は明確な面をもつ。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部は内外面ともにハケメが施されるが、内面はナデ消しされる。外面にはススが付着する。41 は口縁部の破片で甕 A3 類である。口縁部は直線的に外反し、端部は丸く取まる。内外面ともにハケメの後、ヨコナデされる。内外面にススが付着する。42 は口縁部から体部にかけての破片で、甕 A2 類である。口縁部が「く」字状に外反し、端部は面取りされる。器面の調整は口縁部がハケメの後ヨコナデされるが、外面の頸部付近はハケメがナデ消しされず残るところがある。体部は外面がハケメで、内面は一部剥落しているがナデ調整がみられる。外面にはススが付着している。43 は口縁部から体部上半にかけての破片で甕 A1 類である。口縁部端部はつまみ上げており、体部はやや張る。胎土はやや粗く、焼成もあまく軟質である。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部外面はハケメの後ナデ消しされる。内面はナデ調整で輪痕が明瞭に残る。44・45 は口縁部から体部上半にかけての破片で甕 A3 類である。口縁部の屈曲は曲線的な形状をとる。44 の器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部外面はハケメ、内面はナデが施される。45 は内面にもハケメが施される。端部はやや肥厚している。両者ともに外面にススが付着している。46 は口縁部から体部にかけての破片で、口縁部が「く」字状に強く屈曲外反する壺 B3 類である。薄手のつくりで、胎土には雲母を多く含む。口縁部は内外面ともにヨコナデで、体部外面には幅が狭くて浅い細密な条線が見られるが、ハケメというよりヘラナデに近い調整と思われる。47 は壺の体部下半から底部の破片である。器面の調整は外面に弱いミガキが施され、内面はナデである。内面には輪痕が残る。48 は口縁部から体部上半にかけての破片で鉢 C 類である。胎土には焼土を比較的多く含んでいる。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部外面にはハケメが施される。49 はほぼ完形で鉢 C3 類である。砲弾型を呈し、焼成前に底部を穿孔している。焼成は若干軟質で、外面は一部剥落している。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデ、体部は内外面ともにハケメが施されるが、外面はナデ消しされる。50 は杯部の破片で高杯 A1 類である。口縁部は直線的に外反し、身が深い。胎土は緻密で、焼成も良好である。器面の調整は内外面とも丁寧なミガキであるが、内面口縁付近には弱いハケメが残る。51 は杯部の破片で高杯 B 類である。杯部は浅く碗形を呈し、棒状の細い脚部が付くものと思われる。内外面ともに丁寧なミガキ調整で、胎土も精良である。52 は高杯脚 A 類の破片である。裾付近で「ハ」字状に開脚し緩やかに外反する。内面の調整はケズリ、裾付近ではハケメが施され、外面はミガキが施される。53 は器台の脚部破片である。外面はハケメの後丁寧なミガキを施し、赤彩される。内面はハケメの後、ナデ消しされるが、脚部下半はハケメが弱く残る。上部はケズリが施され、異なる調整間に若干段が生じている。

SX536 (図版 30, 写真図版 22)

土師器甕・壺・鉢が出土している。このうち壺 1 点 (54) を図化した。有段口縁をもつ薄手の土器で小型壺 A 類である。内外面ともにヨコナデ調整である。

P98 (図版 30, 写真図版 22)

土師器高杯 (55) が 1 点出土している。55 は高杯脚 A2 類の破片である。裾付近で「ハ」字状に開脚し、裾部先端で緩やかに外反する。胎土は粗砂粒を多く含んでおり、焼成もあまく軟質である。内外面ともに摩耗・剥落がみられるが、外面の調整はミガキで、内面はナデである。

P189 (図版 30 写真図版 22)

土師器甕1点と高杯1点が出土した。このうち高杯(56)を図化した。脚部の破片で、高杯脚A2類である。胎土は非常に緻密で調整も丁寧である。脚内面の輪積痕をナデ消し、裾部との接合面を強くヘラナデしている。裾付近にはハケメが少し残る。外面は丁寧なミガキを施す。

P417 (図版30, 写真図版22)

土師器甕(57)が1点出土している。口縁部が「コ」字状に外反し、端部は丸く取まることから甕A3類とした。器面の調整は内外面ともにヨコナデであるが、内面には調整時に胎土中の小石などを引きずったため凹凸がみられる。外面にはススが付着している。

P473 (図版30, 写真図版22)

土師器甕・壺・鉢が出土している。このうち鉢(58)を図化した。口縁部から体部下半にかけての破片で鉢C類である。胎土には海面骨針を比較的多く含み、器壁は厚い。器面の調整は口縁部、体部ともに丁寧なナデで一部ミガキが観察できる。内面は光沢を帯びた黒色を呈している。

P476 (図版30, 写真図版22)

土師器甕が3点出土している。このうち1点(59)を図化した。口縁部の破片で甕A1類である。口縁部はやや直線的に立ち上がり、口縁部は「コ」字状で外反して、端部は水平に近い状態で引き出される。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、頸部外面はハケメ調整である。外面にはススが付着する。

P502 (図版30, 写真図版22)

土師器鉢(60)が1点出土している。口縁部から体部上半の破片で、浅く内湾する体部に外反して長く伸びる口縁部が付く。鉢A類。器壁はきわめて薄い。口縁部は内外面ともにハケメの後ヨコナデされ、体部外面の調整はハケメの後ヘラなどの工具によるナデが施される。

B 遺構外出土土器 (図版31～35, 写真図版22～25)

包含層、試掘調査出土遺物を一括して紹介する。

61～87は甕である。61は甕A3類である。直線的に伸びる口縁部が端部付近でわずかに屈曲し丸く取まる。器壁は非常に厚く、焼成はやや軟質である。口縁部の調整は内外面ともヨコナデで、体部は内外面ともにハケメの後ナデ消している。外面にはススが付着している。62・63も甕A3類で、いずれも断面形態が「コ」字状を呈する口縁部から体部にかけての破片である。両者は薄手の土器で、比較的焼成の硬いものであるが、被熱のためか器面がもろい。63の胎土はやや粗く、雲母が目立つ。これらの外面にはススが付着する。64～67は甕A2類で、断面形態が「コ」字状を呈する。64は口縁部の破片で内外面ヨコナデ調整である。外面にヘラ状工具で刻んだような爪形の刻みがみられる。65・66は口縁から体部にかけての破片で、強く屈曲して外方に至るラインが「く」字状に近い。調整は口縁部が内外面ともにヨコナデ、体部外面はハケメ、内面はナデが施される。67は直立気味に立ち上がる口縁部が上方で屈曲外反する。口縁部下半は若干肥厚している。外面にはススが付着している。68は甕A1類で口縁部の破片である。68の端部は明確につまみ上げていて、幅の広い面をもつ。胎土は粗く、内面は摩耗しているが、内外面ともにヨコナデである。69～74は甕A3類で、口縁部が「く」字状に外反し、端部が丸く取まるものである。69は球形の体部に緩く外反する口縁部が付く小型の甕である。粗い砂粒を多く含んだ胎土で、焼成もやや不良である。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデされ、体部外面はハケメ、内面はハケメの後ナデ消しされる。内外面にスス・コゲが付着している。70は口縁部下半を肥厚させ、全体的に厚手のつくりである。焼成はやや軟質で、器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部外面はハケメ、内面はナデである。71は体部がやや細身の器形で、2次的な被熱のためか器面に剥落がみられる。外面にはススが付着している。口縁部の調整は内外面ともにハケメで、端部はヨコナデを加える。体部外面にケズリを施すが、胎土がやや粗いために、器面に調整時に小石などが引きずられた凹凸がみられる。内面はハケメで、下半はその後ナデを加えているが、内面に輪積痕が残る。72は小型で、やや細身の甕である。口

緑部の屈曲は緩く、口縁部が短く外反する。比較的厚手で、口縁部は内面にハケメ、外面にナデがみられる。体部は外面がやや粗いハケメ、体部内面がハケメの後ナデ消しが施される。ほぼ完形。73は「く」字状に外反する口縁部がやや長く外方に伸びる薄手の土器である。内面は摩耗が激しいが、ハケメの後ナデが施されている。外面は細密なハケメが施され、端部をヨコナデしている。外面にはススが付着している。74は口縁部の破片で、褐灰色を呈する厚手の土器である。胎土はやや粗く、口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデである。外面にはスス・コゲが付着している。75は体部から底部の破片で球形状の体部をなすやや小ぶりの甕である。底部は底径が3.3cmの平底である。器壁は比較的薄く、器面の調整は内外面ともにハケメで、体部外面にはヘラ状の工具で一部ナデ消したような跡が観察できる。外面にススが付着している。76は甕A2類で、断面形態が「く」字状を呈する甕である。胎土は精良で、硬い焼成である。口縁部外面はハケメの後ヨコナデ、内面はヨコナデ、体部外面は細密なハケメが施される。77・78は甕A4類で、口縁部に指頭圧痕が残る、端部が小波状を呈す。どちらもヨコナデはされず、口縁部内面にはハケメが残る。反貫目遺跡[寺崎2004]などに類例がみられるものである。77の口縁部内面に施されたハケメは細密であるが、体部外面はそれに太く粗いもの加わる。体部内面はナデで、体部下半からはケズリに似た強いヘラナデを施す。外面にはススが付着している。78は端部をつまみ上げていて、不規則に指で押えている。口縁部は内面に粘土を貼り付け肥厚させており、内外面ともハケメが施される。79～81は甕A3類で、79・80はほぼ完形である。79はやや肥厚した口頸部に球形を呈する体部が付く小型の甕である。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデされ、体部外面はハケメ、内面はハケメの後ヘラ状の工具でナデ消している。内外面ともに被熱のためか器面の荒れ、剥落が著しく、外面にはススが付着している。80は肥厚した口縁部が緩く屈曲し、体部は球形に近い。底部の形態は底径3.9cmの平底である。胎土は粗く、小石混じりの粗い砂粒を多く含んでいる。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデ、体部は内外面ともにハケメで、外面の底部付近ではケズリが施される。体部内面には輪積痕が残る。81は口縁部下半が粘土の貼り付けによって肥厚している。胎土は精良で、硬い焼成である。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整され、体部の外面にはかなり細密なハケメが施される。82～85は甕A2類である。82は口縁部が直立気味に立ち上がり、上部で外反する。比較的硬い焼成で、焼土粒が目立つ。体部の内面には輪積痕が明瞭に残る。83は口縁部から体部下半にかけての破片で、曲線的に屈曲する口縁部に長胴の体部が付く。全体的に薄手の土器で、内外面ともに被熱のためか剥落がみられる。口縁部内面は摩滅しているが、ヨコナデが観察できる。体部外面はハケメであるが、体部下半はケズリに近いヘラナデが施される。内面は頸部付近と体部下半にハケメが残るが、その他は丁寧なナデである。外面にススが付着する。84は口縁部が浅い「コ」字状を呈しているもの。厚手の土器で、胎土は精良である。外面にはススが付着している。85は口縁部が緩く曲線的に屈曲するもので、端部の面は幅が狭い。全体的に薄手のつくりであるが、胎土は粗く、雲母が目立つ。外面には細密なハケメ調整後、一部ナデ消しがなされる。86は甕A1類で口縁部から体部の破片である。肥厚した口縁部が曲線的に外反し、端部付近で若干引き出されて端部はつまみ上げている。胎土は雲母が目立ち、小石や砂粒が多い。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部内外面はハケメの後ナデ消しされる。体部外面はところどころ剥落がみられ、器面が荒れている。またススが若干付着している。87は口縁部の破片で甕A2類である。口縁部は緩く外反して長く伸びる。口縁部上半はヨコナデが施されるが、内面にハケメがわずかに残る。口縁部下半・体部にハケメがみられ、外面にはススが付着している。

88～98・113・114は壺である。88～95は口縁部から頸部にかけての破片で、二重口縁の壺A類である。89は頸部の上端面に接合面補強のためのヘラ状工具による刻み目がめぐる。胎土は精良で、海面骨針を比較的多く含んでいる。内面はハケメの後ヨコナデ、外面はヨコナデ調整である。90は口縁部と頸部の接合痕が明瞭で、器面の調整は内外面ともにヨコナデの後、粗いミガキを施している。91も90同様、口縁部と頸部の接合痕が明瞭にみられる。端部はやや引き出されて面取りしている。胎土に海面骨針を多く含み、内外面ともに丁寧なミガキ調整である。92は胎土がやや粗く、焼成も軟質である。内面は剥落が著しいが、内外面ともにミガキ調整

と思われる。93は試掘調査時の18トレンチから出土したものである。内面は摩耗していて不明瞭ではあるが、内外面ともにヨコナデ調整であろう。94はやや厚手の土器で、端部は欠損している。内面はオリーブ黒色を呈し、胎土は精良である。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデ、頸部は内外面ともにハケメが残る。95は口縁部に明確な段をもっておらず、頸部と口縁部の接合部がわずかに突出している。端部は面をもつ。比較的硬い焼成で、内外面ともにヨコナデ調整である。96～98は「く」字状に屈曲する壺B類である。96は口縁上部を欠損しているが、直立気味の口縁部をもつことから壺B2類とした。肥厚した口縁部に球形の体部が付くものと思われる。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデしている。97は薄手の土器で、やはり壺B1類であるが、やや短めの口縁部である。球形の体部が付くものと思われる。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部外面は細密な条線が直線的にみられることから、ハケメの後ヘラ状の工具を用いてナデしていると推測される。98はほぼ完形の大型の壺で、壺B2類である。口縁部は「く」字状に外傾し、体部は倒卵形を呈する。胎土は海面骨針を多く含み、精良である。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデ、体部はハケメで、外面はその後頸部付近からミガキが施される。113は口縁部の破片で壺B4類である。口縁部は上方に内湾気味に伸びる。器面の調整は内面がヨコナデ、外面はハケメの後ナデ消しされる。114は口縁部から体部下半にかけての破片で壺B3類である。口縁部は「く」字状に外反し、広口である。体部は倒卵形を呈する。胎土には海面骨針を含み、石英がやや目立つ。器面の調整は口縁部の内面がミガキ、外面はハケメの後ナデ消しされるが、頸部付近はハケメが弱く残る。体部はハケメの後ミガキが施される。

99～107・118・119は鉢である。99・101・102は鉢A類、100・103・118は鉢B類、104・106・107・119は鉢C類。99は口縁部から体部の内面に粘土を貼り付け肥厚させている。身はやや浅い。外面はミガキが施される。100は口縁部が短く外反し、内外面ともにヨコナデされる。体部外面は丁寧なミガキが施される。101は100より長い口縁部をもち、「く」字状に外反する。内面の調整はミガキまたはミガキに近い丁寧なナデで、光沢を帯びた黒色を呈する。102は体部の破片で、薄手のつくりである。胎土は精良で、雲母が目立つ。器面の調整は内面がナデ、外面はミガキが施される。103は短い内湾気味の口縁部をもち、体部は丸みをおびる。器壁はきわめて薄く、胎土は精良である。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデ、体部の外面はハケメ、内面は丁寧なナデが施される。104は丸みを帯びて内湾する浅い椀形を呈している。口縁部は内外面ともにヨコナデ、体部外面は縦方向のハケメが施される。105は体部から底部の破片で、鉢A類の可能性がある。体部内面はナデ、外面はミガキが施される。底径は2.3cmで、底部付近はケズリが観察できる。106は身が深く、椀形を呈する。胎土には雲母を比較的多く含む。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデ、体部はナデを施す。107は底部穿孔の鉢C3類である。胎土はやや粗い。底部の調整は内外面ともハケメで、外面はミガキが加わる。118は鉢B類で、頸部を強くヨコナデして、口縁部を緩やかに外反させている。内外面ともに丁寧なナデを行っており、内面にはミガキもみられる。119は鉢C1類でほぼ完形である。口徑に対して身が浅く、底部はやや出っばる。内外面ともにハケメの後、ナデ消しされる。

108～112・115・116・117は小型壺である。108は小型壺B類の口縁部の破片で、胎土は精良である。器面の調整は外面がミガキで、内面はハケメ調整であるが、上部はナデが加えられる。109は口縁部から体部下半にかけての小型壺B類である。扁平な体部にやや内湾気味に伸びる長い口縁部が付く。器壁は薄く、胎土には海面骨針を含む。口縁部は内外面ともにヨコナデの後ミガキ、体部外面もミガキ調整で、外面の口縁部から体部上半までと口縁部上半の内面に赤彩が施される。体部内面はナデである。110は小型壺C類の口縁部破片で、球形の体部をもつものと思われる。胎土は粗く、焼成は軟質である。内外面ともにミガキが施される。111は小型壺Cの口縁部から底部まで残る遺存率の良好なもので、球形の体部に有段気味に内湾する口縁部がつく。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、外面はさらにミガキが加えられる。体部は内面がナデ、外面はハケメの後ミガキが施される。112は口縁部から体部にかけての破片で、有段口縁をもつ小型壺A類である。内外面ともに丁寧なナデで、外面は一部ミガキが施される。115・116は小型壺C類である。同じ器種とした110・

111 に比べ口縁部がやや短めで内湾気味に立ち上がる。115 は胎土に海面骨針を含み、精良である。口縁部の調整はハケメの後ヨコナデ、体部内面はハケメ、外面はナデ調整である。116 は内外面ともミガキが施され赤彩される。胎土は精良で比較的硬い焼成である。117 は壺の底部破片で、全体の形状は不明であるが小型の壺であるだろう。内面はナデで、外面はミガキ調整であるが一部剥離している。

120 ~ 131・133 ~ 135 は高杯である。120 ~ 123 は高杯 A1 類で、杯底部の径が小さいほど深くなる傾向がある。120 は内外面ともに丁寧なミガキ調整であるが、121 は外面の弱いミガキが施される。122 は口縁が直線的に開き、外面の調整はミガキで、内面は丁寧なナデが施される。123 は杯部の内面と脚部外面にミガキがみられる。124・126 は高杯 A2 類（高杯脚 A2 類）で、ほぼ完形である。口縁端部で緩く外反する椀状の杯部で、脚部は裾部で大きく外反し、脚上部が曲線的な影らみをもつ。器面の調整は杯部が内外面ともに横または斜め方向のミガキ、脚上部の外面は縦方向のミガキ、裾部は横または斜め方向のミガキが施される。内面には輪積痕が明瞭に残る部分がある。126 は杯部外面と脚部外面にミガキがみられる。125・127 ~ 129・135 は脚 A1 類、130・131・133・134 は脚 A2 類である。125 の外面は丁寧なミガキが施され、内面はヘラナデによって輪積痕をナデ消し、器壁の厚さを均一にしている。127 の外面の調整は弱いミガキで、裾付近の内面には接合痕が残る。128 の外面はハケメの後、横方向の粗いミガキが施される。129 は細身の脚部で、裾付近でやや内湾気味に開く。脚上部外面は縦方向の丁寧なミガキが施され、裾部では横または斜め方向のミガキが施される。内面には輪積痕が消されずに明瞭に残っている。裾部内面はハケメの後、ナデ消しされる。130・131 は、外面はミガキ、内面はナデが施されているが、内部には輪積痕が残る。133 は杯部の立ち上がりやや急なもので、杯部内面・脚部外面に弱いミガキが施されている。134 は脚部の破片である。磨耗しているが、器面の調整は内外面ともナデのみで、内面の輪積痕が明瞭に残る。135 は脚部の破片で外面は磨耗しているが、ミガキ調整である。内面はナデで丁寧な調整である。

132 は器台である。受部から脚部にかけての破片である。受部中央は穿孔されており、外反して立ち上がる。外面の調整はミガキで、赤彩されている。

136 は蓋で、直線的に伸びる体部に上面が平らなつまみを有する。外面はハケメの後、ナデ消しされる。内面はナデである。

C 土製品 (図版 35、写真図版 26)

137 ~ 142 はミニチュア土器である。全て包含層からの出土である。137 ~ 138 は鉢形のミニチュアである。137 の口縁端部は擴んで緩く外反させている。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部外面はハケメの後、一部ナデ消しされる。内面はナデで、輪積痕が明瞭に残る。138 も同様に口縁部を擴んで外反させている。底部は平底である。内外面ともに丁寧なナデが施され、底部外面には黒斑がみられる。139 は口縁部が欠損している。外面はハケメの後、ミガキが施される。140 は壺形のミニチュアで、ほぼ完形である。外面の調整はハケメで底部はケズリが施される。内面はナデで輪積痕が残っている。外面には黒斑がみられる。141 は手づくね成形で外面には黒斑がみられる。142 は手づくね土器に近いものである。

D 石製品 (図版 35、写真図版 26)

石製品は勾玉・管玉・白玉などの玉類の他に砥石などが出土している。詳細な数値などは別表 3 に示した。

(1) 玉類 (図版 35、写真図版 26)

勾玉 (1) 1 点、管玉 (2) 1 点、白玉 (3 ~ 5) 3 点が出土している。勾玉と管玉は包含層 (勾玉は 8G9、管玉は 9F4 グリッド) から出土しており、管玉は未完成品であることからその出土地点周辺の土壌を 50cm メッシュを組んで採取し洗浄を行ったが、製作過程を示すような剥片はみつからなかった。

1 は勾玉の完成品である。頭部の穿孔は一方から行われる。断面は楕円形を呈している。石材は蛇紋岩である。

2は管玉の未成品である。多角柱状を呈し、8面の研磨面を残す。両面より穿孔がなされているが、貫通はしていない。石材は緑色凝灰岩である。(半円形のリングが観察でき、角柱状の素材を作るために剥離したものと考えられる?) 白玉は全て遺構から出土しており、3・4はSE81、5はSE255から出土している。3点とも完成品であり、いずれも直径4～5mm、孔径1～2mmほどのビーズ状の玉であるが、5は厚さ1mmときわめて薄い。石材は全て滑石である。

(2) 砥石 (図版35、写真図版26)

6は小型の手持砥石としての使用が考えられる。直方体を呈し、5面に砥面が残る。石材は泥岩である。P498の1層から出土した。7・8・9は軽石製石製品である。8は不整形で扁平な石の表裏に不定方向の擦痕がみられる。また表面中央付近には直径1cm程度のほぼ同じ大きさの穿孔した痕が2箇所みられる。7・9は円礫に擦痕が残るものである。7は多面体で、各面に不定方向の擦痕が残る。9は楕円形の扁平な形状で、表面に擦った痕跡がみられる。すべて包含層からの出土である。

E 木製品 (図版36、写真図版26)

8点の柱根が検出されており、全てビットからの出土である。このうち2点は遺存状態が悪く実測しなかったが、残りの6点を図化し掲載した。詳細な数値などは別表4に示した。

1はP89から出土した柱根で、15cm程度しか遺存していないが、残存部の状態は比較的良好である。底部は欠損しており、加工の有無は観察できない。木取り方法は丸材が使用されている。P102出土の2も同様の形状を呈すが、残存長が23.3cmと残りがよい。片側だけを削り加工を施している。3・6は建物としては確認できなかったが、3はP204、6はP339出土の柱根である。ともに丸材の柱で、3は残存長31.8cm、幅10.2cm、厚さ8.6cmと本遺跡で出土した木製品の中で最も大きい。先端部と底部は欠損している。4・5はSB2の柱根で、4はP258、5はP383からの出土である。4の底面は縁辺から中心に向かって加工を施しており、全面に渡って加工が施されるものと推測する。5は割材で、底面は鋭角に削られている。6は加工痕が不明。

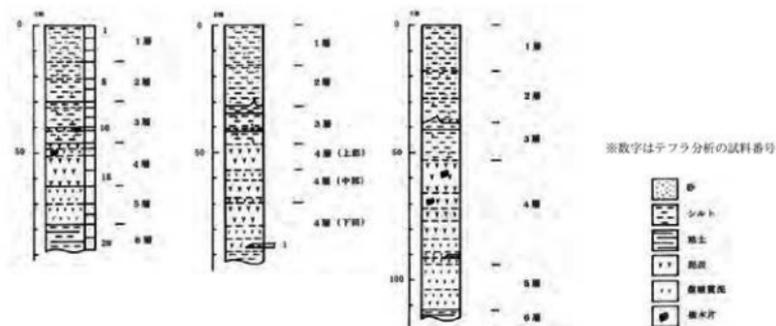
F 近世の遺物 (図版35、写真図版26)

Ⅲ層から京都・信楽産陶器が出土している(143)。体部のみであるが、小型の色絵椀で、半球形に近い丸形を呈す。胎土は緻密でやや硬質感があり、灰白色をしている。体部外面に朱色に近い赤と緑で草花文と思われる文様を施す。18世紀所産のものであろう。

第VI章 自然科学分析

第1節 土層とテフラ

新潟地域とその周辺の沖積層や土壌には、妙高、浅間、沼沢など新潟県やその周辺の火山のほか、遠く九州地方の火山から噴出したテフラが挟在されている。それらの多くについては噴出年代が明らかにされており、過去の時空指標としての利用が可能となっている。そこで、テフラの可能性のある土層が検出された上大川遺跡でも、地質調査を行って土層の層序や柱状図にして記載するとともに（第5図）、テフラ検出分析、火山ガラスの屈折率測定および主成分化学組成分析を実施して、指標テフラの検出同定を行った。



第5図 各地点（①・②・③）の土層柱状図

A テフラ検出分析

1) 分析試料と分析方法

採取された試料のうち15試料を対象に、テフラ検出分析を行って含まれるテフラ粒子の量や特徴の把握を行った。分析は、1) 適量の試料15gについて超音波洗浄を行い泥分を除去、2) 80℃で恒温乾燥、3) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴の把握、という手順で実施された。

2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第1表に示す。①地点では、試料20・試料18・試料16・試料6・試料2で火山ガラスが認められた。そのうち、試料20および試料18には比較的多くの軽石型ガラスや平板状のいわゆるパブル型火山ガラスが含まれている。これらの火山ガラスの色調は無色透明あるいは淡褐色である。SE457の試料2やSE491周辺地点の試料1にも、同じような火山ガラスが比較的多く含まれている。調査区南部の6層上面の試料には、無色透明や白色の軽石型ガラスが含まれているものの、その量は少ない。

第1表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア		火山ガラス	
		量	色調	量	色調
①地点	2	+		pm	白
	4				
	6			bw	淡褐
	8				
	11				
	12				
	13				
	15				
	16			pm	透明
	18			pm	透明、淡褐
20			pm,bw	透明、淡褐	
②地点	1				
SE457	2			pm,bw	透明、淡褐
調査区南部6層上面				pm	透明、白
SE491 周辺	1			pm,bw	透明、淡褐

+: 多くに多い, -: 多い, =: 中程度, * 少ない, 最大径の単位はmm, bw: パブル型, md: 中間型, pm: 軽石型.

B 屈折率測定

テフラ検出分析により比較的多くの火山ガラスが検出された試料のうち、3 試料に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質製 MAIOT）による屈折率（ n ）の測定を実施して、指標テフラとの同定精度の向上を図った。その結果を第2表に示す。①地点の試料 18 に含まれる火山ガラス（32 粒子）の屈折率（ n ）は、1.497-1.501 である。SE457 の試料 2 に含まれる火山ガラス（33 粒子）の屈折率（ n ）は、1.499-1.502 である。SE491 周辺地点の試料 1 に含まれる火山ガラス（30 粒子）の屈折率（ n ）は、1.499-1.501 である。

C 火山ガラスの主成分化学組成分析

屈折率測定の対象となった 3 試料を対象に、火山ガラスの起源をより詳しく調べるために波長分散型エレクトロンプローブ X 線マイクロアナライザー（WDS 型 EPMA と呼ぶ）による主成分化学組成分析を実施した。分析に使用した分析機器は、山形大学理学部の日本電子 JXA8600MWD 型 EPMA で、加速電圧 15kV、照射電流 0.01 μ A、ビーム径 5 μ m の条件で行った。また、補正法には Oxide ZAF 法を用いた。結果を第 3～6 表に示す。それぞれの試料において、複数のグループに分類される火山ガラスが検出され、多くのテフラに由来する火山ガラスが混在していることが明らかになった。

D 考 察

分析の対象となった試料に多く含まれる火山ガラスは、その形態、角閃石が多いこと、さらに屈折率などから、約 5～5.5 万年前以前に沼沢火山から噴出した沼沢金山テフラ（Nm-Nn、鈴木・早田、 n : 1.498-1.502）に二次的に由来する可能性が高い。また、約 5,000 年前（放射性炭素 (14 C) 年代）に沼沢火山から噴出した沼沢テフラ [Nm-N、 n : 1.500-1.505、只見川第四紀研究グループ 1966a・1966b、町田・新井 2003] やそれに関係した火山泥流に由来するテフラ粒子が

第2表 屈折率測定結果

地点名	試料・テフラ	火山ガラス	
		屈折率 (n)	測定点数
①地点	試料 18	1.497-1.501	32
SE457	試料 2	1.499-1.502	33
SE491 付近	試料 1	1.499-1.501	30
指標テフラ	十和田 A (To-a)	1.496-1.508	
	沼沢川 (Nm-N)	1.500-1.505	
	十和田ハチ (To-H)	1.502-1.509	
	茂島鼻黄色 (As-YP)	1.501-1.505	
	鴨子湖頂上原 (NK-U)	1.492-1.500	
	船倉 Tn (AT)	1.498-1.501	
	十和田不登 (To-Of)	1.505-1.511	
	沼沢金山 (Nm-Kn)	1.498-1.502	
	新橋 4 (Aso-4)	1.506-1.510	
	板木次 (SK)	1.496-1.498	
新橋 (Toya)	1.494-1.498		

屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置（RIMS2000）による。指標テフラの屈折率は、町田・新井（2003）による。

第3表 ①地点試料 18 に含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果

グループ	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total
グループ A	79.01	0.16	12.21	0.90	0.05	0.09	0.47	3.24	3.81	0.05	100.00
	79.77	0.09	12.79	0.70	0.14	0.08	0.32	2.92	3.16	0.03	100.00
	79.28	0.18	11.96	0.83	0.09	0.18	0.99	3.05	3.38	0.05	100.00
	79.06	0.19	11.62	1.19	0.00	0.13	1.05	3.21	3.54	0.00	100.00
	79.24	0.03	12.48	0.66	0.10	0.09	0.54	3.62	3.13	0.11	100.00
平均	79.27	0.13	12.21	0.86	0.08	0.12	0.67	3.21	3.41	0.05	100.00
標準偏差	0.30	0.07	0.45	0.21	0.05	0.04	0.33	0.26	0.28	0.04	
グループ B	79.27	0.12	11.77	1.03	0.17	0.17	0.91	3.67	2.77	0.12	100.00
	79.95	0.19	11.85	1.16	0.13	0.16	0.87	3.16	2.42	0.10	100.00
平均	79.61	0.16	11.81	1.10	0.15	0.16	0.89	3.41	2.59	0.11	100.00
標準偏差	0.48	0.05	0.66	0.09	0.03	0.01	0.03	0.36	0.25	0.01	
グループ C	77.92	0.03	12.31	0.88	0.06	0.02	0.75	2.93	5.05	0.05	100.00
	78.09	0.04	12.40	0.97	0.04	0.06	0.76	2.92	4.66	0.06	100.00
平均	78.01	0.03	12.36	0.92	0.05	0.04	0.75	2.92	4.86	0.05	100.00
標準偏差	0.12	0.00	0.07	0.06	0.01	0.03	0.01	0.20	0.28	0.01	
グループ D	78.98	0.06	12.22	0.96	0.11	0.05	0.43	2.46	4.73	0.00	100.00
	78.50	0.02	12.42	0.75	0.12	0.04	0.37	2.59	5.16	0.02	100.00
平均	78.74	0.04	12.32	0.85	0.12	0.05	0.40	2.53	4.95	0.01	100.00
標準偏差	0.34	0.03	0.14	0.15	0.01	0.01	0.04	0.09	0.30	0.01	

第4表 SE457 試料 2 に含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果

グループ	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total
グループ A	78.39	0.18	12.00	1.15	0.05	0.25	1.29	3.28	3.39	0.03	100.00
	79.01	0.28	11.76	1.10	0.12	0.19	0.85	3.69	3.00	0.00	100.00
	79.11	0.21	12.15	1.06	0.11	0.19	0.96	2.97	3.23	0.00	100.00
	78.84	0.21	12.21	1.19	0.00	0.12	1.16	3.05	3.16	0.05	100.00
	78.88	0.28	11.75	1.28	0.07	0.17	1.02	2.86	3.69	0.02	100.00
	78.97	0.16	11.94	0.93	0.24	0.16	0.93	3.54	3.13	0.00	100.00
	78.91	0.16	11.98	1.06	0.13	0.17	0.93	2.88	3.77	0.00	100.00
平均	78.87	0.21	11.97	1.11	0.10	0.18	1.02	3.18	3.34	0.01	100.00
標準偏差	0.23	0.05	0.18	0.11	0.08	0.04	0.15	0.33	0.29	0.02	
グループ B	78.20	0.09	13.31	0.43	0.13	0.12	0.43	3.70	5.32	0.07	100.00
	79.23	0.32	11.80	1.21	0.02	0.22	1.23	3.05	2.89	0.02	100.00
グループ C	79.63	0.06	12.45	0.74	0.06	0.04	0.40	1.64	4.97	0.00	100.00
	79.83	0.07	12.49	0.63	0.07	0.03	0.44	1.79	4.64	0.02	100.00

第5表 SE491 周辺試料 1 に含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果

グループ	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total
グループ A	78.99	0.25	11.58	1.40	0.04	0.17	1.01	3.05	2.49	0.02	100.00
	79.06	0.25	11.86	1.02	0.07	0.13	0.91	3.68	3.01	0.00	100.00
	78.70	0.13	13.03	0.54	0.15	0.13	0.62	2.90	3.77	0.03	100.00
	78.79	0.21	11.70	1.25	0.07	0.15	1.04	3.17	3.57	0.05	100.00
	78.90	0.21	11.83	1.43	0.00	0.23	1.44	2.92	2.98	0.06	100.00
	79.05	0.14	12.25	1.16	0.09	0.00	0.92	2.53	3.84	0.03	100.00
	78.53	0.19	12.05	0.95	0.08	0.18	1.23	3.24	3.53	0.00	100.00
平均	78.86	0.20	12.04	1.11	0.07	0.14	1.02	3.07	3.46	0.03	100.00
標準偏差	0.20	0.05	0.49	0.31	0.04	0.07	0.26	0.35	0.34	0.02	
グループ B	79.43	0.17	12.12	0.80	0.20	0.18	0.97	3.38	2.73	0.02	100.00
グループ C	78.77	0.09	12.36	0.78	0.03	0.07	0.39	2.82	4.60	0.09	100.00
	78.11	0.09	12.21	1.32	0.02	0.02	0.69	2.71	4.78	0.00	100.00
グループ D	79.95	0.23	11.49	0.77	0.16	0.18	1.30	2.91	3.09	0.02	100.00

混在している可能性もあるのかも知れない。

新潟市域周辺における奈良平安時代の編年研究においては、福島市域以北の東北地方に広く分布する十和田 a テフラ [To-a, 大池 1972, 町田ほか 1981, 町田・新井 2003 など] の検出が期待されている。今回検出された火山ガラスの屈折率だけを見ると、とくに東北地方南部で検出される To-a の火山ガラスの屈折率 (n : 1.500-1.503 程度) によく似ているものの、検出された火山ガラスの主成分化学組成は To-a のそれとは異なる。まだ、新潟市域で明確に To-a 起源とみなされるテフラ粒子の検出例はないものの、本地域に降灰している可能性は十分考えられることから、試料 18 は To-a より下位にあることを示唆しているのかも知れない。なお、SE457 の試料 2 のなかに 1 粒子、約 1.3 ~ 1.4 万年前 (放射性炭素 (¹⁴C) 年代) に浅間火山から噴出した浅間草津黄色軽石 [As-YPk, 新井 1962, 町田・新井 2003 など] に由来する可能性のある火山ガラスが認められた。

さらにテフラの保存状態の良い地点での詳細なテフラの観察を分析測定により実施し、新潟平野における To-a の産状を把握し、今後の詳細な編年研究に利用できるようにすることを期待したい。

第2節 放射性炭素 (¹⁴C) 年代測定

A 測定試料と測定方法

上大川遺跡の発掘調査により 4 世紀後半の遺物が検出された 5 層から採取された①地点の試料 18 と試料 16、さらに土器片 (08 上大川 SE81-116) に付着した炭化物の 3 試料を対象に、酸-アルカリ-酸洗浄を行った試料の処理・調整後、米国のベータ社の加速器をもちいて AMS 法により年代測定を行った (第 7 表)。

第 7 表 放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	¹⁴ C 試料名	採取地点・層位	種類	重量	前処理	測定方法
①	TNH-00290K	(主) 地点・試料 16	炭酸カルシウム	29.48g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
②	TNH-0021K	(主) 地点・試料 18	炭化物	16.47g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
③	TNH-00246K	土器片付着物	炭化物	0.57g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法

①: 土器片の重量。

B 測定結果と所見

年代測定の結果を第 8 表に示す。そのうち、土器片の補正 ¹⁴C 年代に関しては従来の年代観より若干新しい年代値が得られた。その理由に関しては今後の詳細な検討が必要と思われる。また、土器片を包含する 5 層の年代は、それよりさらにずっと新しい年代値が得られた。これは、土器片の包含層が最終的に形成された年代を示す可能性が高い。一般に、遺物包含層の形成年代を遺物の年代観で推定することはよく行われていることであるが、遺跡の形成過程を考えるとより慎重であるべきと考えられ、今回得られた年代値はそのことを強く印象づけるものとなっている。いずれにしても、5 層の形成はかなり短期間のうちに急速に行われたと考えられる。

なお、各用語の意味は次の通りである。

第 6 表 上大川遺跡のテフラ試料と代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果

地点・試料	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅
①地点・試料 18・グループ A	79.27	0.13	12.21	0.86	0.08	0.12	0.67	3.21	3.41	0.05
①地点・試料 18・グループ B	79.61	0.16	11.81	1.10	0.15	0.16	0.89	3.41	2.59	0.11
①地点・試料 18・グループ C	78.01	0.03	12.36	0.92	0.05	0.04	0.75	2.92	4.86	0.05
①地点・試料 18・グループ D	78.74	0.04	12.32	0.85	0.12	0.05	0.40	2.53	4.95	0.01
SE457・試料 2・グループ A	78.87	0.21	11.97	1.11	0.10	0.18	1.02	3.18	3.34	0.01
SE457・試料 2・グループ B	78.20	0.09	13.31	0.43	0.13	0.12	0.43	3.70	3.52	0.07
SE457・試料 2・グループ C	79.23	0.32	11.80	1.21	0.02	0.22	1.23	3.05	2.89	0.02
SE457・試料 2・グループ D	79.63	0.06	12.45	0.74	0.06	0.04	0.40	1.64	4.97	0.00
	79.83	0.07	12.49	0.63	0.07	0.03	0.44	1.79	4.64	0.02
SE81 付着試料 1-グループ A	78.86	0.20	12.04	1.11	0.07	0.14	1.32	3.07	3.46	0.03
SE81 付着試料 1-グループ B	79.43	0.17	12.12	0.80	0.20	0.18	0.97	3.38	2.73	0.02
SE81 付着試料 1-グループ C	78.77	0.09	12.36	0.78	0.03	0.07	0.59	2.82	4.60	0.09
SE81 付着試料 1-グループ D	78.11	0.09	12.21	1.32	0.07	0.02	0.69	2.71	4.78	0.00
SE81 付着試料 1-グループ E	79.95	0.23	11.49	0.77	0.16	0.18	1.20	2.91	3.09	0.02
指標テフラ										
十和田 a (To-a)	77.87	0.37	12.81	1.75	0.10	0.42	2.00	3.29	1.34	
十和田ハフ (To-H)	78.30	0.29	12.67	1.52	0.06	0.29	1.73	3.84	1.30	
浅間草津 (As-YPk)	78.61	0.29	11.97	1.37	0.06	0.24	1.26	3.19	2.97	
始島 Ta (AT)	78.83	0.12	12.12	1.10	0.04	0.11	0.98	3.33	3.36	
十和田大木島 (To-Of)	77.82	0.36	12.45	1.88	0.08	0.33	1.87	3.97	1.25	
鴨子瀬原 (Nr-Y)	79.67	0.16	11.94	1.30	0.06	0.17	1.31	3.62	1.78	
肝付北原 (Ht-Kth)	78.63	0.09	12.26	0.70	0.08	0.07	0.68	3.58	3.87	0.03
河越 (Toya)	79.37	0.06	12.48	0.92	0.08	0.03	0.37	3.75	2.94	0.00
無水に調整										

第8表 放射性炭素年代測定結果

試料	試料名	未補正 ¹⁴ C年代(yBP)	δ^{13} C	補正 ¹⁴ C年代(yBP)	暦年校正年代	測定番号
①	TNH-0020K	1270 ± 40	-25.2	1270 ± 40	2σ : AD660 ~ AD870	Beta-251359
					1σ : AD680 ~ AD780	
					交点 : AD710, AD750, AD760	
②	TNH-0021K	1290 ± 40	-25.7	1280 ± 40	2σ : AD660 ~ AD810	Beta-251360
					1σ : AD670 ~ AD770	
					交点 : AD690	
③	TNH-0026K	1600 ± 40	-25.3	1600 ± 40	2σ : AD290 ~ AD550	Beta-254156
					1σ : AD410 ~ AD540	
					交点 : AD430	

1) 未補正¹⁴C年代測定値

試料の¹⁴C/¹²C比から、単純に現在(AD1950年)から何年前かを計算した値。¹⁴Cの半減期は、国際的慣例によりリビー(Libby)の5,568年を用いた。

2) δ^{13} C測定値

試料の測定¹⁴C/¹²C比を補正するための炭素安定同位体比(¹³C/¹²C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正¹⁴C年代値

δ^{13} C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、¹⁴C/¹²Cの測定値に補正值を加えた上で算出した年代。試料の δ^{13} C値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代である。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中¹⁴C濃度の変動を補正することにより算出した年代(西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の¹⁴Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と¹⁴C年代の比較により作成された校正曲線を使用した。使用したデータセットは、INTCAL04: Calibration Issue of Radiocarbon, 46(3), 2004(海洋性試料については、Marine04)である。なお、校正曲線のスムーズ化には、下記の理論を用いた。

Talma, A.S. and Vogel, J.C. (1993) A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Radiocarbon, 35(2), p.317-322.

暦年代の交点とは、補正¹⁴C年代値と暦年代校正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ(68%確率)・2σ(95%確率)は、補正¹⁴C年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

第3節 プラント・オパール分析

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO₂)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとでも微化石(プラント・オパール)となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、イネの消長を検討することで水田跡(稲作跡)の検証や探査が可能である[杉山2000]。

A 試料と分析法

分析試料は、①地点(微高部)、③地点(谷部)、SE457とSE170の埋土から採取された7点であるが、①地点と③地点のみ掲載する(第6図)。分析は、ガラスビーズ法[藤原1976]を用いて次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)。
- 2) 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)。
- 3) 電気灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散。
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成。

7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5} g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山2000〕。

B 分析結果

水田跡（稲作跡）の検計が今回の主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な6分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第9表および第6図に示した。第7図に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

C 考 察

1) 水田跡（稲作跡）の検計

水田跡（稲作跡）の検証や探査で、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上高密度で検出された場合、稲作が行われていた可能性が高いと判断している〔杉山2000〕。ただ、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断基準を3,000個/gとして検討した。

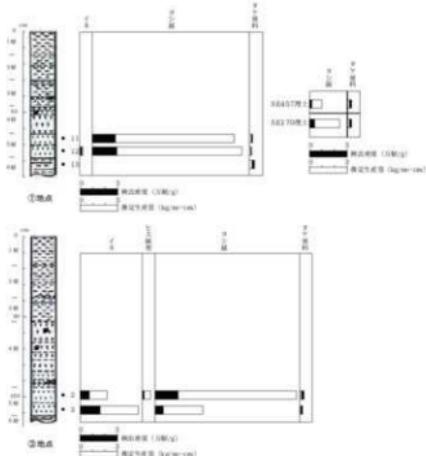
①地点（微高地部）ここでは、5層下部（試料12）からイネが検出された。その密度は700個/gと低い値であるが、直上の試料11ではまったく検出されないことから、上層から後代のものが混入したとは考えにくい。したがって、同層準の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

③地点（谷部）ここでは、5層下部（試料3）でイネのプラント・オパールの密度が16,200個/gとかなり高く、

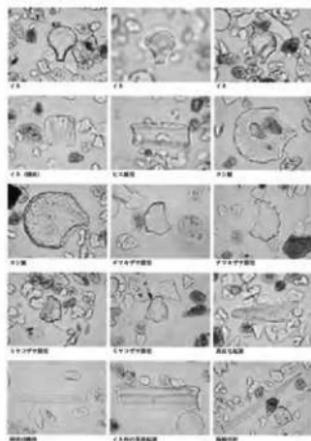
第9表 上大川遺跡におけるプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: $\times 100$ 個/g)		①地点		③地点		SE477	SE170
分類群	学名	11	12	13	2	3	埋土
イネ	<i>Oryzaitiva</i>	7			74	162	
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> sp.				7		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	182	192		182	61	15 38
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	22	14	38	34	20	30 30

推定生産量 (単位: $\text{kg}/\text{m}^2 \cdot \text{cm}$) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出		①地点		③地点		SE477	SE170
分類群	学名	11	12	13	2	3	埋土
イネ	<i>Oryzaitiva</i>	0.20			2.18	4.76	
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> sp.				0.57		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	11.50	12.10		11.50	3.83	0.96 2.37
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	0.10	0.07	0.18	0.16	0.10	0.15 0.14



第6図 上大川遺跡におけるプラント・オパール分析結果



第7図 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

B 結果

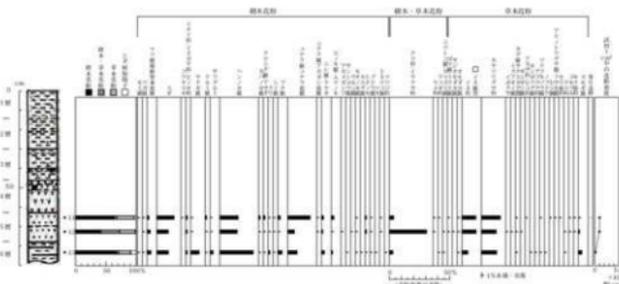
1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉33、樹木花粉と草本花粉を含むもの4、草本花粉26、シダ植物胞子2形態の計65で、ほかに寄生虫卵1分類群が検出された(第10表)。花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した(第8・9図)。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

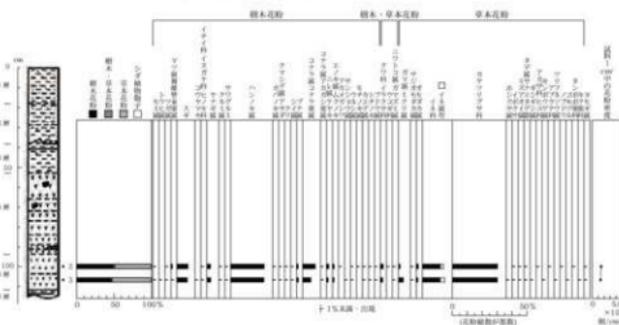
2) 花粉群集の特徴

①地点(第8図)試料13では樹木花粉の占める割合が約70%を占める。樹木花粉では、ハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属が優勢で、ヤナギ属、マツ属複雑管束亜属、サワグルミ、ブナ属、ニレ属-ケヤキなどが伴われる。ハンノキ属については、生態上やヤナギ属が随伴することから、湿地林や河辺林を形成するハンノキとみなされる。草本花粉では、カヤツリグサ科が優勢で、イネ科、ヨモギ属などが伴われる。試料12では、樹木・草本花粉を含むクワ科-イラクサ科が増加し、ヤナギ属、ハンノキ属は減少している。試料11では、コナラ属コナラ亜属が増加し、クワ科-イラクサ科は減少している。また、寄生虫卵のカビラリアがわずかに検出された。

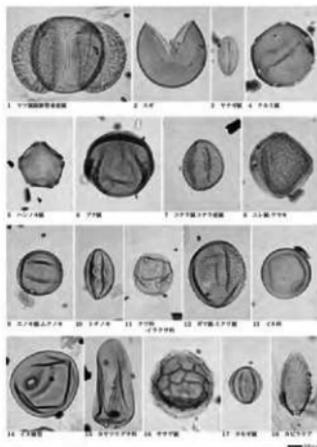
③地点(第9図)試料2と試料3では、樹木花粉と草本花粉の占める割合がほぼ同じである。樹木花粉では、ハンノキ属が優勢で、スギ、コナラ属コナラ亜属、ヤナギ属などが伴われる。草本花粉では、カヤツリグサ科、イネ科(イネ属型を含む)が優勢で、



第8図 上大川遺跡①地点における花粉ダイアグラム



第9図 上大川遺跡③地点における花粉ダイアグラム

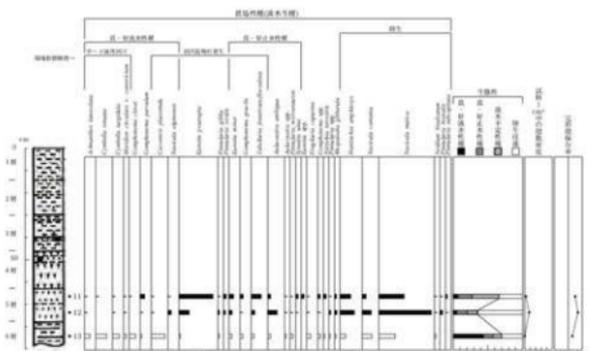


第10図 上大川遺跡の花粉・寄生虫卵

ムにおける珪藻の生態性についてはLowe [1974] や渡辺 [2005]、陸生珪藻については小杉 [1986]、環境指標種群の海水生種から汽水生種については小杉 [1988]、淡水生種については安藤 [1990] の記載を参照した。なお、主要な分類群については顕微鏡写真を示す。

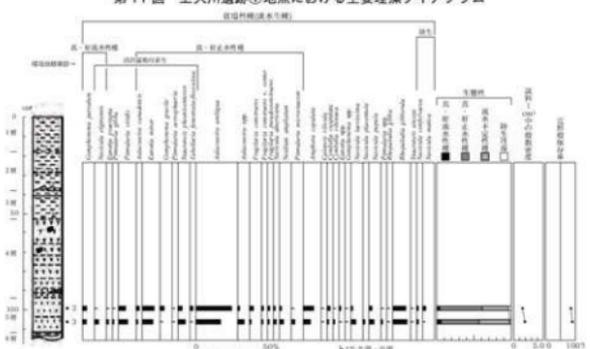
2) 珪藻群集の特徴

①地点 試料13では珪藻密度が低く、真・好流水性種の占める割合が約45%、陸生珪藻が30%を占める。真・好流水性種では中～下流性河川環境指標種群の *Achnanthes lanceolata*, *Cymbella sinuata*, *Cymbella turgidula*, *Meridion circulare*, *constrictum*、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Cocconeis placentula* が



第11図 上大川遺跡①地点における主要珪藻ダイアグラム

出現する。陸生珪藻では *Naviculamutica*, *Naviculacontenta*, *Hantzschia amphioxys* が出現する。真・好止水性種では沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotiaminor*, *Gomphonemagracile*, *Tabellaria fenestrata-flocculosa*、好止水性種の *Aulacoseira ambigua*, *Pinnularia microstauron* などが低率に出現する。流水不定性種では *Fragilaria capucina*, *Gomphonema* spp. などがわずかに出現する。試料12では、珪藻密度が高くなり、陸生珪藻の占める割合が約65%に増加し、真・好流水性種は減少している。陸生珪藻では *Naviculamutica* が優占種となり、*Hantzschia amphioxys*, *Naviculacontenta* も増加する。試料11では、流水不定性種の占める割合が約40%に増加し、流水不定性種で沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotiapraerupta* が優占する。陸生珪藻では *Naviculamutica* が半減している。



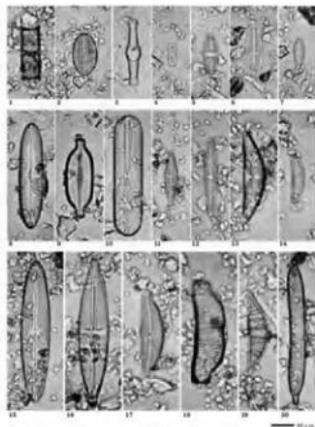
第12図 上大川遺跡③地点における主要珪藻ダイアグラム

③地点 試料2と試料3では、真・好止水性種が約50～55%、流水不定性種が約40%を占める。真・好止水性種では *Aulacoseira ambigua* を主に、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotiaminor*, *Stauroneis phoenicenteron*、好止水性種の *Aulacoseira* spp., *Fragilaria construens*, *Neidium ampliatum*, *Pinnularia microstauron* などが出現する。流水不定性種では *Rhopalodiagibberula*, *Amphoracopulata*, 沼沢湿地付着生環境指標種群の *Pinnularia viridis* などが出現する。真・好流水性種では *Gomphonema parvulum*, 沼沢湿地付着生環境指標種群の *Navicula elginensis* が低率に出現する。陸生珪藻では *Navicula confervacea*, *Naviculamutica* がわずかに出現する。

C 珪藻分析から推定される堆積環境

①地点（微高地部）6層の堆積当時は、河川の影響を受ける流水域や止水域、および湿潤な陸域なども見られる多様な環境が示唆される。5層の堆積当時は、水草の生育する沼沢湿地や不安定な滞水域、湿潤な陸域など多様な環境が共存もしくは繰り返されていたと考えられる。

③地点（谷部）5層の堆積当時は、水草の生育する沼沢湿地や不安定な滞水域の環境が示唆され、河川の流水の影響は少なく、淀むような状況であったと推定される。流水不定性種の *Amphoracopulata* など水田に多い珪藻も認められることから、水田域もしくはその周辺の環境が反映されていると考えられる。



第13図 上大川遺跡の珪藻

第6節 種実同定

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

A 試料と分析方法

試料は、SE170・SE255・SE457・SE491から採取された選別済みの種実類である。それらについて、肉眼および双眼顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

B 結果

1) 分類群

樹木9、樹木・草本1、草本9の計19分類群が同定された。学名、和名および粒数を表12に示し、主要な分類群を第15図に示す。

2) 種実群集の特徴

SE170 樹木ではアカメガシワ15、エゴノキ科10、カジノキ4、ブドウ属3、マタタビ4、ニワトコ1、草本ではホタルイ属1、カナムグラ10、イネ科1、タデ属1が同定された。

SE255 樹木ではサルナシ50、エゴノキ科26、ニワトコ3、アカメガシワ2、草本ではホタルイ属16、アサ5、カナムグラ4、タデ属3、ヒユ属1が同定された。

SE457 樹木ではエゴノキ科36、アカメガシワ32、ブドウ科8、ブドウ属7、草本はカナムグラ89、イネ4、タデ属1、ノブドウ1が同定された。

SE491 樹木ではブドウ科24、エゴノキ科13、サルナシ8、アカメガシワ2、エゴノキ2、ハクウンボク1、草本ではカナムグラ7、シソ科3、ホタルイ属1が同定された。

C 考察

種実同定を行った結果、栽培植物としてはSE457でイネ（炭化米）、SE255でアサが同定された。また、食

第12表 上大川遺跡における種実同定結果

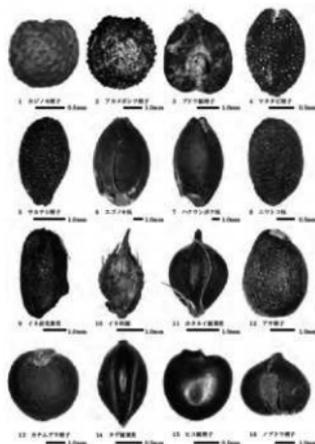
学名	分類群	和名	部位	SE170					SE255	SE457	SE491
				1類	2類	3・4類	5・6類				
Actin											
<i>Broussonetia papyrifera</i> Vent.		カジノキ	種子			3	1				
<i>Mollisia japonica</i> (Muhl.) et Arg.		アカメガシワ	種子						5		
			(破片)	2		3	4	6	2	27	
Vit											
		ブドウ属	種子		1		1	1		5	
			(破片)							2	
<i>Actinidia polygama</i> Planch. ex Maxim.		マタタビ	種子			2					
<i>Actinidia arguta</i> Planch. ex Miq.		サルナシ	種子					2		1	
			(破片)					37		7	
								13		2	
<i>Strya japonica</i> S. et Z.		エゴノキ	核							7	
<i>Strya obtusio</i> S. et Z.		ハクウンボク	核							1	
Syracaceae		エゴノキ科	核			1	6	3	26	36	
<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex Griseb.		ニワトコ	核						3	13	
			(破片)					1			
Actin - Herb											
Vitaceae		ブドウ科	種子 (破片)						8	24	
Herb											
<i>Oryza sativa</i> L.		イネ	炭化果実						2		
			(破片)						2		
Gramineae		イネ科	穎				1				
Scirpus		ホタルイ属	果実			1			16		
<i>Cymbopogon sativa</i> L.		アサ	種子						1	1	
			(破片)						4		
<i>Humulus scandens</i> (Murr.)		カナムグラ	種子			1			1	40	
			(破片)			1				7	
Polygonum		タデ属	果実				2	6	3	49	
<i>Amoranthus</i>		ヒユ属	種子				1	3	1		
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>Heterophylla</i> Hara		ノブドウ	種子					1		1	
Labiatae		シソ科	果実							3	
Total		合計		4	1	7	17	21	110	178	61

用となる樹木種実では、SE170とSE457でブドウ属、SE170とSE457でマタタビ、SE255でサルナシが同定された。

その他の分類群では、カジノキ、アカメガシワ、エゴノキ、ハクウンボク、エゴノキ科、ニワトコの樹木、イネ科、ホタルイ属、カナムグラ、タデ属、ヒユ属、ノブドウ、シソ科の草本が同定された。アカメガシワやエゴノキ科などは破片が多い。ホタルイ属はSE255で、カナムグラはSE457で多い。

マタタビ、サルナシは落葉性藤本で樹木や岩などに絡み、低山地の林内に生育する。カジノキ、アカメガシワ、ブドウ属、エゴノキ、ハクウンボク、エゴノキ科、ニワトコは落葉広葉樹であり、エゴノキ、ハクウンボクは山の谷間や山地にどこにでも生育する。カジノキ、アカメガシワは落葉広葉樹であり、二次林種でもある。ニワトコは低地と山地のやぶや林縁に生育する。アサは南アジアや中央アジア原産とされる1年草の畑作物であり、茎皮の繊維は麻糸になり、種子は油を採ったり食用になる。ホタルイ属は水辺などの低地に生育し、イネ科、カナムグラ、タデ属、ヒユ属、シソ科は耕地雑草で適潤地を好み人里近くに生育する。

以上のように、林縁の二次林種のアカメガシワ、谷や流路沿いに多いエゴノキ科(エゴノキ、ハクウンボクを含む)が多いことから、周辺に森林から林縁の環境が存在し、谷や流路が分布していたと推定される。なお、各種実とも破片が多いことから、何らかの形で利用されていたことが示唆されるが、アカメガシワやエゴノキ科などの有用でないものについては、鳥などの摂食による可能性も考えられる。



第14図 上大川遺跡の種実

第七章 総 括

第1節 上大川遺跡出土の土器について

上大川遺跡からは古墳時代前期全般にわたって土師器が一定量出土している。一括資料に乏しい難点はあるが、包含層出土遺物を加えた土器の様相について整理し、本遺跡における特徴を抽出してみたい。なお、各土器の時期については春日真実氏から御教示いただいたが、文中の誤記等がある場合にはその責めは筆者にある。また、ここで使用した編年は、「漆町編年」[田嶋1986]・坂井・川村氏による編年[坂井・川村1993]・川村氏の編年[川村2000、以下「川村編年」という]・「シンポジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」における編年[新潟県考古学会2005、以下「新潟シンポ」という]であり、その対応関係は第13表のとおりである。

甕は最も多く出土している器種である。有段口縁をもつ甕は出土しておらず、「く」・「こ」字状口縁をもつ甕のみ出土している。その口縁端部は4種の形態に分けられる(第V章第2節)が、丸く収まるもの(甕A3類)が1/2以上、面をもつもの(甕A2類)が1/4以上を占める。やや古い形態の端部をつまみ上げるもの(甕A1類)は1割弱であり、その特徴が明瞭なもの(図版30-39・68)は少なく、単純な面をもつものとの区別がしづらいものが多い。また、調整が粗く端部が小波状を呈するもの(甕A4類)が2点(図版32-77・78)出土しており、田中条町反貫目遺跡[細井2004]などに類例がみられるが、その特徴が系統的なものなのかは不明である。甕の体部は球胴のもの(図版28-5・11など)が目立つが、体部の最大径が上半にあり全体形が若干長いものも少なくない。口縁部形態との関係でみると、前者は甕A3類に、後者は甕A1・A2類に多少傾向がある。

壺・小型壺は甕に比べると個体数は少ない。今回、壺は口頸部の形状から二重口縁壺と広口壺・直口壺などを含む「く」字状口縁壺に分けたが、二重口縁壺は半数以上を占める。円形浮文や刻み目などの加飾を加えるものはみられない。小型壺では、段をもつもの(図版34-112)が古相を示し、段をもたない図版34-115・116がこれに続くが、115は116に比べ調整がやや粗く赤彩されていない点でやや新しいと思われる。さらに新しい形態的特徴をもつ図版34-111は、漆町編年12群・川村編年8段階並行と捉えられる。調整もミガキはさわれているものやや丁寧さに欠け、胎土も若干粗い。

高杯は新潟シンポ8期以降に認められる畿内系柱状屈折脚がほとんどである。それらには、細いもの(高杯脚A1類)と太いもの(高杯脚A2類)があり、前者→後者という新旧関係がみられるが、その割合は半々か後者がやや多いようである。高杯脚A2類とされる図版30-56や図版34-123・131などは、漆町編年12群並行と捉えられるもので、内面はあまり調整されず輪積み痕がはっきりと残る。高杯B類とした図版30-51は、びつたりと一致する類例を知らないが、滝沢氏の論考[滝沢2005]の中でB類とした報告番号38に類似しているように思われ、今回は高杯とした。ただ、加茂市丸湯遺跡[伊藤・平岡2000]などに類例がみられる中支柱状脚の小型器台の可能性もある。

器台は受部が外反して伸びるものと直線的に伸びるものがあるが、出土量が少なく、様相は不明瞭である。図版30-53・図版35-132は丁寧なミガキと赤彩が施される。裝飾器台は出土していない。以上、出土土器について器種ごとに時期的特徴を整理したが、次にそれらの位置付けについて考える。

第13表 土器編年対照表

時代	新潟シンポ (1993)	坂井・川村 (1993)	川村編年 (川村2000)	漆町編年 (田嶋1986)
第1期	1期			
	2期			
	3期			漆町3群
	4期	1期最新		漆町4群
	5期	II-1期	1段階	漆町5群
第2期	6期	II-2期	2段階	漆町6群
	7期	II-3期	3段階	漆町7群
第3期	8期	III期	4段階	漆町8群
	9期	IV期	5段階	漆町9群
第4期	10期		6段階	漆町10群
			7段階	漆町11群
			8段階	漆町12群
			9段階	
			10段階	漆町13群
		11段階		

甕においては、「く」・「こ」字状口縁で端部が丸く取まり体部が球胴に近いものの割合が多いことが確認できた。また、東海系高杯を欠き、畿内系柱状屈折脚が一定量みられる一方で、器台が極めて少ないことも捉えられた。したがって、本遺跡の主体は新潟シンボ9・10期であると考えられるが、上限については口縁端部につまみ上げた明確な面がみられる甕の存在から新潟シンボ7期、下限については太い畿内系柱状屈折脚が一定量存在するもの食膳具の杯がみられないことから漆町編年の13群までは下らない時期(12群)が想定されよう。時期幅が広いことが窺われる。

第2節 上大川遺跡の性格について

上大川遺跡では掘立柱建物や井戸、土坑、溝が検出されており、周囲よりわずかに高いエリアにそれが集中している。この中で注目されるのは、未確定なものを含む6基検出された井戸である。県内では当該期の検出事例が少ないことから、遺跡の性格と関連して注目される。これらの井戸は、上端の径は1m以上あるものの深さは0.5～0.7mのものが多く、全体に小ぶりの感をもつ。断面形は、1基(SE170)が椀状をしているが、5基は上半が鉢状・下半が下に向かって若干狭まる筒状で上半と下半の間に段をもつ。いずれも井戸側は検出されておらず、水溜の施設(装置)もその可能性をみるものが1基(SE81)のみである。県内での検出状況は第14表のとおりであるが、これにそれ以降の調査である糸魚川市笛吹田遺跡(山岸2008)や長岡市五千石遺跡[長岡市教育委員会科学博物館¹³⁾2008]、本遺跡の事例が加わる。素掘りのものが多く、断面形は円筒状(上越市東広井遺跡[吉川2003])・漏斗状(上越市下別遺跡[山崎忠良¹⁴⁾2004])・大きく開いた鉢状(新潟市東区遺跡[朝岡2003])など多様である。井戸側を設置している遺跡もあり、笛吹田遺跡や上越市高山遺跡[大居2002]・子安遺跡[笹澤・滝沢2002]では丸太割り抜き材を井戸側に使用している。全国的にも古墳時代の井戸は素掘りが主体で、井戸側をもつものについては有力氏族が存在する集落や豪族居館に多くみられる[小笠原1990]ことから、この3遺跡は有力者の存在も想定できる。

井戸が検出されている遺跡は頸城地区に集中しており、その他の地域では阿賀野川周辺(左岸-東国遺跡・笈下遺跡[山崎¹⁵⁾2004]、右岸-上大川遺跡)でいくつか確認される。井戸をもつ遺跡の分布状況は、誤認などによって検出が報告されていない遺跡があったとしても、地域的な偏りがあると思われる。これらの遺跡には、玉作遺跡(笛吹田遺跡・五千石遺跡)、勾玉・管玉の未成品が出土している遺跡(勾玉-下別遺跡・管玉-上大川遺跡)、方形周溝墓をもつ遺跡(上越市子安遺跡)、井戸祭祀が窺える遺跡(高山遺跡)が含まれ興味深い。井戸は、有力者が存在する集落や一般集落とは異なる特殊な機能をもつ集落で設置されたのではないだろうか。

上大川遺跡では、竪穴住居は検出されていないが、幅の広い溝(SD447)の南側にそれにほぼ並行する掘立柱

第14表 井戸検出遺跡一覧(新潟県考古学会2005を一部改変)

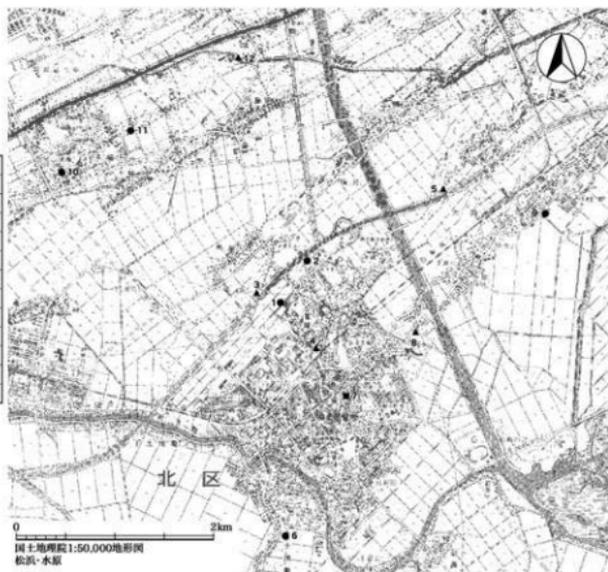
エリア	遺跡名	立地	時期	その他遺構	土器										玉作	鉄器	備考			
					基礎	東広	西広	北斉	東江	東江	丹波	山越	その他							
位置	千種遺跡	沖積地		ビ(柱敷)・矢板列														鉄鏡	骨角面出土	
	江島神社遺跡	沖積隆高地	2～9	ビ																
	東広井遺跡	沖積地	5～9	柱穴群3・土坑																
	高山遺跡	沖積隆高地	6～8	土坑																井戸祭祀
	津谷田遺跡	自然堤防	5～10	平7・土坑																
	下別遺跡	沖積隆高地	2～87	堀2・溝16・土坑41																
阿賀	子安遺跡	沖積隆高地	2～10	壁・方角・土坑																
	東国遺跡	沖積平野	8～10	壁3・堀2・土坑20・性格不明46																
	笈下遺跡	自然堤防	6～9	平岡17・土坑7・溝2																
	周辺	上入川遺跡	7～12	堀・ビ																

遺構凡例 壁：掘立柱建物 堀：掘立柱建物 平：平地式建物 平岡：平地式建物(周溝有) 方角：方形周溝墓 ビ：ピット
土器凡例 ○：主体を占める ◎：相当量存在する ●：少量存在する △：少量存在する ▲：可能性があるものが存在する
玉作凡例 ×：確認できない

- ▲：新1～6期
- ：新7期～
- ：弥生時代～古墳時代

遺跡名	時期
1 上大川遺跡	新7期～藤12期
2 正尺A遺跡	新7期
3 正尺C遺跡	新6期
4 下大川遺跡	新5・6期
5 松原A遺跡	新1～3期
6 上土居池A遺跡	新10期
7 葛塚遺跡	新5～中期
8 杉C遺跡	新1～5期
9 土黒山遺跡	新7～9期
10 尾山A遺跡	新7～8期
11 六やしき遺跡	新7～10期
12 引越遺跡	新1～3期

※：新図シンボ編年 漢：藤原編年



第15図 周辺遺跡の消長（弥生時代後期～古墳時代）

建物が何棟か存在しており、両者は同時期のものと捉えられる。掘立柱建物が居住用かどうか不明であるが、これらが溝を伴うことや井戸が複数検出されていることを考えると、集落として長期に営まれていたと考えられる。遺物では、在地の土器が主体を占めるが、勾玉・管玉（未成品）・白玉などの玉類が5点出土しているのが注意される。玉類の複数の出土は、やはりその背景に有力者の存在が考えられよう。その中の未成品にはその意味について頭を悩ますところであるが、それぞれの石材が蛇紋岩？・緑色凝灰岩・滑石といった多種の石材がみられることから、いずれも搬入品であり他地域との交流が窺える。このようなことから、本遺跡は他地域との交流を行う有力者を中心とした集落であると考えられるが、最後に周辺遺跡との関係を述べてみたい。

このあたりは、弥生時代～古墳時代の遺跡が多く存在し（第15図）、当時の中心的な地域として捉えられるが、弥生時代から古墳時代への移り変わりとともに、人々の生活の場が砂丘から沖積低地へ広がっていく様子がみられる。低地に進出した人々は、葛塚遺跡周辺からさらに活動の範囲を北へ拡大するが、直後の新図シンボ5・6期にあたる下大川遺跡〔今井2008〕や正尺A・C遺跡〔尾崎2001・加藤2006〕は短命で、本遺跡がその後を継ぐことになる。一方、葛塚遺跡は古墳時代中期前半まで存続し、その繁栄をみせてきた。発掘調査では明確な遺構は検出されなかったものの、多量の土器・「朱塗り線刻人物画土器」・玉類などが出土しており〔関1999〕、やはり有力者の存在が想定される。上大川遺跡と葛塚遺跡は、地域の中心的な遺跡と捉えられるが、それぞれがもっていた役割（機能）は異なるものかもしれない。両者の関係は今後の課題である。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣 2005 『信濃川左岸地域の様相』『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会
- 朝岡政康 2003 『東国遺跡 卸売市場建設に伴う市道東8-273 建設事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- イ 伊藤秀和・平岡和夫 2000 『丸湯遺跡・新通遺跡-国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』加茂市教育委員会・山武考古学研究所
- 今井さやかほか 2007 『日本遺跡 第3次調査-鍋田土地区画整理事業に伴う日本遺跡発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 今井さやかほか 2008 『下大口遺跡 第2次調査-宅地造成に伴う下大口遺跡第2次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- ウ 宇野隆夫 1992 『食器計量の意義と方法』『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- エ 速藤恭雄 2004 『下前川原遺跡 新潟県豊栄市下前川原発掘調査報告』豊栄市教育委員会
- オ 大居敬子 2002 『高山遺跡 上江保倉地区ほ場整備事業地内遺跡発掘調査報告書』上越市教育委員会
- 小笠原信彦 1990 『2住居と倉と井戸』『古墳時代の研究 2集落と豪族居館』雄山閣
- 尾崎高宏ほか 2001 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅱ 正尺A遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- カ 春日真実 1994 『北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一ノ口遺跡東地区』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1999 『第4章古代 第2節土器編年と地域性』『新潟県の考古学』高志書院
- 加藤 学ほか 2001 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅰ 松影A遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 川村浩司 2002 『弥生時代後期～古墳時代前期における北陸北東部系土器の地域色の研究-形態・調整の検討と土器胎土中砂礫の検討を中心に-』『文部科学省助成科学研究費 萌芽的研究』
- ク 熊崎 保ほか 2005 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 沢田遺跡 一杯田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- サ 坂井秀弥ほか 1989 『新新パラス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
- 坂井秀弥・川村浩司 1993 『古墳出現前後における越後の土器様相-越後・会津・能登-』『磐越地方における古墳文化形成過程の研究』
- サ 笹澤正史・滝沢規朗 2002 『2 子安遺跡』『上越市史』資料編2 考古 上越市
- シ 潮田志幸 2008 『諏訪畑遺跡 第3次調査』新潟市教育委員会
- ス 鈴木成俊ほか 1994 『上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区(本文編)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 雅之 1993 『上土地亀遺跡』豊栄市教育委員会
- 関 雅之 1999 『葛塚遺跡』豊栄市教育委員会
- 関 雅之ほか 1988 『豊栄市史』資料編Ⅰ考古編 豊栄市
- 関 雅之ほか 1989 『新五兵衛山遺跡Ⅰ』豊栄市教育委員会
- 関 雅之ほか 1996 『新五兵衛山遺跡Ⅱ』豊栄市教育委員会
- 関 雅之ほか 2005 『甲山遺跡 豊栄インター南土地区画整理事業に伴う発掘調査報告』豊栄市教育委員会
- タ 滝沢規朗 2005a 『土器の分類と変遷-いわゆる北陸系を中心に-』『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会
- 1992 『底部径の変遷とその製作技法について-柏崎平野を中心に-』『新潟考古学談話会会報 第10号(1992)』
- 田嶋明人 1986 『漆町遺跡出土土器の編年の考察』『漆町遺跡Ⅰ』石川県埋蔵文化財センター
- 田中久男ほか 1996 『新潟砂丘の形成史』『第四紀研究』第35巻3号 日本第四紀学会
- ツ 立木宏明ほか 2004 『山王浦遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』新津市教育委員会
- テ 寺村光晴ほか 1980 『鳥屋遺跡Ⅰ 新潟県豊栄市・縄文晩期土坑群の発掘調査報告』豊栄市教育委員会
- 寺崎裕助ほか 2004 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅵ 反貫日遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

- ト 土橋由理子ほか 2006 『日本海東北自動車道関係発掘調査報告書XVII 馬見坂遺跡 正尺A遺跡 正尺C遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 豊栄市 1998 『豊栄市史 通史編』豊栄市史調査会
 シンポジウム新潟における高地性集落の解体と古墳の出現実行委員会 2005 『シンポジウム新潟における高地性集落の解体と古墳の出現実行委員会』新潟県考古学会
- ナ 長岡市教育委員会科学博物館ほか 2008 『五千石遺跡現地説明会』五千石遺跡現地説明会資料
- ニ 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 『新潟市史』資料編1 原始古代中世 新潟市
 新潟市 2007 『新潟市の遺跡』新 新潟市歴史双書2 新潟市
 新潟市 2008 『速報!新潟市 上大川遺跡—古墳時代前期の集落—』平成20年度 出土品展『出土品が語る新潟の歴史』新潟県教育委員会・新潟市豊栄博物館・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟市埋蔵文化財センター
- ノ 野田豊文・野水見子 2005 『阿賀北地域の様相』『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会
 野水見子ほか 2006 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書第147集 西川内北遺跡 西川内南遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ハ 長谷川伸ほか 1998 『豊栄市史 通史編』豊栄市
- ホ 細井住宏ほか 2004 『新潟県埋蔵文化財報告書第135集 反貫目遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- マ 松井 智 2001 『豊栄市正尺の立地—正尺集落と正尺遺跡から—』『研究紀要』3 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヤ 山岸洋一 2008 『糸魚川市笛吹田遺跡—玉作りを行っていた平野部の大規模集落—』『発掘が語る新潟の歴史2007 パンフレット—速報・新潟の歴史と佐渡金銀山—』新潟県立歴史博物館
 山崎 天ほか 2004 『笈下遺跡』五上市教育委員会・山武考古学研究所
 山崎忠良ほか 2004 『下朝遺跡Ⅱ 一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅱ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヨ 吉岡俊久 2003 『東広井遺跡発掘調査報告書』三和村教育委員会
- ワ 渡邊ますみほか 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』黒崎町教育委員会

Ⅴ章 引用・参考文献

- ア 新井房夫 1962 『関東盆地北西部地域の第四紀編年』群馬大学紀要自然科学編10 p.1-79
 安藤一男 1990 『淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用』『東北地理』42 p.73-88
- イ 伊藤良永・堀内誠示 1991 『陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用』『珪藻学会誌』6 p.23-45
- オ 大池昭二 1972 『十和田火山東麓における完新世テフラの編年』『第四紀研究』11 p.232-233
- カ 金原正明 1993 『花粉分析法による古環境復原』『新版古代の日本第10巻 古代資料研究の方法』角川書店 p.248-262
 笠原安夫 1985 『日本雑草図説』養賢堂 494p
 笠原安夫 1988 『作物および田畑雑草種類』『弥生文化の研究第2巻 生業』雄山閣出版 p.131-139
- コ 小杉正人 1986 『陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—』『植生史研究』no.1 植生史研究会 p.29-44
 小杉正人 1988 『珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用』『第四紀研究』27 p.1-20
- シ 島倉巳三郎 1973 『日本植物の花粉形態』『大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集』60p
- ス 杉山真二 2000 『植物珪酸体(プラント・オパール)』『考古学と植物学』同成社 p.189-213
 鈴木毅彦・早田 勉 1994 『奥会津沼沢火山から約5万年前に噴出した沼沢—金山テフラ』『第四紀研究』33 p.233-242
- タ 只見川第四紀研究グループ 1966a 『福島県野沢盆地の浮石質砂層の基底部より産出した木材の¹⁴C年代—日本の第四紀期の14C年代XVI』『地球科学』82 p.8-9
 只見川第四紀研究グループ 1966b 『只見川・阿賀野川流域の第四紀の編年—とくに沼沢浮石層の層位的諸問題について』『第四紀』8 p.76-79
- フ 藤原宏志 1976 『プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—』『考古学と自然科学』9 p.15-29
 藤原宏志・杉山真二 1984 『プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の

- 探査一] 『考古学と自然科学』 17 p.73-85
- ナ 中村 純 1973 『花粉分析』 古今書院 p.82-110
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」 『第四紀研究』 13 p.187-193
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」 『考古学と自然科学』 第10号 p.21-30
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」 『大阪自然史博物館収蔵目録第13集』 91p
- マ 町田 洋・新井房夫 2003 『新編火山灰アトラス』 東京大学出版会 336p
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 1981 「日本海を渡ってきたテフラ」 『科学』 51 p.562-569
- ミ 南木睦彦 1991 「栽培植物」 『古墳時代の研究第4巻生産と流通 I』 雄山閣出版株式会社 p.165 - 174
- 南木睦彦 1992 「低湿地遺跡の種実」 『月刊考古学ジャーナル』 No.355 ニューサイエンス社 p.18 - 22
- 南木睦彦 1993 『葉・果実・種子、日本第四紀学会編、第四紀試料分析法』 東京大学出版会 p.276 - 283
- ヨ 吉崎昌一 1992 「古代雑穀の検出」 『月刊考古学ジャーナル』 No.355 ニューサイエンス社 p.2-14
- ロ Lowe,R.L. 1974 Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh - water diatoms. National Environmental Reserch Center 333p
- ワ 渡辺仁治 2005 「群集解析に基づく汚濁指数 DAIPo, pH 耐性能」 『淡水珪藻生態図鑑』 内田老鶴園 666p
- 渡辺 誠 1975 『縄文時代の植物食』 雄山閣 187p

別表1 上大川遺跡 主要構構計測表

図面NO.	遺構	グリッド	母体 構造 主軸方位	規模 (m)				基礎 埋込 深さ	形状 平面 断面	遺物 埋込 状況	遺物 採取 状況	備考	
				長さ		幅							
				上端	下端	左端	右端						
4-8-14	SB601	8G23-25.9G23-5.8- 10-13-15	占構 V N2° W	0.08	4.35	-	-	-	2階× 1階	-	P44-P93-P97- P86-P97-P99		
4-10-15	SB602	7G23-25.9G23-5.8- 10-13-15-18-19	占構 V N7° W	7.12	3.90	-	-	-	2階× 1階	-	P141-P176- P258-P324- P356-P393		
4-10-16	SB603	7G6-8.11-13.16.17	占構 V N8° E	3.75	2.90	-	-	-	1階× 1階	-	SK261b-P290- P294-P327		
4-9-10-16	SB604	7H21-22.8H1-2.0-7.8G5	占構 V N27° E	4.42	2.60	-	-	-	1階	-	P174-P227- P430-P437		
4-9-10-17	SB605	7G5-10.15.7H1-3.6- 8.11-13	占構 V N85° E	5.90	3.45	-	-	-	1階	-	P378-P411- P443-P445- P465-P476		
4-9-12-17	SB606	6H20-25.0H16-17-21- 22	占構 V N° 1W	2.65	2.45	-	-	-	1階× 1階	-	SK515-P452- P535-P538		
4-8-18	S18	9G13-14-18-19	占構 V N6° W	1.36	1.32 (0.38)	(0.40)	1.04	-1.29	円形 白灰状	○	28		
4-8-9-10-18	S91	8H11	占構 V N48° E	0.80	0.77	0.29	0.29	0.54	-0.82	円形 黒土状	○	28-35	
4-9-10-18	SK170	8G15-20	占構 V N12° E	0.80	0.78	0.40	0.42	0.42	-0.65	円形 黒土	○	28	
4-9-10-19	SK255	8G10-15	占構 V N65° W	1.23	1.13	0.49	0.42	0.75	-0.11	円形 黒土状	○	28-35	
4-11-12-18	SK457	6H12-13-17-18	占構 V N34° E	1.67	1.55	0.55	0.64	0.53	-0.77	円形 白灰状	○	28	
4-11-12-19	SK491	6H7-12-13	占構 V N64° W	1.74	1.73	0.62	0.70	0.69	-0.92	円形 白灰状	○	28	
4-8-19	SK48	9G4-9	占構 V N64° W	1.03	0.87	0.80	0.67	0.19	-0.40	円形 黒土	×		
4-7-8-19	SK200	9F19	占構 V N31° E	0.54	0.50	0.31	0.29	0.23	-0.46	円形 黒土	○		
4-8-19	SK49	9G8	占構 V N84° E	0.70	0.58	0.50	0.38	0.14	-0.35	円形 黒土	○		
4-8-19	SK25	9G3-8	占構 V N69° W	0.66	(0.62)	0.48	(0.44)	0.14	-0.32	円形 黒土	×		
4-7-8-19	SK42	9G1-3	占構 V N16° W	0.75	0.65	0.56	0.50	0.16	-0.32	円形 黒土	○		
4-7-8-19	SK43	9G1-2.8G21-22	占構 V N48° W	1.74	1.06	1.06	0.89	0.21	-0.37	円形 黒土	○		
4-7-8-20	SK285	8F20-25	占構 V N43° E	0.87	0.58	0.64	0.38	0.16	-0.33	円形 黒土	○		
4-7-8-20	SK34	8G16-17-21-22	占構 V N6° E	1.19	1.15	0.68	0.70	0.15	-0.29	円形 黒土	○		
4-7-8-10-20	SK37	8G11-16	占構 V N22° W	0.93	(0.84)	0.65	0.62	0.15	-0.31	円形 黒土	○	29	
4-7-8-10-20	SK231	8G16	占構 V N68° E	0.75	0.57	0.38	0.28	0.15	-0.31	円形 黒土	○	29	
4-7-8-20	SK84	8F15	占構 V N47° W	0.56	0.40	0.38	0.19	0.12	-0.26	円形 黒土	○		
4-7-20	SK104	8F4-5	占構 V N6° E	0.71	0.41	0.39	0.22	0.15	-0.31	円形 黒土	○		
4-7-20	SK127	8H4-5	占構 V N89° E	0.65	0.43	0.35	0.21	0.14	-0.32	円形 黒土	○		
4-7-20	SK125	8F5-10	占構 V N68° W	0.56	(0.58)	0.35	0.41	0.13	-0.32	円形 黒土	○		
4-7-20	SK159	8F10	占構 V N68° W	0.46	0.39	0.22	0.13	0.17	-0.34	円形 黒土	○		
4-7-20	SK160	8F10	占構 V N61° W	(0.43)	0.34 (0.33)	0.14	0.09	-0.28	円形 黒土	○			
4-7-20	SK772	8F4	占構 V N87° E	0.62	0.41	0.37	0.17	0.16	-0.33	円形 黒土	○		
4-8-9-20	SK80	8G20-25	占構 V N65° W	1.44	1.30	1.16	1.09	1.16	-0.46	円形 黒土	○		
4-8-10-21	SK184	8G14	占構 V N48° W	0.53	0.48	0.32	0.29	0.17	-0.33	円形 黒土	○		
4-8-10-21	SK185	8G14	占構 V N45° W	0.39	0.38	0.17	0.19	0.17	-0.33	円形 黒土	○		
4-7-21	SK211	7F20	占構 V N63° E	0.79	(0.57)	0.67	0.59	0.18	-0.35	円形 黒土	○		
4-7-10-21	SK190	8G11-2	占構 V N60° W	0.64	0.61	0.38	0.28	0.19	-0.35	円形 黒土	○		
4-7-10-21	SK77	8G6	占構 V N61° W	0.58	0.47	0.35	0.22	0.17	-0.30	円形 黒土	○		
4-7-10-21	SK261	7G11-16	占構 V N9° E	1.12	(0.68)	0.78	0.44	0.09	-0.22	円形 黒土	○		
4-7-10-21	SK261-b	7G11-16	占構 V N80° W	0.27	0.24	0.09	0.10	0.31	-0.52	円形 白灰状	○	SB603	
4-10-21	SK144	7G24.8G4	占構 V N60° W	0.97	0.63	0.67	0.39	0.13	-0.33	円形 黒土	○	29	
4-10-21	SK144-b	7G24.8G4	占構 V N60° W	0.14	0.13	0.06	0.06	0.21	-0.55	円形 白灰状	○		
4-9-10-21	SK221	8H1-2	占構 V N39° E	0.80	0.60	0.54	0.38	0.17	-0.44	円形 黒土	○		
4-10-21	SK299	7G7-8	占構 V N46° W	0.77	0.57	0.43	0.29	0.14	-0.33	円形 黒土	○		
4-7-10-21	SK272	7G17	占構 V N63° W	0.55	0.29	0.40	0.23	0.17	-0.32	円形 黒土	○		
4-10-21	SK349	7G9	占構 V N62° W	0.65	0.36	0.31	0.18	0.18	-0.34	円形 白灰状	○	29	
4-9-10-22	SK422	7H1	占構 V N44° W	0.43	0.32	0.24	0.17	0.10	-0.31	円形 黒土	○		
4-9-10-22	SK418	7H1-6	占構 V N15° W	0.66	0.50	0.53	0.36	0.13	-0.35	円形 黒土	○		
4-9-12-22	SK515	6H25.6H21	占構 V N47° W	1.74	0.56	0.42	0.30	0.26	-0.48	円形 黒土	○	SB606	
4-9-11-12-22	SK458	6H18-23	占構 V N65° W	0.75	0.41	0.66	0.35	0.28	-0.53	円形 黒土	○	29	
4-11-22	SK505	7H9	占構 V N28° W	0.94	0.75	0.38	0.23	0.27	-0.56	円形 白灰状	○		
4-9-10-22	SK215	8H19	占構 V N45° W	0.48	0.47	0.26	0.25	0.27	-0.63	円形 黒土	○		
4-10-22	SK459	6G22.7G2-3	占構 V N48° W	2.24	(1.40)	2.06	(1.26)	0.69	-0.31	円形 黒土	○	29-30	
4-8-9	SK101	9H1	占構 V N63° W	0.65	0.45	0.45	0.28	0.12	-0.34	円形 黒土	○		
4-7	SK118	7F24	占構 V N68° W	0.71	0.53	(0.36)	0.34	0.14	-0.30	円形 黒土	○		
4-9-10-12-23	SD447	6G18-19-20-23-24- 25.6H16-25.7G4-5.7H1	占構 V N85° E	13.55	7.45	3.13	1.09	0.19	0.40	-	黒土	○	30
4-7-8-19	SK38	8H1-14-18-19	占構 V N42° E	3.55	1.30	3.31	1.28	0.08	-0.21	円形 黒土	○		
4-7-10-19	SK173	8G1-6	占構 V N57° E	1.80	1.44	1.57	1.29	0.14	-0.28	円形 黒土	○		
4-12-22	SK513	6H5.6H1	占構 V N69° W	1.08	0.69	0.37	0.39	0.53	-0.81	円形 白灰状	○		
4-7-23	SK228	7F23.8F3	占構 V N0° E	2.76	(0.55)	2.40	(0.40)	0.05	-0.22	-	黒土	○	
4-12-23	SK538	6H11-12-16-17	占構 V N91° E	1.89	1.60	-	-	0.06	-0.30	円形 黒土	○	30	
4-8-14	P44	9G13	占構 V N60° W	0.33	0.22	0.17	0.15	0.34	-0.34	円形 黒土	×	SB601	
4-8-14	P57	9G10	占構 V N35° W	0.28	0.28	0.15	0.14	0.10	-0.36	円形 黒土	×	SB601	
4-8-14	P86	9G15	占構 V N45° W	0.41	0.39	0.20	0.20	0.17	-0.46	円形 黒土	×	SB601	
4-8-14	P92	9G25	占構 V N45° W	0.41	0.38	0.25	0.22	0.17	-0.46	円形 黒土	×	SB601	
4-8-14	P98	9G8	占構 V N49° W	0.40	0.40	0.20	0.23	0.16	-0.35	円形 黒土	×	SB601	
4-8-14	P99	8G23	占構 V N61° W	0.29	0.28	0.17	0.15	0.13	-0.28	円形 黒土	×	SB601	
4-8-10-15	P141	8G18	占構 V N65° W	0.31	0.30	0.15	0.13	0.15	-0.29	円形 黒土	×	SB602	
4-10-15	P176	8G8	占構 V N41° W	0.32	0.32	0.11	0.10	0.37	-0.54	円形 黒土	×	SB602	
4-8-9-10-15	P258	8G16-20	占構 V N78° W	0.19	0.25	0.06	0.06	0.41	-0.63	円形 白灰状	×	36 SB602	
4-10-15	P324	7G23	占構 V N49° W	0.28	0.18	0.13	0.07	0.09	-0.29	円形 黒土	×	SB602	
4-9-10-15	P356	7G25	占構 V N60° W	0.24	0.24	0.09	0.09	0.21	-0.40	円形 黒土	×	SB602	
4-9-10-15	P393	8G10	占構 V N52° W	0.23	0.22	0.11	0.10	0.38	-0.42	円形 黒土	×	36 SB602	
4-10-16	P290	7G13	占構 V N34° W	0.29	0.26	0.11	(0.01)	0.15	-0.52	円形 黒土	×	SB603	
4-10-16	P294	7G6	占構 V N63° W	0.31	0.25	0.05	0.05	0.28	-0.38	円形 黒土	×	SB603	
4-10-16	P327	7G8	占構 V N68° W	0.29	0.29	0.07	0.02	0.48	-0.58	円形 白灰状	×	SB603	
4-9-10-16	P174	8H6-7	占構 V N62° W	0.35	0.32	0.21	0.18	0.07	-0.41	円形 黒土	×	SB604	
4-9-10-16	P237	8G5	占構 V N60° W	0.27	0.27	0.14	0.13	0.11	-0.34	円形 黒土	×	SB604	

別 表

図号 NO.	連続	グリッド	時代	構造形式	主軸方位	規模 (m)				突出距離 (m)	形式		遺物の種類	備考	
						上層		下層			平面	断面			
						長軸	短軸	長軸	短軸						深さ
4-9-10-16	P430	7H21	古墳	V	N50°E	0.25	0.18	0.22	0.12	0.25	0.48	円形	白粉状	○	S8604
4-9-10-16	P437	7H22	古墳	V	N48°W	0.20	0.20	0.08	0.07	0.24	-0.52	円形	半円形	○	S8604
4-9-10-17	P078	7G15	古墳	V	N60°E	0.42	0.34	0.19	0.15	0.27	-0.47	楕円形	半円形	×	S8605
4-9-10-17	P411	7G5	古墳	V	N48°E	0.22	0.19	0.09	0.07	0.08	-0.25	円形	半円形	×	S8605
4-9-10-17	P443	7H2	古墳	V	N50°E	0.23	0.20	0.10	0.09	0.10	-0.33	円形	半円形	×	S8605
4-9-10-17	P445	7H12	古墳	V	N45°W	0.21	0.21	0.08	0.08	0.11	-0.34	円形	半円形	○	S8605
4-9-10-17	P465	7H13	古墳	V	N50°W	0.28	0.26	0.14	0.11	0.25	-0.47	円形	半円形	×	S8605
4-9-10-17	P478	7H3	古墳	V	N28°W	0.24	0.21	0.11	0.08	0.13	-0.34	円形	半円形	×	S8605
4-9-12-17	P452	6E21-22	古墳	V	N1°E	0.40	0.26	0.21	0.12	0.16	-0.40	楕円形	半円形	○	S8606
4-9-12-17	P535	6E16-17	古墳	V	N60°W	0.26	0.26	0.12	0.11	0.17	-0.41	円形	半円形	×	S8606
4-9-12-17	P538	6H20	古墳	V	N66°E	0.20	0.20	0.10	0.09	0.17	-0.42	円形	半円形	×	S8606
4-7-10-23	P89	8G6	古墳	V	N48°W	0.36	0.28	0.16	0.12	0.34	-0.47	楕円形	U字状	×	36
4-8-23	P102	8G18	古墳	V	N6°E	0.25	0.23	0.13	0.10	0.41	-0.55	円形	U字状	×	36
4-8-23	P107	8G18	古墳	V	N6°E	0.27	0.25	0.12	0.12	0.12	-0.28	円形	墓形		
4-8-10-23	P221	8G12-13	古墳	V	N62°W	0.26	0.25	0.15	0.11	0.13	-0.28	楕円形	半円形	○	
4-8-10-23	P239	8G13	古墳	V	N48°W	0.22	0.20	0.10	0.10	0.40	-0.54	円形	墓4枚	×	36
4-9-10-24	P304	7G20	古墳	V	N63°E	0.32	0.29	0.16	0.16	0.37	-0.56	円形	墓4枚	○	36
4-9-10-24	P394	7G25	古墳	V	N63°W	0.08	0.08	0.03	0.03	0.13	-0.36	円形	U字状	○	
4-9-10-24	P427	7H16	古墳	V	N61°W	0.07	0.07	0.01	0.01	0.08	-0.30	円形	半円形	×	
4-8-9-24	P125	8H21	古墳	V	N35°E	0.29	0.28	0.15	0.15	0.09	-0.34	円形	半円形	○	
4-8-10-24	P139	8G12-13・17-18	古墳	V	N78°W	0.34	0.24	0.13	0.10	0.22	-0.35	楕円形	半円形	○	
4-8-10-24	P140	8G12-13	古墳	V	N79°W	0.29	0.23	0.11	0.10	0.15	-0.28	楕円形	半円形	○	
4-9-24	P189	8H18	古墳	V	N44°E	0.43	0.34	0.27	0.22	0.11	-0.47	楕円形	半円形	○	30
4-7-10-24	P98	8G1	古墳	V	N25°W	0.29	0.27	0.13	0.13	0.16	-0.31	円形	半円形	○	30
4-9-10-24	P417	8H6	古墳	V	N45°W	0.20	0.19	0.08	0.07	0.20	-0.47	円形	自然形	○	30
4-9-24	P476	7H5	古墳	V	N64°W	0.26	0.25	0.14	0.11	0.13	-0.34	円形	半円形	○	30
4-9-24	P498	7H6	古墳	V	N35°E	0.35	0.23	0.21	0.21	0.07	-0.28	円形	墓形	○	35
4-9-24	P500	7H-6	古墳	V	N35°E	0.26	0.40	0.15	0.25	0.08	-0.28	墓形	半円形	○	
4-9-11-24	P502	7T	古墳	V	N36°E	0.27	0.21	0.16	0.08	0.10	-0.31	楕円形	半円形	○	30
4-9-12-24	P473	6E16	古墳	V	N62°W	0.50	0.35	0.35	0.20	0.17	-0.40	楕円形	半円形	○	30
4-8-9-10-18	P257	8G15	古墳	V	N78°W	0.25	0.23	0.05	0.03	0.19	-0.40	円形	墓4枚	○	
4-8-19	P26	9G3	古墳	V	N50°W	0.26	0.24	0.12	0.11	0.15	-0.34	円形	半円形	×	
4-7-21	P212	7F20	古墳	V	N23°E	0.17	0.15	0.13	0.08	0.06	-0.22	円形	半円形	×	
4-7-10-21	P191	8G1	古墳	V	N60°W	0.21	0.30	0.12	0.14	0.11	-0.27	円形	半円形	×	
4-9-10-21	P813	8H1-2	古墳	V	N30°E	0.28	0.25	0.12	0.15	0.13	-0.29	円形	半円形	×	

別表2 上大川遺跡 土器・土製品・陶器観察表

凡 例 1 出土位置 遺構名・グリッド番号を記す。
 2 調査年度 調査年度(記号なし)は、発掘調査による調査年度(記号あり)で示す。
 3 土器 ①片・底片・底面のみを、既製の器類は全体の半割程度のみを示す。
 4 目 土器の用途・形状・用途については記号なし、「石」は石製、「骨」は骨製、「角」は角製、「竹」は竹製、「漆」は漆製を指す。
 5 注 形 形状のみで記述するものもある。

調査年度	報告書 %	出土位置 遺構名 グリッド	用途	種類	形状	分装	残存部位	法量 (g)			動土	色澤	焼成	遺物		通行年	備考		
								口徑	底径	高さ				含有物	用途			内面	外面
28	1	SR28 9G18	3	土器類	甕	A3	口	(18.9)			石・長・白	赤	内：黒褐色 (T.5V93/1) 外：黒褐色 (T.5V23/1)	良好	ヨコナテ	ヨコナテ			
28	2	SR28 9H11	2	土器類	甕	A2	口	(16.0)			石・長・黒	やや赤	内：赤い・黒焼 (10YR7/3) 外：赤い・黒焼 (10YR7/3)	普通	口：ヨコナテ	口：ヨコナテ	3/36	外面にスス付着	
28	3	SR28 9G18	5	土器類	甕	A	口	(18.4)			石・長・白・赤	やや赤	内：赤い・黒焼 (10YR6/3) 外：赤い・黒焼 (10YR6/3)	普通	口：ヨコナテ		3/36		
28	4	SR31 9H11	1	土器類	甕	A3	口 口～ 体上半	(13.6)			長・黒・白・赤	赤	内：黒褐色 (T.5V7/3) 外：黒褐色 (T.5V9/2)	良好	口：ヨコナテ、体：ハケメ→ナテ 輪縁部剥離	口：ヨコナテ、体：ハケメ→ナテ (ヘラナテに近い)	6/36	外面にスス付着	
28	5	SR31 9H11	1	土器類	甕	A3	口～ 体上半	17.7			石・長・赤	黒	内：黒 (T.5V6/2) 外：黒 (T.5V6/2)	普通	口：ヨコナテ、体：ハケメ		5/36	底部表面にスス付着	
28	6	SR31 9H11	4	土器類	甕	-	体～底	7.1			石・長・黒	黒	内：黒褐色 (10YR3/1) 外：黒褐色 (10YR7/2)	不良	体：ハケメ、底付着：ハケメ→ナテ	体：ハケメ	36/36	体面の外面にスス・コゲ付着	
28	7	SR31 9H11	2	土器類	鉢	A	口～体	(13.4)			石・黒	赤黒	内：赤褐色 (10YR5/2) 外：黒褐色 (10YR4/2)	良好	口：ナテ (モヤネに近い) 丁寧なナテ、体：ハケメ→ナテ	口：ヨコナテ、体：モヤネ	2/36		
28	8	SR170 9G20	1	土器類	甕	A3	口～ 体上半	(17.4)			石・長・白	赤	内：赤い・黒焼 (10YR7/2) 外：赤い・黒焼 (10YR7/2)	普通	口：ヨコナテ、体：ナテ	口：ヨコナテ、体：ハケメ	3/36		
28	9	SR170 9G20	1	土器類	甕	A3	口				石・長	普通	内：赤い・黒焼 (10YR7/3) 外：赤い・黒焼 (10YR7/4)	やや不良	ヨコナテ	ヨコナテ	1/36	外面にスス・コゲ付着	
28	10	SR170 9G15	1	土器類	甕	A3	口	(19.6)			石・長	赤	内：黒褐色 (T.5V7/3) 外：黒褐色 (T.5V9/2)	良好	ヨコナテ	ヨコナテ	4/36	外面にスス付着	
28	11	SR170 9G15・20	1	土器類	甕	A3	口 口～ 体上半	16.6	3.1	20.7	石・赤	赤	内：黒褐色 (T.5V7/3) 外：黒褐色 (10YR6/2)	良好	口：ヨコナテ→一部ハケメ、体：ハケメ→ナテ、輪縁部剥離。底付着、胎体剥離	口：ヨコナテ、体：ハケメ、一部ヘラナテ、底：ナテ	4/36	36/36	底面剥離付着体表面にスス付着
28	12	SR255 9G15	5	土器類	甕	A3	口～ 体上半	(14.8)			石・長・黒	赤	内：赤い・黒焼 (10YR6/3) 外：赤い・黒焼 (10YR6/2)	良好	口：ヨコナテ、体：ナテ	口：ヨコナテ、体：ハケメ→ヘラナテ	3/36	内外面にスス・コゲ付着	
28	13	SR255 9G10	7	土器類	高杯	(A1)	脚				石・長・白	赤	内：赤い・黒焼 (10YR7/3) 外：赤い・黒焼 (10YR6/3)	良好	脚：モヤネ	脚：モヤネ			
28	14	SR255 9G10・15	3・4	土器類	高杯	(A)	脚	(13.7)			黒	赤	内：赤い・黒焼 (10YR7/2) 外：赤い・黒焼 (10YR6/3)	普通	ハケメ→ヨコナテ	ハケメ→ヨコナテ	5/36		
28	15	SR457 9H17	1・IV	土器類	甕	A2	口	(19.5)			石・長・白・赤	赤	内：赤い・黒焼 (10YR7/3) 外：赤い・黒焼 (10YR7/3)	良好	ヨコナテ	ヨコナテ	4/36		
28	16	SR491 9H2	1	土器類	甕	A	口	(20.3)			黒・白	赤	内：赤い・黒焼 (10YR7/3) 外：赤い・黒焼 (10YR7/2)	普通	ハケメ→ヨコナテ	ハケメ→ヨコナテ	2/36		
28	17	SR491 9H7・8・12・13	5	土器類	甕	-	体～底	3.3			石・黒・赤	普通	内：黒褐色 (T.5V4/1) 外：黒褐色 (10YR6/2)	普通	体：ハケメ、底：ナテ	体：ハケメ、底：ハケメ	36/36	内面にススコゲ付着	
28	18	SR491 9H2	2	土器類	甕	A3	口	(14.0)			石・長	やや赤	内：赤い・黒焼 (10YR7/3) 外：赤い・黒焼 (10YR7/3)	やや不良	ヨコナテ	ヨコナテ→ハケメ	6/36	外面にスス付着	
28	19	SR37 9G16	1	土器類	甕	A3	口～ 体上半	(17.4)			石・長・黒	赤	内：赤い・黒焼 (10Y7/3) 外：赤い・黒焼 (10YR6/3)	良好	口：ヨコナテ、体：ハケメ・輪縁部剥離	口：ヨコナテ、体：ハケメ→ナテ	2/36	外面にスス付着	
28	20	SR37 9G16	1	土器類	甕	A3	口～ 体上半	(16.8)			石・長・黒・白	普通	内：赤い・黒焼 (10YR6/3) 外：赤い・黒焼 (10YR6/3)	普通	口：ヨコナテ、体：ハケメ (ヘラナテに近い)	口：ヨコナテ、体：ハケメ	3/36		
28	21	SR37 9G16	1	土器類	甕	-	体～底	3.7			黒・赤	普通	内：赤褐色 (10YR6/2) 外：赤褐色 (10YR6/2)	普通	ハケメ→ナテ、底：胎体剥離	体：ハケメ (ヘラナテに近い)	36/36	底部剥離付着、外面にスス・コゲ、内面にコゲ付着	
28	22	SR37 9G16	1	土器類	甕	A	口				黒	赤黒	内：赤褐色 (10YR6/2) 外：赤褐色 (10YR7/4)	良好	ナテ、剥離	ヨコナテ→一部ハケメ			
28	23	SR37 9F23	1	土器類	鉢	C2	口～脚	13.0			石・長・白	赤	内：暗褐色 (T.5V9/2) 外：黒褐色 (10YR7/3)	良好	口：ハケメ→ヨコナテ、体：ハケメ→ヘラナテ、脚：ハケメ	口：ハケメ→ヨコナテ、体：ハケメ→ヘラナテ	6/36		
28	24	SR37 9G16	1	土器類	鉢	C3	体下半 ～底	2.4			石・長・黒	赤	内：赤い・黒焼 (10YR6/2) 外：赤い・黒焼 (10YR6/4)	良好	ヘラナテ・胎体剥離	ナテ	36/36	底・胎体剥離	
28	25	SR231 9G16	1	土器類	甕	A3	口～体	21.0			石・長・黒	赤	内：赤い・黒焼 (10YR6/3) 外：赤い・黒焼 (10YR6/4)	良好	口：ハケメ→ヨコナテ、体：ヘラナテ	口：ヨコナテ、体：ハケメ	11/36	外面にスス付着	
28	26	SR144 9G4	3 SR144A の1層	土器類	鉢	H	口～底	10.0	1.7	6.45	石・長・白	赤	内：赤い・黒 (T.5V6/3) 外：赤い・黒 (T.5V6/4)	良好	口：ハケメ→ヨコナテ、体：ハケメ、底：ナテ	口：ハケメ→ヨコナテ、体：ハケメ、底：ナテ	8/36	36/36	底部剥離付着
28	27	SR349 9G9	1	土器類	甕	A3	口	(16.0)			石・長	赤	内：赤い・黒焼 (10YR6/3) 外：赤褐色 (10YR4/2)	良好	ハケメ→ヨコナテ	ハケメ→ヨコナテ	2/36	外面にスス・コゲ付着	

路線No.	報告者No.	出土位置		層位	種類	器種	分類	保存部位	法長 (cm)			胎土		色澤	胎地			通存年	備考	
		遺跡名	グランド						口径	底径	高さ	含有物	産地		内胎	外胎	口縁			腹部
29	28	SK-458	6023	1	土師器	鉢	C1	口一休	10.9				石・灰・土	普通	内: 土師器 (10YR6/3) 外: 灰黄緑 (10YR6/2)	普通	白: ココナデ, 赤: ナデ	白: ココナデ, 赤: 土師器, 赤: 土師器 赤: ココナデ	13/36	
29	29	SK-459	702	1-2	土師器	甕	A3	口一休 体上半	19.5				石・灰・土	粗	内: 土師器 (7.5YR6/3) 外: 土師器 (7.5YR6/4)	粗	白: ハケメ→ココナデ, 赤: ナデ 赤: ナデ	白: ハケメ→ココナデ, 赤: ナデ 赤: ハケメ	7/36	
29	30	SK-459	702	2	土師器	甕	A2	口一休 体上半	(19.0)				石・灰	常	内: 土師器 (7.5Y7/2) 外: 灰黄 (2.5Y7/2)	粗	白: ココナデ, 赤: ナデ	白: ココナデ, 赤: ハケメ	7/36	外面にスス付着
29	31	SK-459	702	1-2	土師器	甕	A	胴一休					石・灰・土・白	粗	内: 灰黄 (7.5Y5/2) 外: 灰黄 (7.5Y5/2)	普通	赤: ナデ (ヘラナデに似る)	赤: ハケメ		74と同一種類の可能性あり, 外面にスス・コウ付着
29	32	SK-459	702	2	土師器	甕	A3	口一休	13.8				石・灰・白	常	内: 土師器 (10YR6/3) 外: 土師器 (10YR6/3)	粗	白: ハケメ→ココナデ, 赤: ハケメ→ナデ (ヘラナデに似る) 輪切取付	白: ハケメ→ココナデ, 赤: 土師器 白: ハケメ→ココナデ	21/36	外面にスス・コウ付着
29	33	SK-459	702	1-2-3	土師器	甕	-	体一底	8.2				石・灰・土・白	普通	内: 土師器 (7.5YR6/4) 外: 土師器 (7.5YR6/3)	粗	赤: ナデ, 灰: ハケメ 赤: ナデ, 灰: ハケメ	赤: ナデ, 灰: ハケメ 赤: ナデ	19/36	体面外面にスス
29	34	SK-459	702, 6020	2	土師器	小型甕	B	体一底		丸			石	常	内: 灰黄 (2.5Y4/1) 外: 灰黄 (2.5Y7/2)	粗	ハケメ→ナデ・輪切取付 底: 断面取付	ハケメ→ナデ	26/36	外面にスス付着
29	35	SK-459	702	1	土師器	小型甕	-	体一底					瓦	常	内: 土師器 (7.5Y7/2) 外: 土師器 (7.5Y6/3)	粗	ナデ	ナデ, 一部スガキ		
30	36	SK-459	6024, 702, 6022	2-IV	土師器	鉢	C1	口一休 下半	14.5				石・灰・瓦	常	内: 灰白 (10YR7/2) 外: 灰黄緑 (10YR6/3)	粗	ナデ	白: ハケメ, 体上半: ハケメ→ 赤い土師器, 体下半: ハケメ→ 赤	16/36	内面に輪切取付あり
30	37	SK-459	702	1	土師器	高杯	A1	杯	(15.5)				石・瓦	常	内: 土師器 (10YR7/3) 外: 土師器 (10YR7/3)	粗	土師器	土師器	5/36	
30	38	SK-459	6023	2	土師器	高杯	(A1)	脚	(11.8)				石・瓦	常	内: 土師器 (10YR6/2) 外: 土師器 (10YR6/3)	粗	土師器	土師器	6/36	
30	39	SD-447	6025	1	土師器	甕	A1	口一休 体上半	17.9				石・灰・土・白	普通	内: 土師器 (10YR7/3) 外: 灰黄緑 (10YR6/3)	やや平直	白: ココナデ, 赤: ナデ	白: ココナデ, 赤: ナデ	35/36	口縁外面にスス付着
30	40	SD-447	6025	1	土師器	甕	A2	口一休 体上半	17.0				石・灰・瓦	普通	内: 土師器 (10YR7/3) 外: 土師器 (10YR6/3)	粗	白: ココナデ, 赤: ハケメ→ナデ	白: ココナデ, 赤: ハケメ	9/36	外面にスス付着
30	41	SD-447	6022, 6025	1	土師器	甕	A3	口	20.4				瓦・土	常	内: 土師器 (10YR6/3) 外: 灰黄緑 (10YR6/2)	粗	ハケメ→ココナデ	ハケメ→ココナデ	9/36	外面面にスス付着
30	42	SD-447	6024, 704	1	土師器	甕	A2	口一休 体上半	17.2				石・灰・土・白	やや粗	内: 土師器 (2.5Y6/2) 外: 土師器 (10YR6/4)	普通	白: ハケメ→ココナデ, 赤: ナデ 赤: ナデ	白: ハケメ→ココナデ, 赤: ハケメ 赤: ナデ	16/36	外面にスス付着
30	43	SD-447	6025	1	土師器	甕	A1	口一休 体上半	(14.4)				石・灰・土・白	やや粗	内: 土師器 (10YR7/4) 外: 土師器 (10YR6/4)	やや平直	白: ココナデ, 赤: ナデ・輪切 取付	白: ココナデ, 赤: ハケメ→ナデ 赤: ナデ	3/36	
30	44	SD-447	704	1	土師器	甕	A3	口一休	(19.5)				石・灰・土	普通	内: 土師器 (10YR6/3)	粗	白: ココナデ, 赤: ナデ	白: ココナデ, 赤: ハケメ	1/36	外面にスス付着
30	45	SD-447	6019+24, 6016	1	土師器	甕	A3	口	17.2				石・灰・白	常	内: 土師器 (10YR6/4) 外: 土師器 (10YR6/3)	粗	白: ハケメ→ココナデ, 赤: ハケメ→ ココナデ	白: ココナデ, 赤: ハケメ→ ココナデ	12/36	口縁外面面にスス付着
30	46	SD-447	6025	1-2	土師器	甕	B3	口一休 体上半	13.9				石・灰・土・白	普通	内: 土師器 (10YR7/4) 外: 土師器 (10YR6/4)	粗	白: ココナデ, 赤: ナデ	白: ココナデ, 赤: ハケメ (ヘ ラナデに似る)	10/36	
30	47	SD-447	6020	1	土師器	甕	-	底	4.0				石・瓦	常	内: 土師器 (10YR7/2) 外: 土師器 (10YR7/3)	普通	ナデ・輪切	底付近: 土師器, 底: 土師器	26/36	
30	48	SD-447	6023	1	土師器	鉢	C	口一休	(16.8)				石・灰・土・白	常	内: 土師器 (2.5Y6/2) 外: 土師器 (2.5Y7/3)	粗	ココナデ	白: ココナデ, 赤: ナデ→ハ ケメ	4/36	
30	49	SD-447	6023	1-2	土師器	鉢	C3	口一底	18.0	丸	14.9		石・灰・瓦 土師器・ 磁	普通	内: 土師器 (2.5Y7/3) 外: 土師器 (2.5Y7/3)	やや平直	白: ココナデ, 赤: ハケメ	白: ココナデ, 赤: ハケメ→ナ デ	21/36, 26/36	底面取付
30	50	SD-447	6021	1-2	土師器	高杯	A1	杯	15.8				石・灰・土	常	内: 土師器 (2.5Y7/2) 外: 土師器 (2.5Y6/3)	粗	ハケメ→土師器	土師器	7/36	
30	51	SD-447	6021	1-2	土師器	高杯	B	杯	(12.8)				石	常	内: 土師器 (10YR7/3) 外: 土師器 (10YR6/4)	粗	土師器	土師器	10/36	
30	52	SD-447	705	1	土師器	高杯	(A)	脚					石・灰・瓦	常	内: 土師器 (2.5Y7/2) 外: 土師器 (2.5Y6/2)	粗	ナデ, ハケメ	土師器		
30	53	SD-447	6021	1	土師器	高杯	-	脚					石・瓦	常	内: 土師器 (2.5Y7/3) 外: 土師器 (2.5YR6/8)	粗	ハケメ→ヘラナデ (タズナに似 る)	ハケメ→土師器		外面にスス
30	54	SK-536	6016	1	土師器	小型甕	A	口	(11.8)				石・白	普通	内: 土師器 (10YR7/2) 外: 土師器 (10YR7/4)	普通	ココナデ	ココナデ	3/36	
30	55	P98	801	1	土師器	高杯	(A2)	脚			(14.6)		石・瓦	やや粗	内: 土師器 (10YR7/4) 外: 土師器 (5YR6/6)	平直	ナデ	土師器	7/36	内外面に取付, 取付あり
30	56	P189	801B	1	土師器	高杯	(A2)	脚					石	常	内: 灰白 (2.5Y8/2) 外: 土師器 (2.5Y7/3)	粗	赤: ナデ, 底付近: ハケメ	土師器		
30	57	P417	806	1	土師器	甕	A3	口	(16.6)				石・灰・土・白	常	内: 土師器 (10YR6/3) 外: 灰黄緑 (10YR6/2)	粗	ココナデ	ココナデ	4/36	外面にスス付着

路線 No.	報告者 No.	出土位置		層位	種類	器種	分類	保存 状態	法長 (cm)			胎土		色澤	焼成	産物		通存年		備考
		遺跡名	クワット						口径	底径	高さ	含有物	産地			内胎	外胎	口縁部	底面	
30	58	P473	6016	1・2	土師器	鉢	C	口縁上半	19.0			石・灰・黄・白	普通	内・土色(2.5Y7/1) 外・灰黄(2.5Y6/2)	良好	白胎・ナデ	口:ヨコナデ, 体:ナデ, 一部 土着	口:ヨコナデ	13/06	
30	59	P476	705	1	土師器	鉢	A1	口	18.0			石・灰・黄・白	普通	内・土色(2.5Y7/1) 外・土色(2.5Y6/2)	良好	口:ヨコナデ	口:ヨコナデ, 體:ハケメ	3/06	外面にスス・コゲ付着	
30	60	P502	707	1	土師器	鉢	A	口	15.8			石・灰・白	普通	内・土色(2.5Y7/1) 外・灰黄(2.5Y6/2)	良好	口:ハケメ→ヨコナデ, 体:ナ デ→ハケメナデ	口:ハケメ→ヨコナデ, 体:ハ ケメ→ハケメナデ	2/06		
31	61	-	605	否	土師器	鉢	A3	口・体	13.0			石・灰	密	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	やや 平良	口:ヨコナデ, 体:ナデ	口:ヨコナデ, 体:ハケメ→ナ デ	17/06	外面にスス付着	
31	62	-	963・4	否	土師器	鉢	A3	口・体	13.0			灰・黄	密	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	良好	口:ヨコナデ, 体:ナデ, 胎土 含有物無し	口:ヨコナデ, 体:ナデ	6/06	外面にスス付着	
31	63	-	6014・23	否	土師器	鉢	A3	口・体	18.8			石・灰・黄・白	やや粗	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	普通	口:ヨコナデ, 体:ナデ	口:ヨコナデ, 体:ナデ	10/06	外面にスス付着	
31	64	-	5982	否	土師器	鉢	A2	口	16.6			石・黄・灰 白	普通	内・土色(2.5Y7/3) 外・土色(2.5Y6/2)	普通	口:ヨコナデ	口:ヨコナデ	5/06		
31	65	-	6920	否	土師器	鉢	A2	口・ 体下半	19.8			石・灰・黄・ 白	普通	内・土色(2.5Y6/3) 外・灰黄(2.5Y6/2)	普通	口:ヨコナデ, 体:ナデ・厚底	口:ヨコナデ, 体:ハケメ	5/06		
31	66	-	6016・22	否	土師器	鉢	A2	口・ 体下半	17.2			石・灰・黄	普通	内・土色(2.5Y7/3) 外・灰黄(2.5Y6/2)	良好	口:ヨコナデ, 体:ナデ	口:ヨコナデ, 体:ハケメ	6/06		
31	67	-	6024	否	土師器	鉢	A2	口	16.9			灰・黄・黄 白	普通	内・土色(2.5Y7/4) 外・土色(2.5Y6/2)	やや 平良	口:ヨコナデ, 体:ナデ	口:ヨコナデ, 体:ハケメ	5/06	外面にスス・コゲ付着	
31	68	-	6914	否	土師器	鉢	A1	口	15.8			石・灰	やや 平良	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	やや 平良	ヨコナデ	ヨコナデ	1/06		
31	69	-	7018・19	否	土師器	鉢	A3	口・体	15.6			石・灰・黄・ 白	やや粗	内・土色(2.5Y6/3) 外・土色(2.5Y7/2)	やや 平良	口:ハケメ→ヨコナデ, 体:ハ ケメ→ナデ	口:ハケメ→ヨコナデ, 体:ハ ケメ→ナデ	35/06	外面にスス・体部内面にコゲ付 着	
31	70	-	9610	否	土師器	鉢	A3	口・体	19.2			石・灰・白	普通	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	やや 平良	口:ヨコナデ, 体:ナデ	口:ヨコナデ, 体:ハケメ	2/06		
31	71	-	6011	否	土師器	鉢	A3	口・体	15.6			石・灰・黄・ 白	やや粗	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	やや 平良	口:ハケメ→ヨコナデ, 体:ハ ケメ	口:ハケメ→ナデ, 体:ナ デ	1/06	外面にスス・コゲ付着	
31	72	-	605	否	土師器	鉢	A3	口 底 内面	10.4	2.3	12.4	石・灰・黄・ 白	普通	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	良好	口:ハケメ	口:ハケメ→ナデ, 体:ハケ メ	4/06	36/06	
31	73	-	622	否	土師器	鉢	A3	口・体	21.9			石・白	やや粗	内・土色(2.5Y7/2) 外・灰黄(2.5Y6/2)	やや 平良	口:ヨコナデ, 体:ハケメ→ナ デ	口:ヨコナデ, 口下厚ハケメ, 体:ハケメ	6/06	外面にスス・コゲ付着	
31	74	-	762	否	土師器	鉢	A3	口	21.5			石・灰・黄・ 白	やや粗	内・土色(2.5Y7/1) 外・土色(2.5Y6/4)	普通	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ	4/06	31・2と同一産物の種類あり, 外 面にスス・コゲ付着	
31	75	-	6024・25	否	土師器	鉢	-	体・底	3.3			石・灰・黄・ 白	普通	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	普通	ハケメ	体:ハケメ, 底:ナデ	36/06	底面が厚底, 外面にスス・コ ゲ付着	
31	76	-	6011, 6015	否	土師器	鉢	A2	口・体	18.1			石・灰・黄	密	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	良好	口:ヨコナデ, 体:ナデ	口:ハケメ→ヨコナデ, 体:ハ ケメ	8/06	体部外面にスス付着	
32	77	-	6019	否	土師器	鉢	A4	口・ 体上半	15.6			石・灰	やや粗	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	やや 平良	口:ハケメ, 体:ナデ(ナデ) 口底に 底面が厚底	口:ナデ, 胎土含有物, 体:ハ ケメ(口底に底面)	22/06	外面にスス付着	
32	78	-	6024	否	土師器	鉢	A4	口・体	14.4			石・灰・黄	普通	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	良好	口:ハケメ	口:ハケメ	11/06	外面にスス付着	
32	79	-	702	否	土師器	鉢	A3	口・ 体下半	16.9			灰・黄	密	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/4)	普通	口:ハケメ→ヨコナデ, 体:ハ ケメ→ナデ	口:ハケメ→ヨコナデ, 体:ハ ケメ→ナデ	13/06	体部外面にスス付着	
32	80	-	6022	否	土師器	鉢	A3	口・底	17.8	3.9	15.5	石・灰・黄・ 白	普通	内・土色(2.5Y7/2) 外・灰黄(5.0)	良好	口:ヨコナデ, 体:ハケメ, 胎 土含有物	口:ヨコナデ, 胎土含有物, 底: ナデ	8/06	底面が厚底	
32	81	-	6017	否	土師器	鉢	A3	口・ 体上半	19.0			石・灰・黄・ 白	普通	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	良好	口:ヨコナデ, 体:ナデ, 胎土 含有物	口:ヨコナデ, 体:ハケメ	4/06	外面にスス付着	
32	82	-	601	否	土師器	鉢	A2	口	18.0			石・灰・黄 白	密	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	普通	口:ヨコナデ, 体:ナデ, 胎土 含有物	口:ヨコナデ, 体:ハケメ→ナ デ	22/06		
32	83	-	6023・25	否	土師器	鉢	A2	口・ 体下半	17.0			石・灰・黄	普通	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	やや 平良	口:ヨコナデ, 体:ナデ, ハケ メ	口:ヨコナデ, 体:ハケメ, ハ ケメ(口底に)	8/06	内外面に黄泥, 外面にスス付着	
32	84	-	6022・23	否	土師器	鉢	A2	口・体	15.7			石・灰・白	やや粗	内・土色(2.5Y7/2) 外・灰黄(2.5Y6/2)	やや 平良	口:ヨコナデ, 体:ハケメ→ナ デ・胎土含有物	口:ヨコナデ, 体:ハケメ, 胎 土	20/06	外面にスス付着	
32	85	-	6021・22	否	土師器	鉢	A2	口	17.6			石・灰・黄	やや粗	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	良好	口:ヨコナデ, 体:ナデ	口:ハケメ→ナデ, 体:ハ ケメ, ナデ	10/06	外面にスス付着	
32	86	-	6020	否	土師器	鉢	A1	口・体	18.8			石・灰・黄・ 白	普通	内・土色(2.5Y7/4) 外・土色(2.5Y6/2)	普通	口:ヨコナデ, 体:ハケメ→ハ ケメ	口:ヨコナデ, 体:ハケメ→ナ デ	9/06		
32	87	-	6012	否	土師器	鉢	A2	口	17.8			石・白	やや粗	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	平良	口:ハケメ→ヨコナデ, 体:ハ ケメ→ナデ	口:ハケメ→ヨコナデ, 体:ハ ケメ→ナデ	4/06	外面にスス付着	
32	88	-	704	否	土師器	鉢	A	口	13.3			石・灰・黄	密	内・土色(2.5Y7/2) 外・土色(2.5Y6/2)	良好	口:土着	口:土着	3/06		

路線No.	駅名	地上位置		形式	種別	路線	分類	存在理由	法線 (m)			軌上		色帯	施設	設備		運行率			備考	
		種別	形状						幅員	有効幅員	標準	内線	外線			1線率	直通	割合				
33	89	-	8918	否	1線路	巻	A	口	(30.8)			石・瓦・瓦 葺	内：L形・既設 (7/3) 外：L形・既設 (7/4)	良好	白：ハケメ→ヨコナデ	白：ヨコナデ	2/36					
33	90	-	711・8・9, 7104	否	1線路	巻	A	口	18.4			石・瓦・瓦 葺	内：L形・既設 (2/57/3) 外：L形・既設 (2/57/2)	普通	巻コナデ、一部ミガキ	ヨコナデ、巻ミガキ	22/36					
33	91	-	9912	否	1線路	巻	A	口	(18.6)			石・瓦・瓦 葺	内：L形・既設 (10Y96/3) 外：L形・既設 (10Y96/2)	良好	ミガキ	ミガキ	4/36					
33	92	-	9912	否	1線路	巻	A	口	(19.4)			石・瓦・チ 中々葺	内：L形・既設 (10Y96/2) 外：L形・既設 (10Y96/2)	やや 不良	白：ミガキ、剥離	白：ミガキ	3/36					
33	93	有2号 18T		1線路	巻	A	口	(16.7)				石・瓦 葺	内：L形・既設 (7/596/3) 外：L形・既設 (7/597/4)	不良	ヨコナデ、剥離	ヨコナデ	8/36					
33	94	-	8920	否	1線路	巻	A	口				石	内：オリーブ・既 (5Y3/1) 外：L形・既設 (10Y97/4)	良好	白：ヨコナデ、巻・ハケメ	白：ハケメ→ヨコナデ、巻・ハケメ						
33	95	-	7911	否	1線路	巻	A	口	(15.4)			石・瓦・瓦 葺	内：L形・既設 (10Y97/2) 外：L形・既設 (10Y97/1)	普通	白：ヨコナデ	白：ヨコナデ	4/36					外面にス・コガ材葺
33	96	-	6024	否	1線路	巻	H2	側				石・瓦 葺	内：L形・既 (2/57/1) 外：L形・既 (2/57/2)	良好	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ						
33	97	-	7118	否	1線路	巻	H1	口〜側	12.5			石・瓦・瓦 葺	内：L形・既 (10Y96/2) 外：L形・既 (10Y96/3)	普通	白：ヨコナデ、巻・ナデ	白：ヨコナデ、巻・ハケメ→ナデ (ハコナデ?)	14/36					
33	98	-	715・10・14	否	1線路	巻	H2	側〜側	17.2	8.7	43.0	石・瓦・瓦 葺	内：L形・既 (10Y95/4) 外：L形・既 (10Y95/2)	良好	白：ヨコナデ、巻・ハケメ	白：ヨコナデ、ミガキ、巻・ハケメ→ミガキ	6/36	36/36				
33	99	-	965	否	1線路	鉄	A	口〜側	(14.4)			石	内：L形・既 (10Y96/2) 外：L形・既 (10Y96/2)	良好	白：ヨコナデ、巻・ハケメ→ナデ	白：ミガキ、巻・ミガキ	5/36					
33	100	-	763	否	1線路	鉄	B	口〜側	(12.8)			石・瓦	内：L形・既 (10Y97/3) 外：L形・既 (10Y96/2)	良好	白：ヨコナデ、巻・ナデ	白：ヨコナデ、巻・ミガキ	3/36					
33	101	-	1002	否	1線路	鉄	A	口〜側	(14.8)			石・瓦・瓦 葺	内：L形・既 (2/57/2)	普通	白：ミガキ、巻・ナデ (ミガキに貼?)	白：ヨコナデ、巻・ナデ	2/36					内線に黒塗
33	102	-	8111, 759	否	1線路	鉄	A	側				石・瓦 葺	内：L形・既 (2/59/2) 外：L形・既 (2/59/3)	良好	白：一部ミガキ、巻・ナデ	ミガキ						
33	103	-	8116	否	1線路	鉄	B	口〜側	(10.2)			石・瓦 葺	内：L形・既 (10Y97/2) 外：L形・既 (10Y96/2)	普通	白：ヨコナデ、巻・ナデ	白：ヨコナデ、巻・ハケメ	1/36					
33	104	-	811	否	1線路	鉄	C	口〜側	(10.8)			石・瓦 葺	内：L形・既 (2/59/2)	普通	白：ヨコナデ、巻・ナデ	白：ヨコナデ、巻・ハケメ	7/36					
33	105	-	817	否	1線路	鉄	A	側〜側		2.3		石・瓦 葺	内：L形・既 (2/57/2) 外：L形・既 (2/59/2)	良好	ナデ	巻・ミガキ、既付定・ケナリ	36/36					既部電機柱法
33	106	-	6920	否	1線路	鉄	C	口〜側	8.0			石・瓦・瓦 葺	内：L形・既 (10Y97/2) 外：L形・既 (10Y97/2)	普通	ヨコナデ	白：ヨコナデ、巻・ナデ	9/36					
33	107	-	7122	否	1線路	鉄	C3	底		1.9		石・瓦・瓦 中々葺	内：L形・既 (2/59/2) 外：L形・既 (2/57/3)	普通	巻・ハケメ	巻・ハケメ→ミガキ	36/36					底：焼成白塗
34	108	-	8911	否	1線路	小型巻	H	口	(10.8)			石・瓦・瓦 葺	内：L形・既 (10Y96/2) 外：L形・既 (10Y96/2)	普通	ハケメ	ミガキ	6/36					
34	109	-	8112・17・25	否	1線路	小型巻	H	口〜側	12.6	16.0		石・瓦・瓦 白・瓦 葺	内：L形・既 (10Y97/2) 外：L形・既 (10Y96/2)	良好	白：巻・ヨコナデ→ミガキ、巻・ミガキ	白：巻・ヨコナデ→ミガキ、巻・ミガキ	29/36					内外面 赤塗
34	110	-	7924	否	1線路	小型巻	C	口	(11.9)			石・瓦・チ 葺	内：L形・既 (10Y95/2) 外：L形・既 (10Y96/2)	不良	白：ミガキ	白：ミガキ	3/36					
34	111	-	9117	否	1線路	小型巻	C	口〜底	14.0	凡	16.7	石・瓦・瓦 チ・瓦 葺	内：L形・既 (2/59/2) 外：L形・既 (2/59/2)	良好	白：ヨコナデ、巻・ナデ	白：ヨコナデ→ミガキ、巻・ハケメ→ミガキ	24/36	36/36				
34	112	-	8114・21	否	1線路	小型巻	A	口〜側	11.8			石・瓦 葺	内：L形・既 (2/57/2) 外：L形・既 (10Y96/2)	良好	丁寧なナデ	丁寧なナデ、一部ミガキ	11/36					
34	113	-	6024	否	1線路	巻	H4	口	12.8			石・瓦・瓦 葺	内：L形・既 (10Y97/2) 外：L形・既 (10Y97/2)	普通	白：ヨコナデ	白：ハケメ→ナデ	4/36					
34	114	-	6023	否	1線路	巻	H3	口〜側	13.8			石・瓦・瓦 葺	内：L形・既 (10Y96/4) 外：L形・既 (10Y96/3)	普通	白：ミガキ、巻・ハケメ→ナデ (ミガキに貼?)	白：ヨコナデ、巻・ハケメ→ナデ	20/36					
34	115	-	8116	否	1線路	小型巻	C	口〜側	(9.0)			石・瓦 葺	内：L形・既 (10Y97/2) 外：L形・既 (10Y97/2)	普通	白：ナデ、巻・ハケメ、巻・ナデ	白：ハケメ→ナデ (一部ミガキに貼?)	3/36					
34	116	-	7025	否	1線路	小型巻	C	口	(8.6)			石	内：L形・既 (10Y96/4) 外：L形・既 (10Y96/4)	良好	白：ミガキ	白：ミガキ	3/36					口線内線面～外面体部厚縮 赤塗
34	117	-	709	否	1線路	巻	-	底		4.3		石・瓦 葺	内：L形・既 (2/57/2) 外：L形・既 (10Y96/2)	良好	ナデ	ミガキ、一部剥離	17/36					
34	118	-	8118	否	1線路	鉄	H	口〜側	11.4			石・瓦 葺	内：L形・既 (2/57/2) 外：L形・既 (2/57/2)	普通	白：ヨコナデ、巻・ハケメ→ミガキ	白：ヨコナデ、ハケメ→ナデ	3/36					外面にス・コガ材葺
34	119	-	6023・24, 704	否	1線路	鉄	C1	保証 完形	17.9	5.8	6.1	石・瓦・瓦 チ・瓦 葺	内：L形・既 (2/57/2) 外：L形・既 (2/57/3)	良好	ハケメ→ナデ (一部ミガキに貼?)	ハケメ→ナデ	10/36					

路線 No.	報告者 No.	出土位置		群位	種類	器種	分類	残存 状態	法長 (cm)			胎土		色澤	焼成	遺物		通行率			備考
		遺物名	グリッド						口径	底径	高さ	含有物	産地			内胎	外胎	1線路	2線路	3線路	
34	120	-	7117	IV	土師器	高杯	A1	杯	(15.9)			石・灰・炭	内：浅灰 (2.5V7/3) 外：浅灰 (2.5V7/2)	直射	杯：ミガキ	杯：ミガキ	7/36				
34	121	-	7110	IV	土師器	高杯	A1	杯	(16.8)			石・灰・白	内：浅灰 (10V8/3) 外：浅灰 (10V7/3)	中や 半直	ナデ	ミガキ	2/36				
34	122	-	8122	IV	土師器	高杯	A1	杯	(17.8)			石・灰・ナ	内：灰黄 (2.5V7/2) 外：灰黄 (2.5V7/2)	直射	ミガキ、ナデ	ミガキ	1/36				
34	123	-	7125	IV	土師器	高杯	A1	杯底- 冠部				石・灰・炭	内：浅灰+炭 (10V8/3) 外：浅灰 (10V7/2)	普通	ミガキ	ミガキ、ナデ					
34	124	-	702	IV	土師器	高杯	A2	ほぼ 冠部	21.3	14.4	15.2	石・灰・炭	内：浅灰 (2.5V6/3) 外：浅灰 (2.5V6/3)	直射	杯：ヨコナデ、ミガキ、 蓋：ナデ、ミガキ	杯：ヨコナデ、ミガキ、 蓋：ナデ (一部時 刻の特殊形状)、 蓋：ミガキ	23/36	23/36			
34	125	-	8123	IV	土師器	高杯	(A1)	部				石・灰・炭	内：浅灰+炭 (10V7/4) 外：浅灰 (2.5V6/3)	直射	ハケメナデ (ケズリに造り)	ミガキ					
34	126	-	8024	IV	土師器	高杯	A2	部+ 杯底				石・灰・炭	内：浅灰+炭 (2.5V6/3) 外：浅灰 (2.5V6/3)	直射	ナデ	ミガキ					
34	127	-	7125	IV	土師器	高杯	(A1)	部				石・灰・炭	内：浅灰+炭 (10V7/2) 外：浅灰 (10V7/2)	普通	ナデ	ミガキ					
34	128	-	8112	IV	土師器	高杯	(A1)	部				長・白	内：浅灰+炭 (10V8/3) 外：浅灰 (2.5V6/3)	普通	ナデ	蓋部：ハケメ+焼いミガキ (横 方向)、 蓋底：ミガキ					
34	129	-	7113	IV	土師器	高杯	(A1)	部		12.2		石・灰・炭	内：浅灰 (2.5V7/3) 外：浅灰 (2.5V7/3)	直射	ナデ、ハケメ	ミガキ		13/36			
34	130	-	812-16	IV	土師器	高杯	(A2)	部		11.9		石・灰	内：浅灰+炭 (10V7/3) 外：浅灰 (10V7/2)	直射	ハケメ+ナデ、 蓋：ハケメ	ミガキ		19/36			
34	131	-	8024	IV	土師器	高杯	(A2)	部		13.3		石・灰	内：浅灰+炭 (10V7/3) 外：浅灰 (10V7/2)	直射	ハケメ、 輪縁取明	ハケメ+ミガキ		15/36			
35	132	-	7118	IV	土師器	盃台	-	受+蓋				石・炭	内：灰黄 (2.5V7/2) 外：浅灰 (10V7/3)	中や 半直	ナデ	ミガキ					
35	133	-	8019	IV	土師器	高杯	(A2)	杯底- 蓋部				石・炭	内：浅灰+炭 (6/3) 外：浅灰 (6/3)	普通	杯：ミガキ	ミガキ					
35	134	-	8114	IV	土師器	高杯	(A2)	部				長・ナ	内：灰黄 (10V8/3) 外：浅灰 (10V7/3)	中や 半直	ナデ						
35	135	-	7013	IV	土師器	高杯	(A1)	部				石・炭	内：浅灰 (2.5V7/3) 外：灰黄 (2.5V6/2)	直射	ナデ	ミガキ、 帯瓦					
35	136	-	7114	IV	土師器	蓋	-	冠+体				石・灰・炭	内：浅灰+炭 (10V8/4) 外：浅灰 (10V7/4)	中や 半直	ナデ	ハケメ+ナデ					
35	137	-	8110	IV	土師器	子鉢	-	口+底	8.7	1.4	4.6	石・灰・ナ 焼+炭	内：浅灰 (2.5V6/4) 外：浅灰 (2.5V6/3)	普通	口：ヨコナデ、 体：ナデ、 輪縁取明	口：ヨコナデ、 体：ハケメ	1/36	34/36			ナデ+ ナ
35	138	-	817	IV	土師器	子鉢	-	ほぼ 冠部	6.6	4.7	3.9	石・灰・炭	内：浅灰 (2.5V6/3) 外：浅灰 (2.5V7/3)	直射	ナデ、 胎面取	杯：ナデ	5/36	36/36			胎面 光沢良好
35	139	-	8123	IV	土師器	子鉢	-	口+底	3.0			石・灰・ナ	内：浅灰+炭 (10V8/3) 外：灰黄 (10V8/2)	普通	ヨコナデ、 ナデ、 輪縁取明	ハケメ、 ミガキ		36/36			胎面 光沢良好
35	140	-	702	IV	土師器	子鉢	-	ほぼ 冠部	2.9	2.1	4.9	石・灰	内：浅灰 (2.5V7/4) 外：浅灰 (2.5V7/4)	直射	ナデ、 輪縁取明	体：ハケメ、 蓋：ケズリ		36/36			
35	141	-	8023	IV	土師器	子鉢	-	口+底	8.2	0.8	4.2	石・灰・白	内：灰黄 (10V8/2) 外：浅灰 (10V8/3)	普通	ヨコナデ、 ナデ、 胎面取	ハケメ+ナデ、 一部ハケメ	10/36				胎面 に黒斑
35	142	-	904+8	IV	土師器	子鉢	-	体+底	2.4		2.4	石・白	内：浅灰+炭 (10V7/4) 外：浅灰 (2.5V7/2)	普通	ナデ	ハケメ		20/36			
35	143	-	917	IV	土師器	盃	-	体				炭	内：灰白 (2.5V8/2) 外：灰黄 (2.5V7/2)	直射							

別表3 上大川遺跡 石製品観察表

路線 No.	報告者 No.	出土位置		群位	種類	器種	石材	法長 (mm)			備考
		遺物名	グリッド					長さ	幅	厚さ	
35	1	-	8029	IV	石	勾玉	硬緑石	19	15	5	1.2
35	2	-	9P-4	IV	管	緑色板石		19	7	7	1.8
35	3	SR81			管	緑色板石		4	4	2	0.1g以下
35	4	SR81			管	滑石		5	5	3	0.1
35	5	SR255			管	滑石		5	5	1	0.1g以下
35	6	PN98	716	1	砥石	硬石		108	38	28	150.6
35	7	-	9P22	IV	磨石製石製品	磨石		49	52	38	24.9
35	8	-	8114	IV	磨石製石製品	磨石		95	116	30	123.1 浮孔あり
35	9	-	703	IV	磨石製石製品	磨石		39	54	23	24.2

別表4 上大川遺跡 木製品観察表

路線 No.	報告者 No.	出土位置		群位	種類	器種	法長 (cm)			4本	備考
		遺物名	グリッド				長さ	幅	厚さ		
36	1	P102	8026	5	杵		15.9	2.8	3.2	丸材	
36	2	P102	80118	3	杵		23.1	3.9	2.4	丸材	胎面に加工痕あり
36	3	P204	7020	4	杵		31.8	10.2	6.0	丸材	
36	4	P208	8015-20	2	杵		20.2	6.5	5.9	丸材?	胎面に加工痕あり
36	5	P283	8010	2	杵		24.8	6.6	5.8	丸材	胎面に加工痕あり
36	6	P239	80113	1	杵		22.3	5.0	4.4	丸材	

別表5 上大川遺跡 遺構出土土器器種構成率

1 遺構別出土土器の器種別構成率を示す。1層目、2層目の構成率も示した。ただし、出土土器の全土器数に70%以下は記載していない。
 2 2層目の遺構は口縁部が破損した土器(下層)を除く。器種別構成率も示した。また、器種別構成率も示した。
 3 口縁部破損率を示す。破損率70%以上の土器は、それ以外の器種別構成率も示した。

遺構	計測法	層別		1層目							不明	モニタリング土器	合計		
		器	破	鉢	高脚	器台	白付鉢	有孔鉢	蓋						
SK8	口縁部	0.06	40.7%	0.06	32.3%									0.11	100%
	口縁部(破)	0	0.0%	1	20.0%									0	100%
	底面部														
	総土器(破)	57	98.3%	1	1.7%									58	100%
SK81	口縁部	30.3	31.4%	35.9	6.4%	0.96	37.2%	0.06	6.7%		0.03%	0.03%		0.06	100%
	口縁部(破)	5	55.6%			1	11.1%	2	22.2%		1	11.1%		9	100%
	底面部			1.0	100.0%									1.0	100%
	総土器(破)			1	100.0%									1	100%
SK170	口縁部	143	63.3%	25	14.4%	1	0.6%				1	0.6%		174	100%
	口縁部(破)	951.7	45.0%	1119.9	53.5%	10.0	0.5%				3.4	0.2%		2095.1	100%
	底面部	0.06	82.0%			0.11	18.0%							0.11	100%
	口縁部(破)	1.0	90.9%					1	9.1%					1.1	100%
SK255	口縁部	1.00	100.0%											1.00	100%
	口縁部(破)	3	100.0%											3	100%
	底面部	11.1	95.0%	2	1.7%			2	1.7%					11.6	100%
	総土器(破)	1305.4	36.0%	6.6	0.6%	0.03	0.6%	14.3	1.6%		0.06	11.7%		1417.6	100%
SK255	口縁部	1.0	73.8%											1.0	100%
	口縁部(破)	1.1	73.3%			1	6.7%	1	6.7%					1.9	100%
	底面部	120	81.1%	18	9.0%	1	0.7%	2	1.0%			0	0.1%	148	100%
	総土器(破)	414.2	65.5%	214.2	34.1%	3.0	0.7%	4	2.7%		36.0	4.5%		631.9	100%
SK457	口縁部	0.14	100.0%											0.14	100%
	口縁部(破)	4	100.0%											4	100%
	底面部														
	総土器(破)	1.0	27.8%	2.0	52.2%									3.0	100%
SK491	口縁部	44	17.5%	211.1	82.5%									255.6	100%
	口縁部(破)	0.31	100.0%											0.31	100%
	底面部	4	100.0%											4	100%
	総土器(破)	1.00	100.0%											1.00	100%
SK200	口縁部	0.3	100.0%											0.3	100%
	口縁部(破)	63	86.3%	9	12.3%									72	100%
	底面部	0.05	73.8%	1.04	21.6%						1.0	0.4%		2.09	100%
	総土器(破)														
SK200	口縁部														
	口縁部(破)														
	底面部	2	100.0%											2	100%
	総土器(破)	17.6	100.0%											17.6	100%
SK49	口縁部														
	口縁部(破)														
	底面部	9	100.0%											9	100%
	総土器(破)	26.4	100.0%											26.4	100%
SK42	口縁部														
	口縁部(破)														
	底面部	1	100.0%											1	100%
	総土器(破)	1.3	100.0%											1.3	100%
SK285	口縁部	0.03	100.0%											0.03	100%
	口縁部(破)	1	100.0%											1	100%
	底面部														
	総土器(破)	6	100.0%											6	100%
SK34	口縁部	36.0	100.0%											36.0	100%
	口縁部(破)														
	底面部	1	100.0%											1	100%
	総土器(破)	9.4	100.0%											9.4	100%
SK37	口縁部	0.03	6.1%	0.03	6.1%			0.28	65.8%					0.33	100%
	口縁部(破)	3	85.0%			1.00	100.0%			1	27.3%			1.1	100%
	底面部													1.00	100%
	総土器(破)	66	87.5%	1.0	1.3%	0	0.0%	4	4.0%					71	100%
総土器(破)	660.9	93.7%	1.01	11.8%	111.7	6.7%	18.0	1.6%					1281.6	100%	

通称	種別	1. 簿目										合計					
		債	借	繰	高押	繰白	白付繰	有孔繰	品	不明	エニチュア上取						
SK231	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)																
	繰下数 (債)	18	100.0%													18	100%
	繰戻金 (債)	200.0	100.0%													200.0	100%
	1. 繰越金 (債)																
SK64	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)	1	100.0%													1	100%
	繰下数 (債)	2.0	100.0%													2.0	100%
	1. 繰越金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																
SK104	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)	0	80.0%											1	11.1%	0	100%
	繰下数 (債)	21.0	95.2%											1.1	4.8%	20.0	100%
	1. 繰越金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																
SK127	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)	3	100.0%													3	100%
	繰下数 (債)	14.0	100.0%													14.0	100%
	1. 繰越金 (債)				0.14	100.0%										0.14	100%
	1. 繰越金 (債)				1	100.0%										1	100%
SK172	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)																
	繰下数 (債)																
	繰戻金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																
SK80	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)																
	繰下数 (債)																
	繰戻金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																
SK184	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)																
	繰下数 (債)																
	繰戻金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																
SK185	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)																
	繰下数 (債)																
	繰戻金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																
SK211	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)																
	繰下数 (債)																
	繰戻金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																
SK77	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)																
	繰下数 (債)																
	繰戻金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																
SK144	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)																
	繰下数 (債)																
	繰戻金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																
SK221	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)																
	繰下数 (債)																
	繰戻金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																
SK299	1. 繰越金 (債)																
	繰上数 (債)																
	繰下数 (債)																
	繰戻金 (債)																
	1. 繰越金 (債)																

通期	種別	1. 通期										合計					
		債	株	債	株	高株	債白	白付株	有孔株	債	不明		エニョウ上座				
SK272	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)	3	100.0%													3	100%
	口債株 (株)	11.3	100.0%													11.3	100%
	口債株 (債)	0.06	100.0%													0.06	100%
SK349	口債株 (債)	1	100.0%													1	100%
	口債株 (株)																
	口債株 (債)	12	73.0%	9	18.8%	1	6.3%									12	100%
	口債株 (株)	123.4	89.4%	13.6	9.7%	2.8	1.9%									139.8	100%
	口債株 (債)																
SK422	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)	1	100.0%													1	100%
	口債株 (株)	2.9	100.0%													2.9	100%
	口債株 (債)																
SK418	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)	3	73.0%													3	100%
	口債株 (株)	8.9	89.3%													12.8	100%
	口債株 (債)																
SK515	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
SK458	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
SK505	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
SK219	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
SK459	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
SK101	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
SK147	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
SK36	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
SK173	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																
	口債株 (株)																
	口債株 (債)																

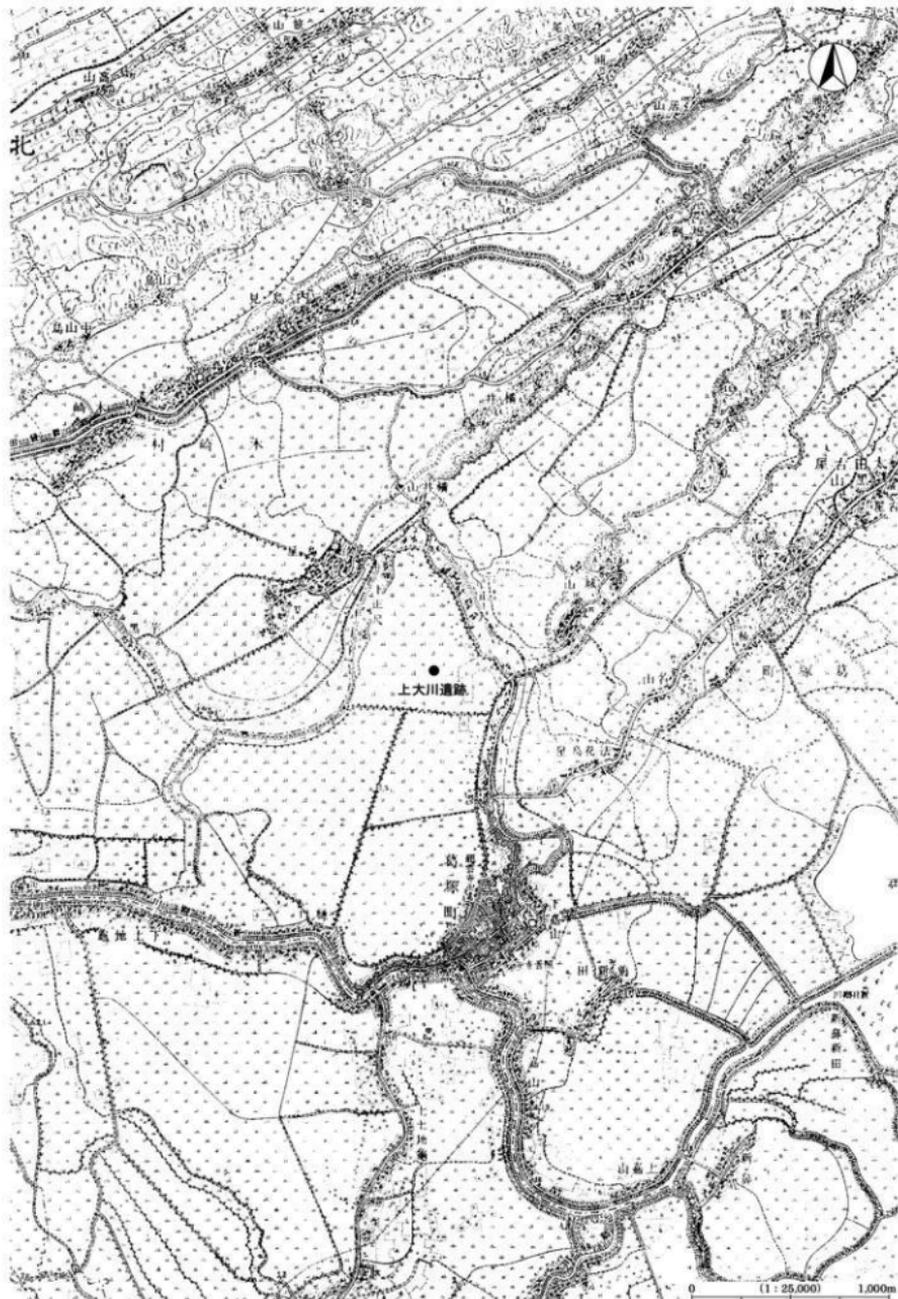
通期	種別	1. 課目											合計			
		備	借	貸	高評	備付	交付課	有孔課	品	不明	ミニチュア上置					
SXS36	自費法	0.00	100.0%	0.00	100.0%										0.00	100%
	1. 繰上	4	56.7%	2	33.3%										6	100%
	2. 繰上	0.00	100.0%												0.00	100%
	3. 繰上	0	100.0%												0	100%
	4. 繰上	4	76.4%	1	20.0%										5	100%
P97	自費法	107.4	100.0%	120.9	95.4%										314.3	100%
	1. 繰上															
	2. 繰上															
	3. 繰上	2	100.0%												2	100%
	4. 繰上	12.0	100.0%												12.0	100%
P356	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上															
	3. 繰上	1	100.0%												1	100%
	4. 繰上	0.4	100.0%												0.4	100%
P327	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上															
	3. 繰上	1	100.0%												1	100%
	4. 繰上	3.7	100.0%												3.7	100%
P174	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上	1	100.0%												1	100%
	3. 繰上	3	75.0%	1	25.0%										4	100%
	4. 繰上	14.0	66.5%	7.2	33.5%										21.2	100%
P430	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上															
	3. 繰上	0	100.0%												0	100%
	4. 繰上	12.1	100.0%												12.1	100%
P437	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上															
	3. 繰上	1	100.0%												1	100%
	4. 繰上	1.0	100.0%												2.0	100%
P445	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上	2	100.0%												2	100%
	3. 繰上	17.0	100.0%												17.0	100%
	4. 繰上	0.00	100.0%												0.00	100%
P452	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上	1	50.0%	1	50.0%										2	100%
	3. 繰上	8.1	81.4%	1.0	10.0%										9.1	100%
	4. 繰上															
P321	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上															
	3. 繰上	2	100.0%												2	100%
	4. 繰上	8.0	100.0%												8.0	100%
P294	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上															
	3. 繰上															
	4. 繰上	0.03	100.0%	1	100.0%										8.2	100%
P135	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上															
	3. 繰上	2	66.7%	1	33.3%										3	100%
	4. 繰上	6.6	87.6%	1.2	12.0%										7.8	100%
P139	自費法															
	1. 繰上															
	2. 繰上															
	3. 繰上	27	100.0%												27	100%
	4. 繰上	120.3	100.0%												120.3	100%

通期	種別	1. 生産額										合計								
		産	畜	録	高幹	徳白	白付録	有孔録	品	不明	ミニコア上置									
P180	口蹄疫 (1.0)																			
	口蹄疫 (2.0)																			
	高幹数 (1.0)	3	100.0%																3	100%
	総生産 (1.0)	30.0	100.0%																30.0	100%
P189	口蹄疫 (1.0)																			
	口蹄疫 (2.0)																			
	高幹数 (1.0)	1	50.0%			1	50.0%												2	100%
	総生産 (1.0)	2.0	100.0%			2.0	100.0%												2.0	100%
P98	口蹄疫 (1.0)																			
	口蹄疫 (2.0)																			
	高幹数 (1.0)	3	100.0%			0.19	100.0%												3.19	100%
	総生産 (1.0)	3	100.0%			3	100.0%												3	100%
P417	口蹄疫 (1.0)	0.11	100.0%			37	100.0%												37.11	100%
	口蹄疫 (2.0)	1	100.0%																1	100%
	高幹数 (1.0)	1	100.0%																1	100%
	総生産 (1.0)	2	100.0%																2	100%
P476	口蹄疫 (1.0)	4	100.0%																4	100%
	口蹄疫 (2.0)	44.2	100.0%																44.2	100%
	高幹数 (1.0)	0.08	100.0%																0.08	100%
	総生産 (1.0)	4	100.0%																4	100%
P498	口蹄疫 (1.0)	3	100.0%																3	100%
	口蹄疫 (2.0)	36.8	100.0%																36.8	100%
	高幹数 (1.0)	3	100.0%																3	100%
	総生産 (1.0)	6.2	100.0%																6.2	100%
P900	口蹄疫 (1.0)																			
	口蹄疫 (2.0)																			
	高幹数 (1.0)	6	71.4%	2	28.6%														8	100%
	総生産 (1.0)	19.0	85.3%	10.1	34.7%	0.08	100.0%												29.18	100%
P902	口蹄疫 (1.0)																			
	口蹄疫 (2.0)																			
	高幹数 (1.0)	1	4.0%	28	96.0%														29	100%
	総生産 (1.0)	1.4	3.8%	39.3	96.2%	0.42	100.0%												39.9	100%
P473	口蹄疫 (1.0)																			
	口蹄疫 (2.0)																			
	高幹数 (1.0)	6	24.0%	19	40.0%	9	36.0%												24	100%
	総生産 (1.0)	7.8	3.8%	16.2	7.9%	189.3	88.3%												204.3	100%
P257	口蹄疫 (1.0)																			
	口蹄疫 (2.0)																			
	高幹数 (1.0)	1	50.0%	1	50.0%														2	100%
	総生産 (1.0)	2.0	100.0%	2.0	100.0%														2.0	100%

図 版

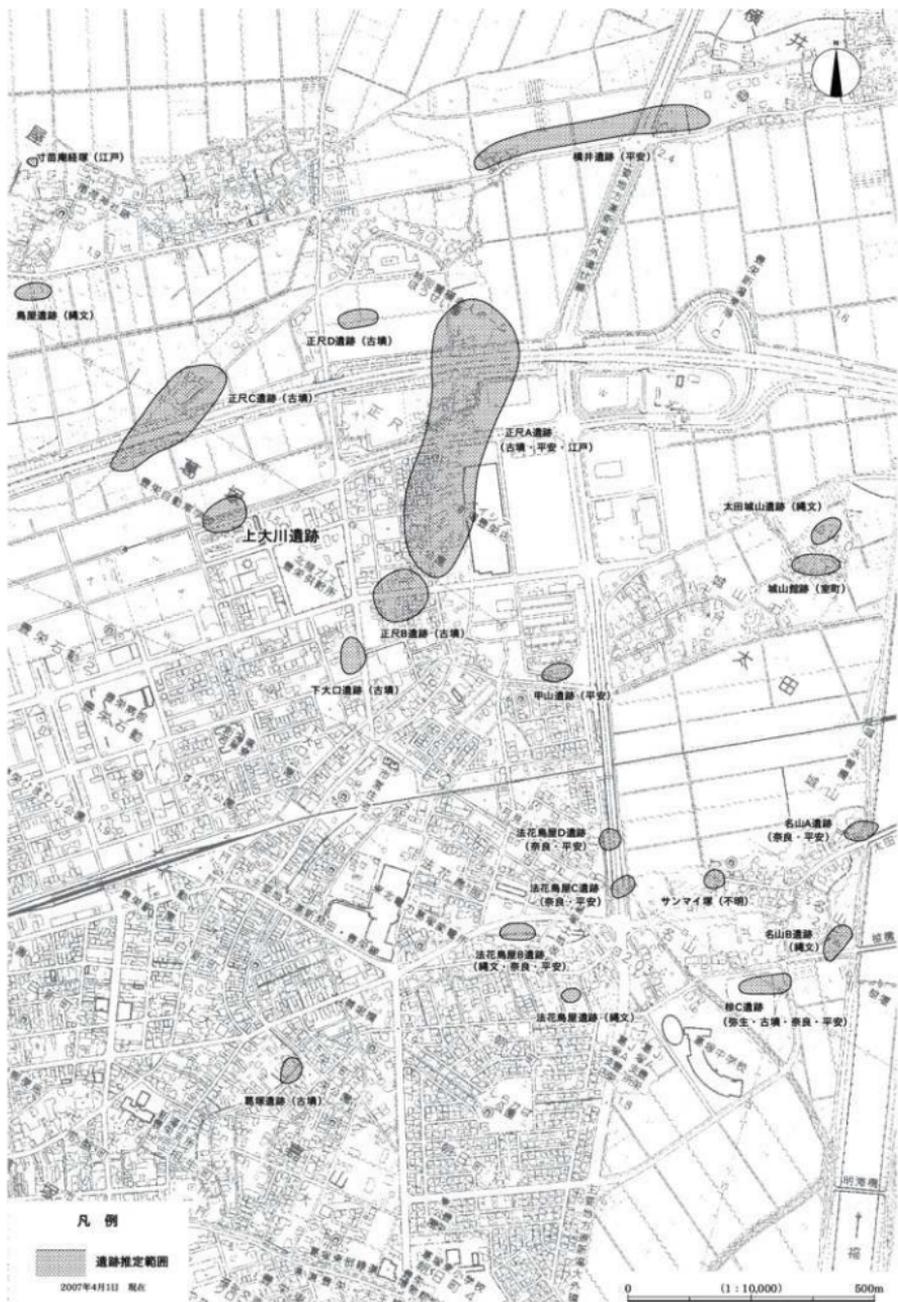
凡 例

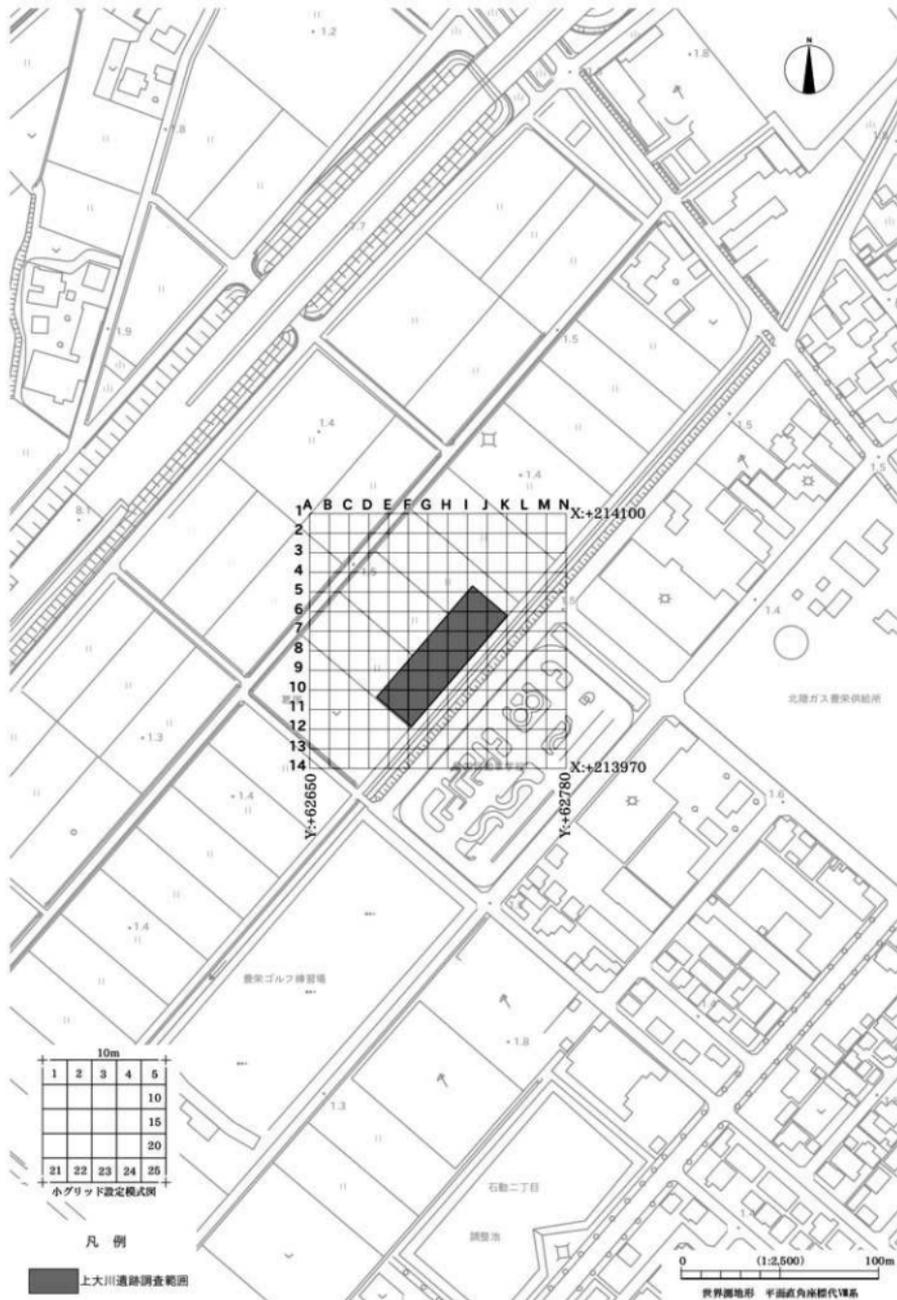
-  赤彩
-  欠損部分(木製品)



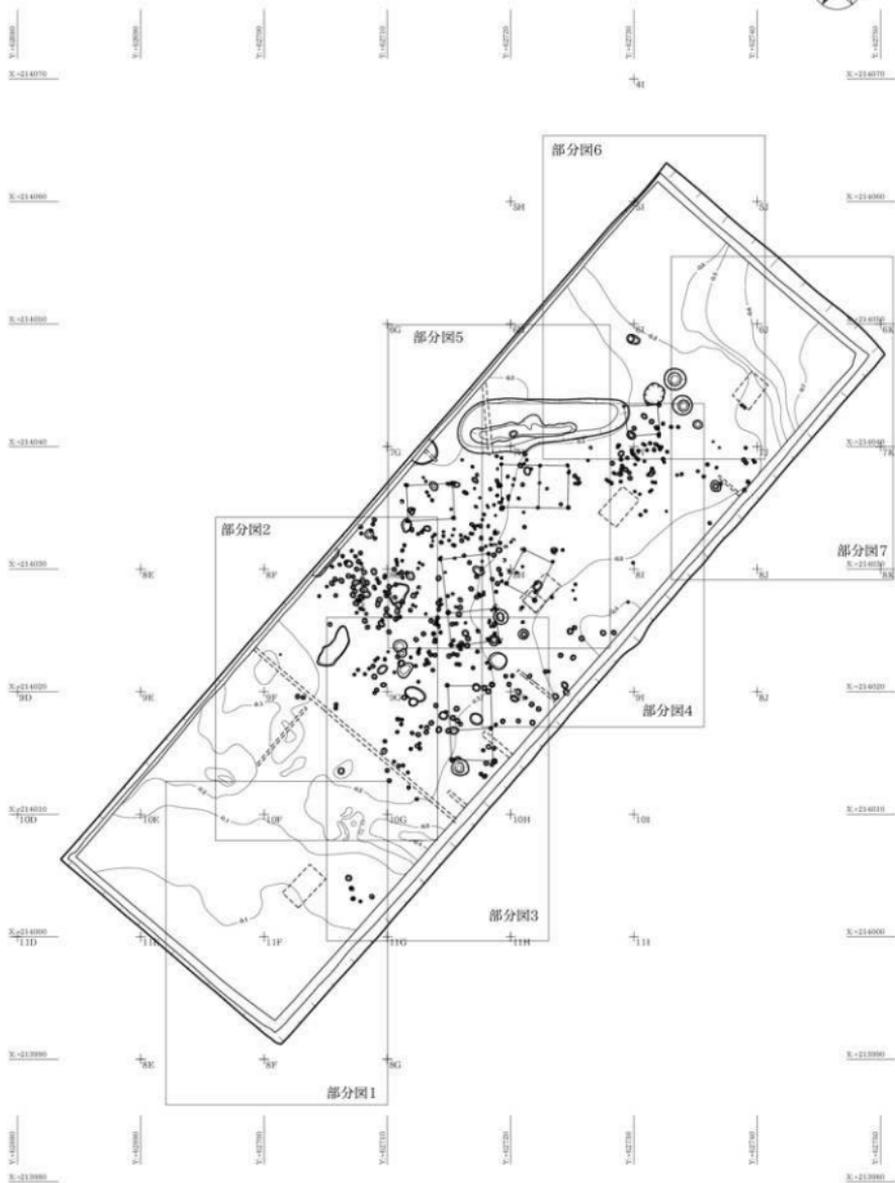
0 (1:25,000) 1,000m

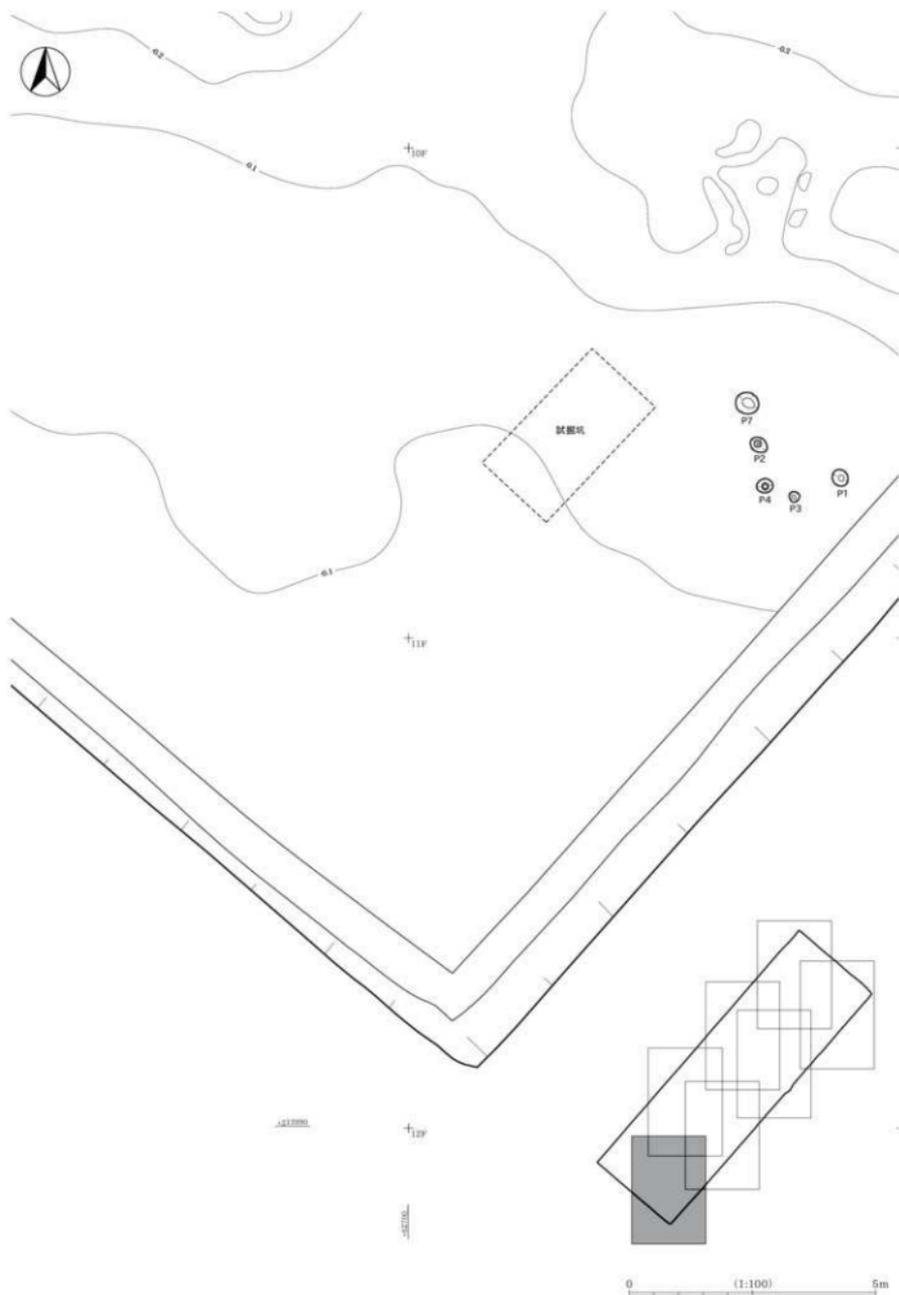
大日本国土地院出版 昭和14年印刷

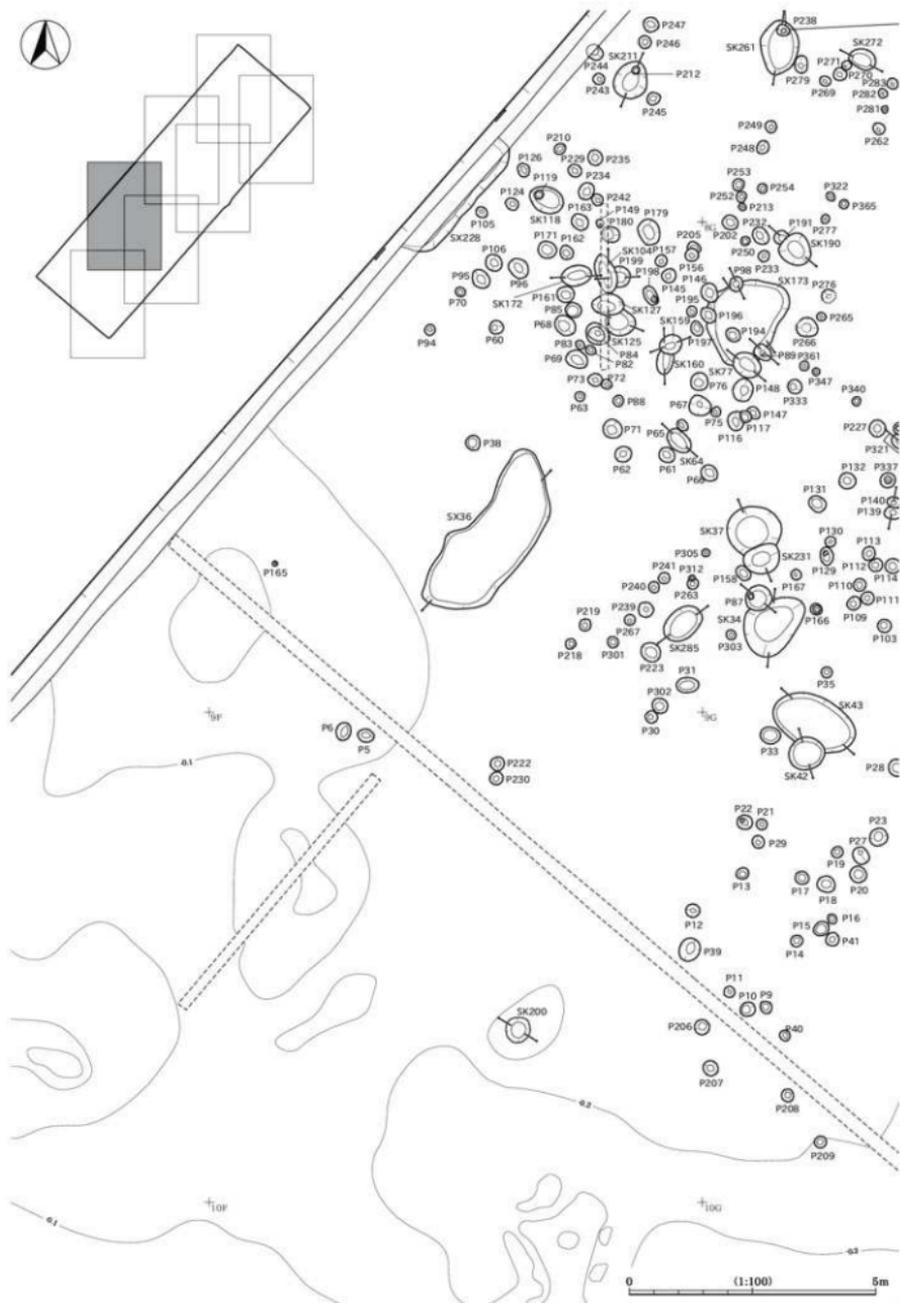


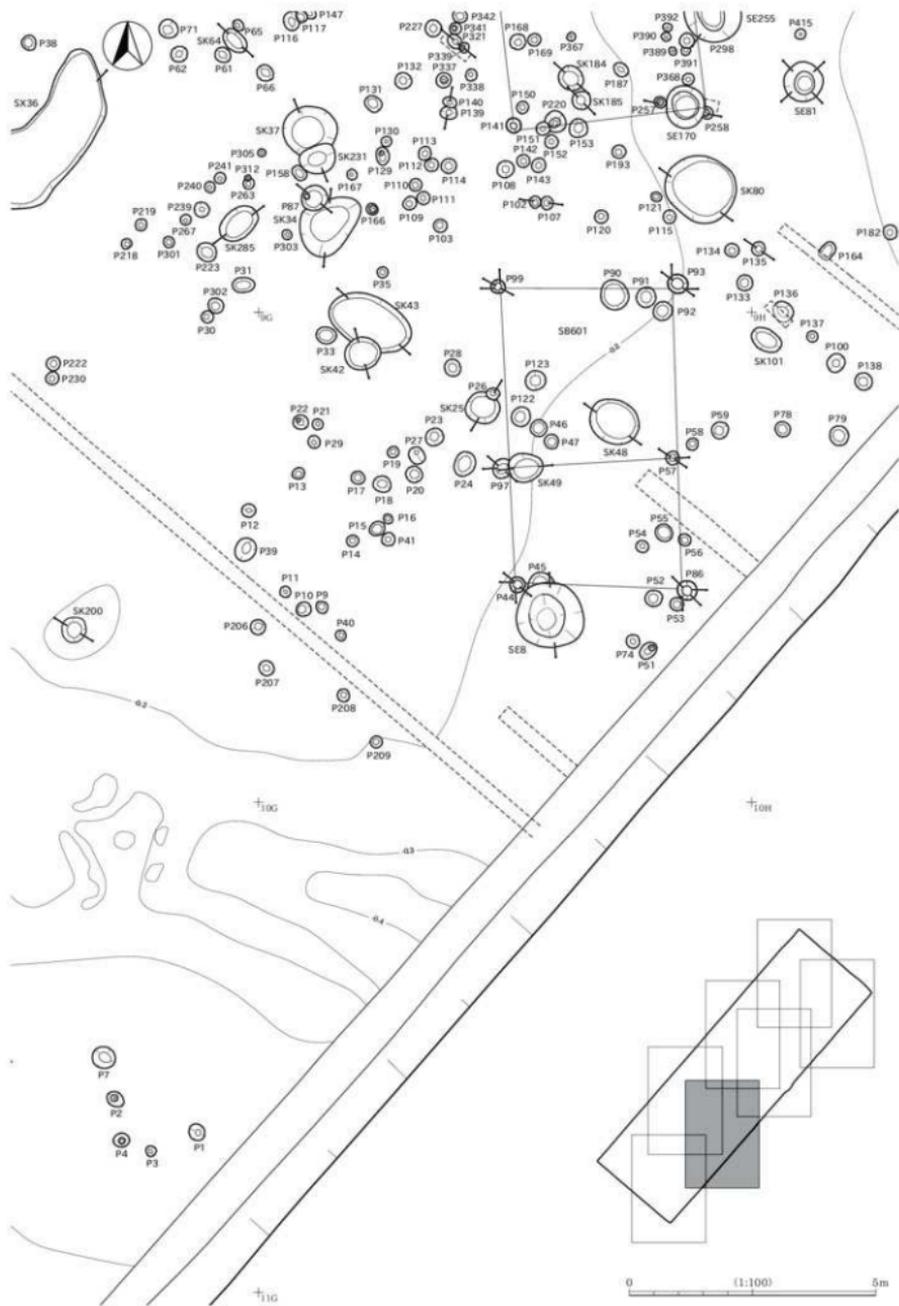


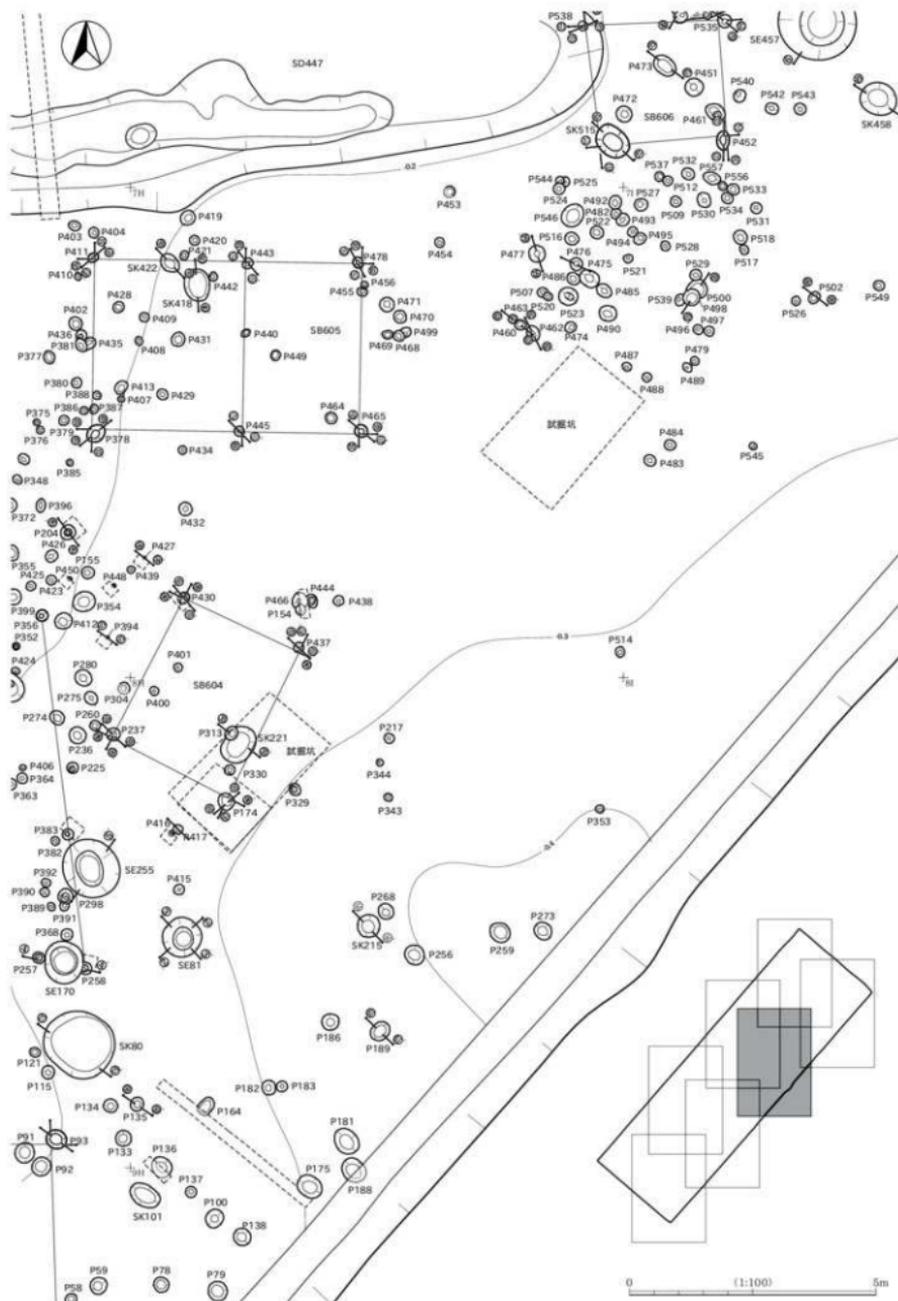


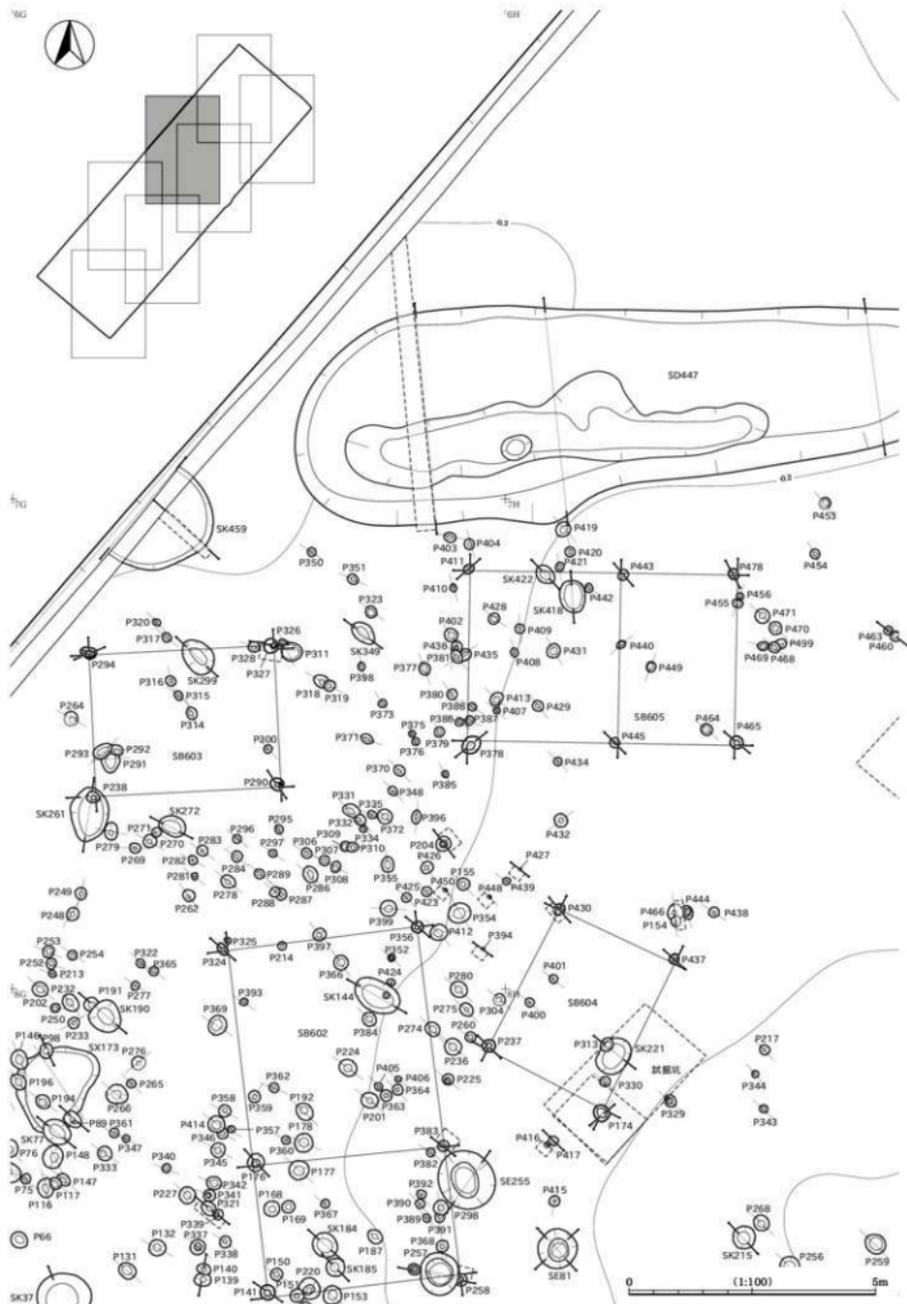


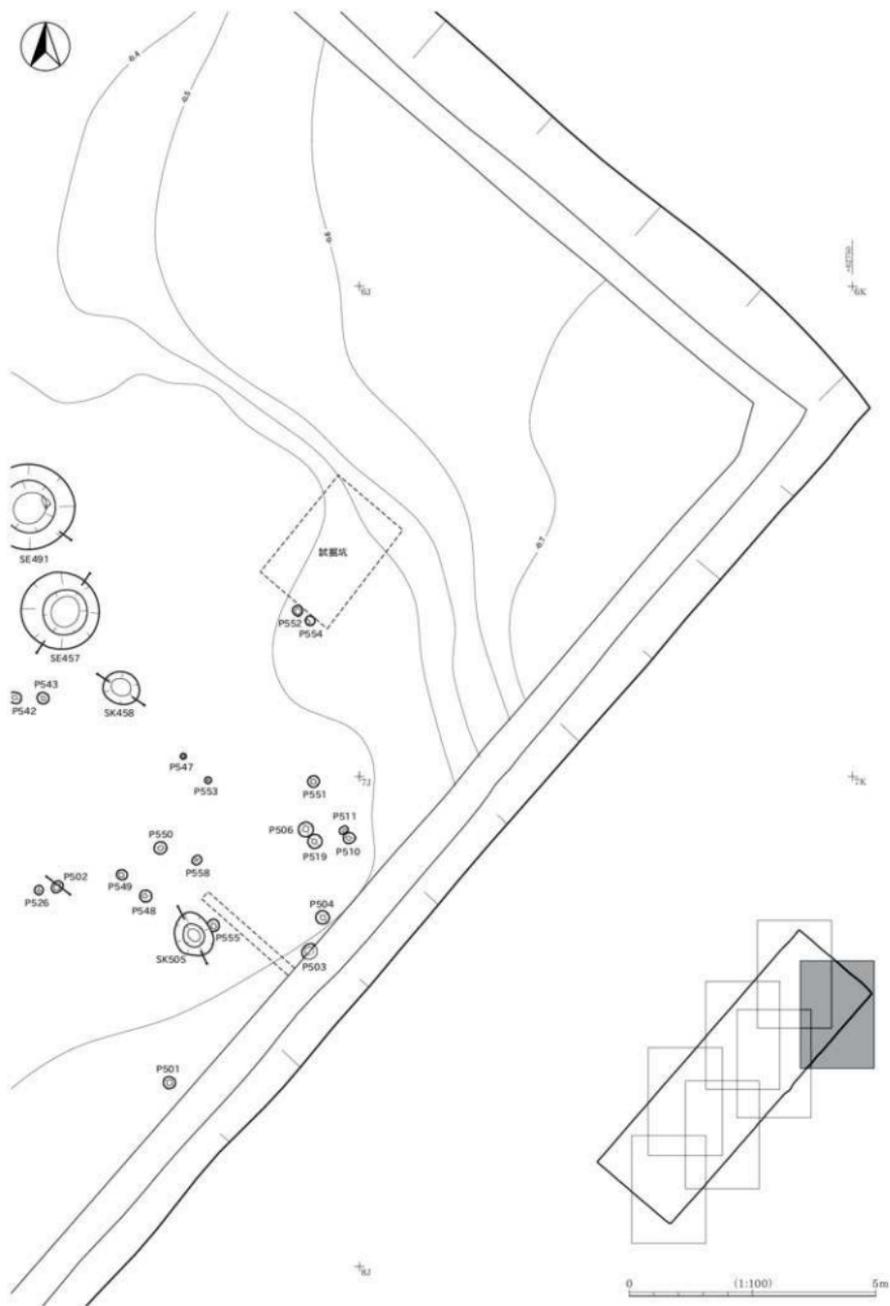


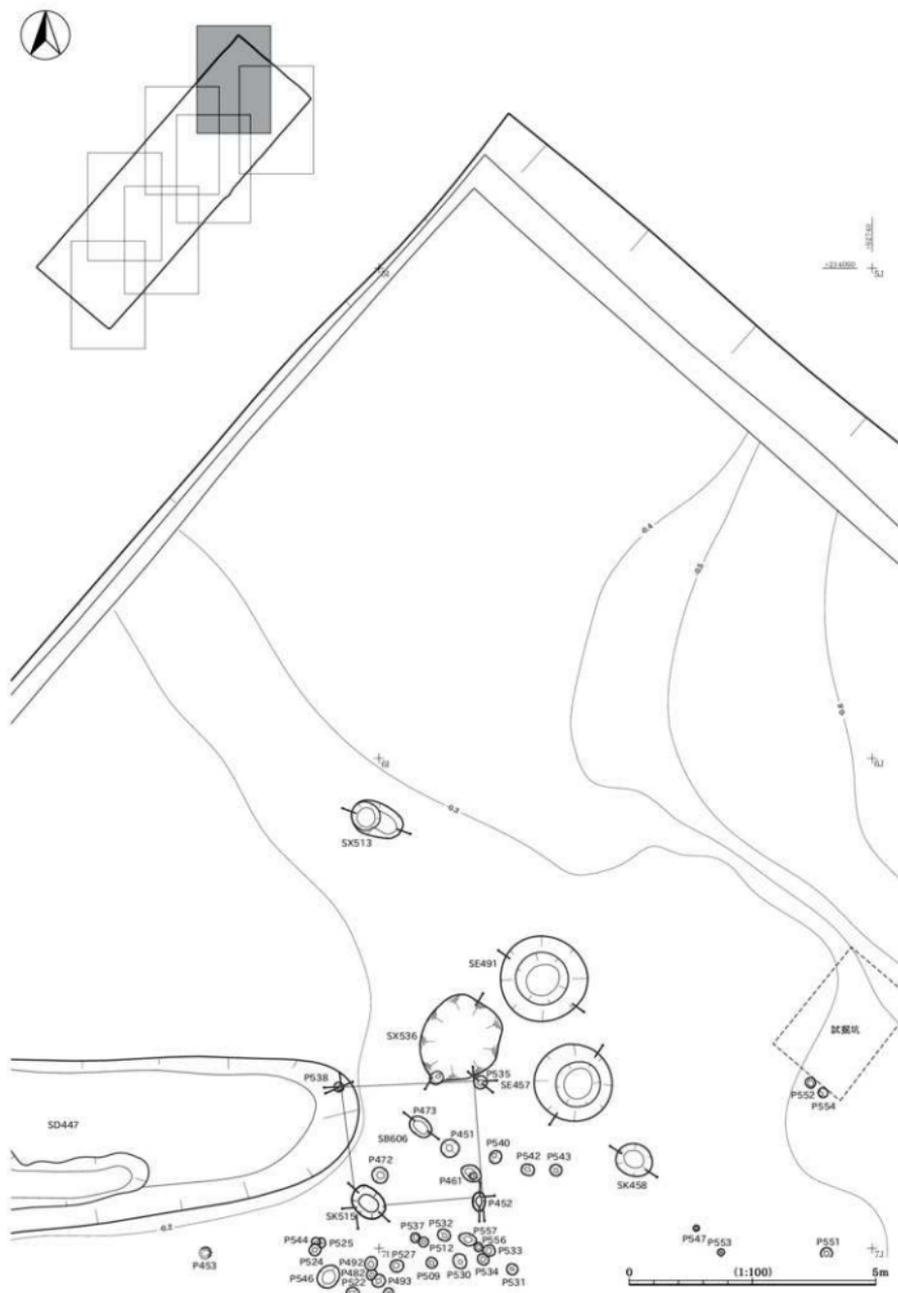


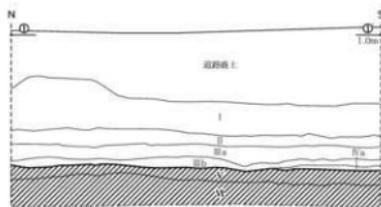




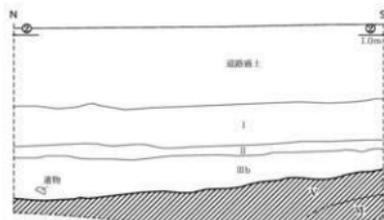




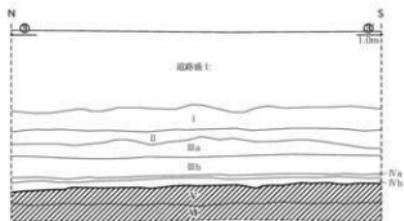




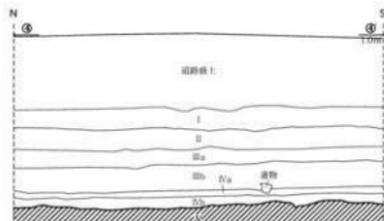
基本層序1



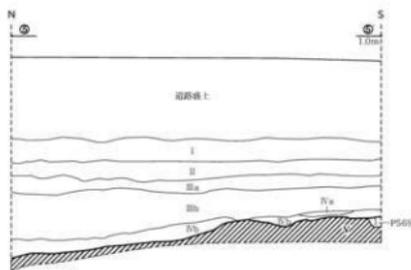
基本層序2



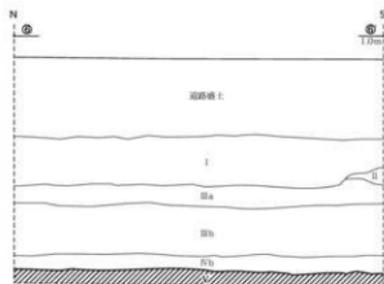
基本層序3



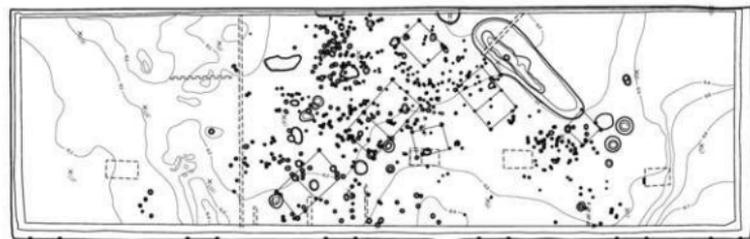
基本層序4



基本層序5



基本層序6



基本層序1

基本層序2

基本層序3

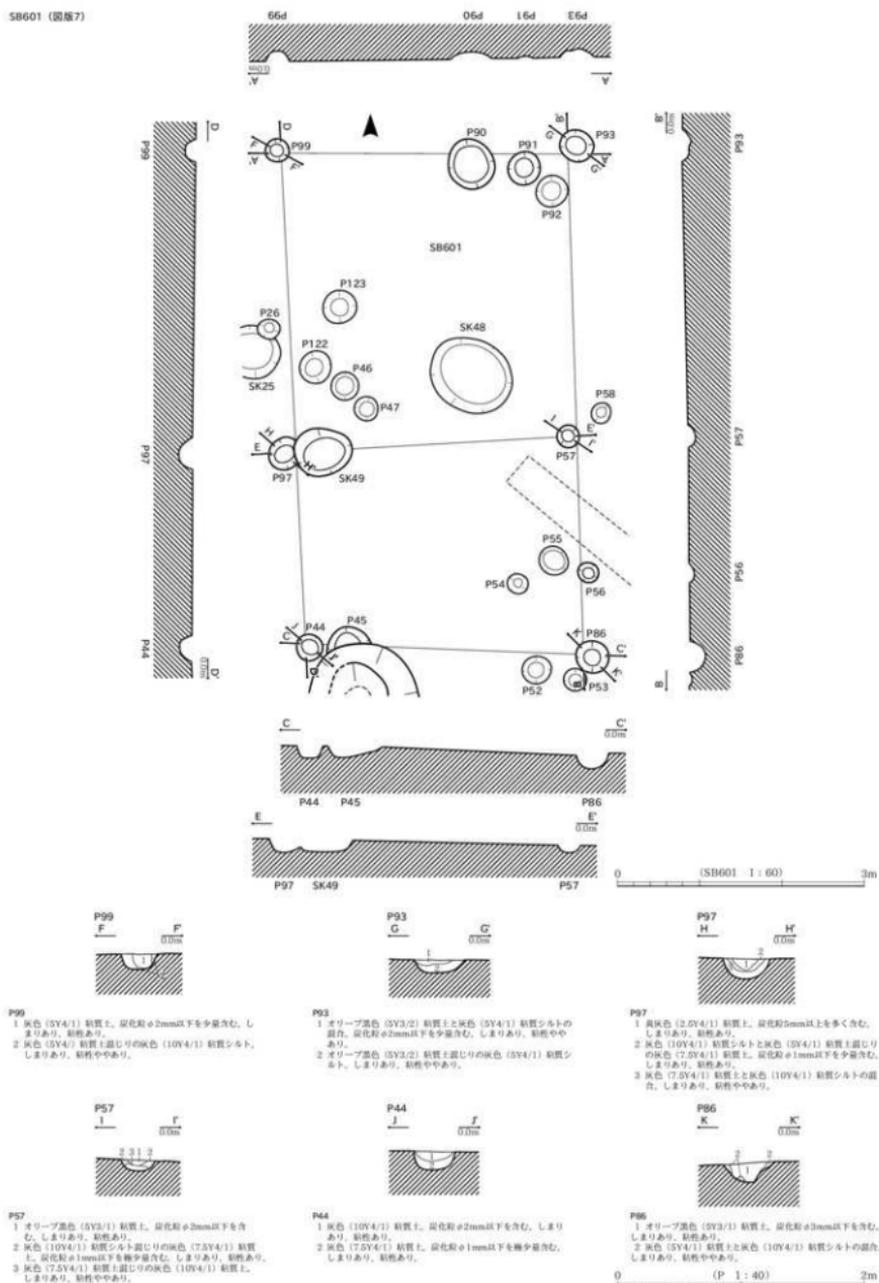
基本層序4

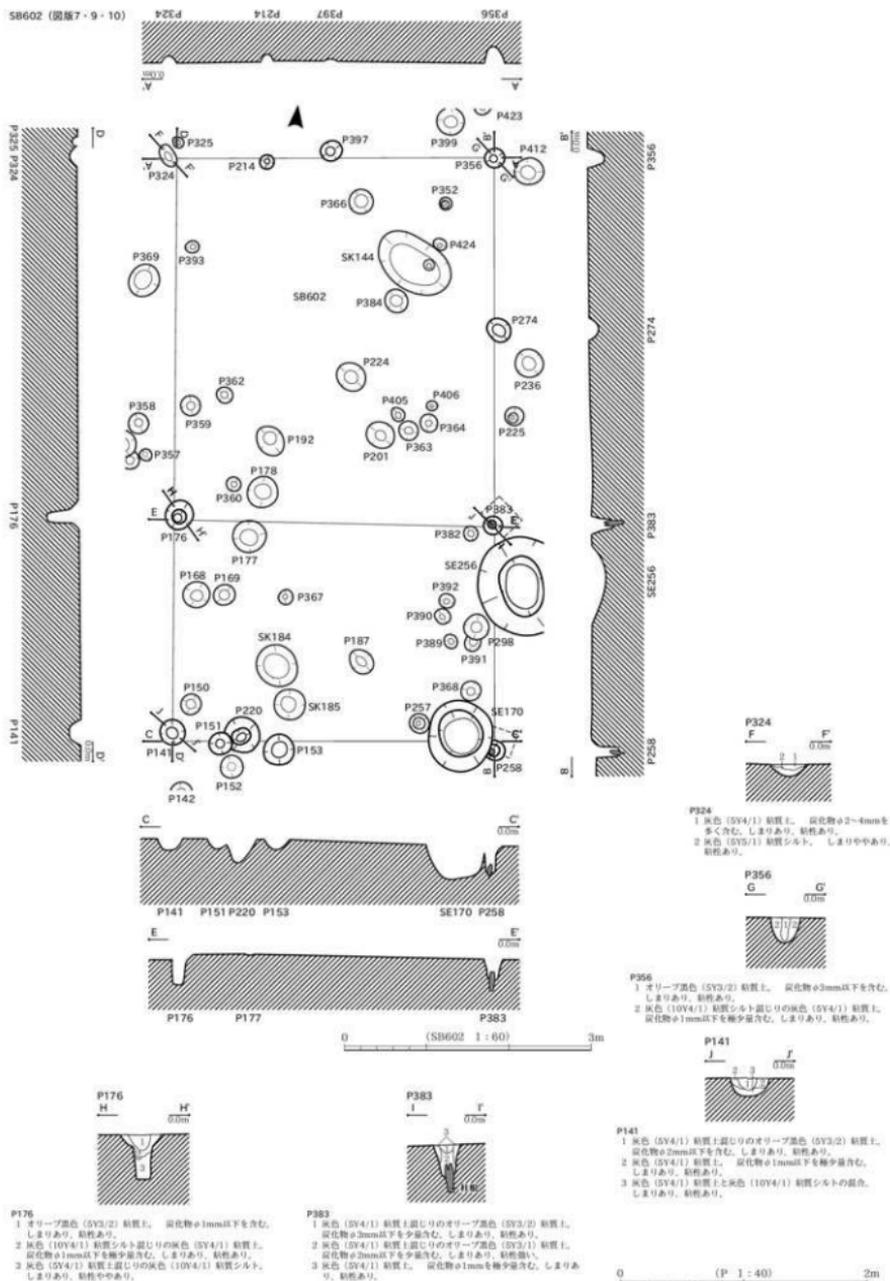
基本層序5

基本層序6

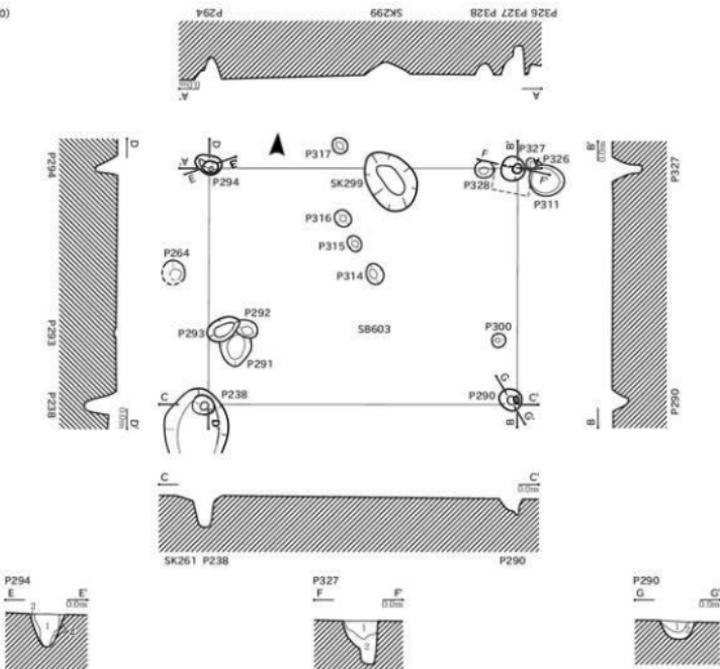


SB601 (図版7)





SB603 (図版10)

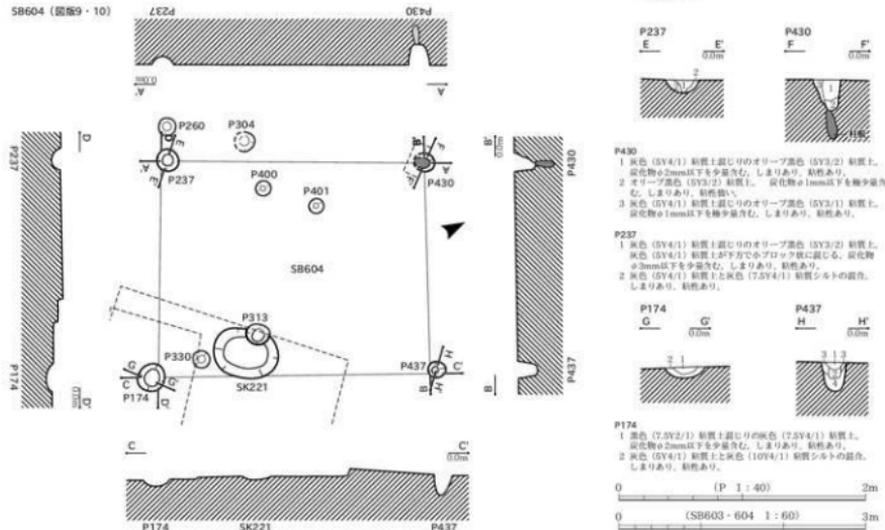


P294
 1 灰色 (10Y5/1) 粘質土。炭化物 ϕ 1-2mmを多く含む。しまりやあり。粘粒あり。
 2 灰色 (7.5Y5/1) 粘質シルト。しまりややあり。粘粒ややあり。

P327
 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物 ϕ 2-5mmを多く含む。しまりやあり。粘粒あり。
 2 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土。灰色の碎粒シルトを含む。しまりあり。粘粒あり。

P290
 1 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物 ϕ 1-3mmをやや多く含む。しまりややあり。粘粒あり。
 2 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質シルト。しまりややあり。粘粒ややあり。

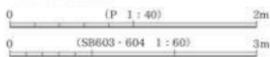
SB604 (図版9・10)



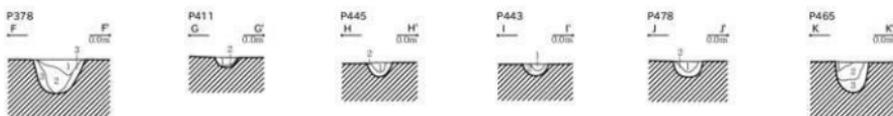
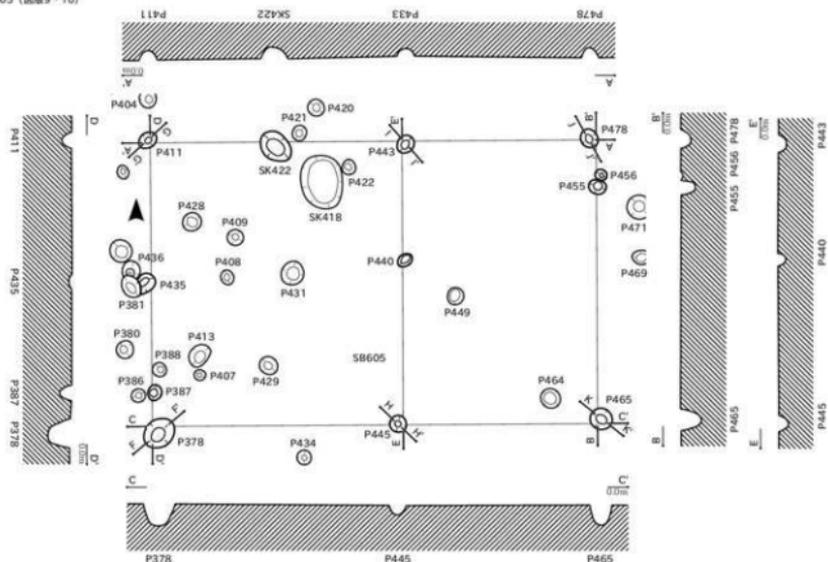
P430
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリーブ灰色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物 ϕ 2mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 2 オリーブ灰色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒弱い。
 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリーブ灰色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒あり。

P237
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリーブ灰色 (5Y3/2) 粘質土。灰色 (5Y4/1) 粘質土が下方でオリーブ灰に混じる。炭化物 ϕ 2mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり。粘粒あり。

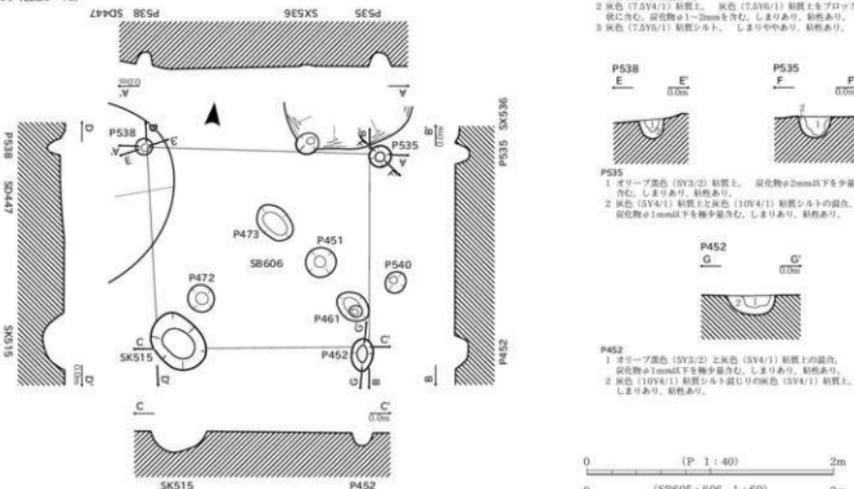
P174
 1 灰色 (7.5Y2/1) 粘質土混じりの灰褐色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物 ϕ 2mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰褐色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり。粘粒あり。



SB605 (図版9・10)



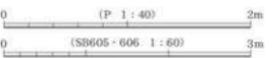
SB606 (図版9・12)

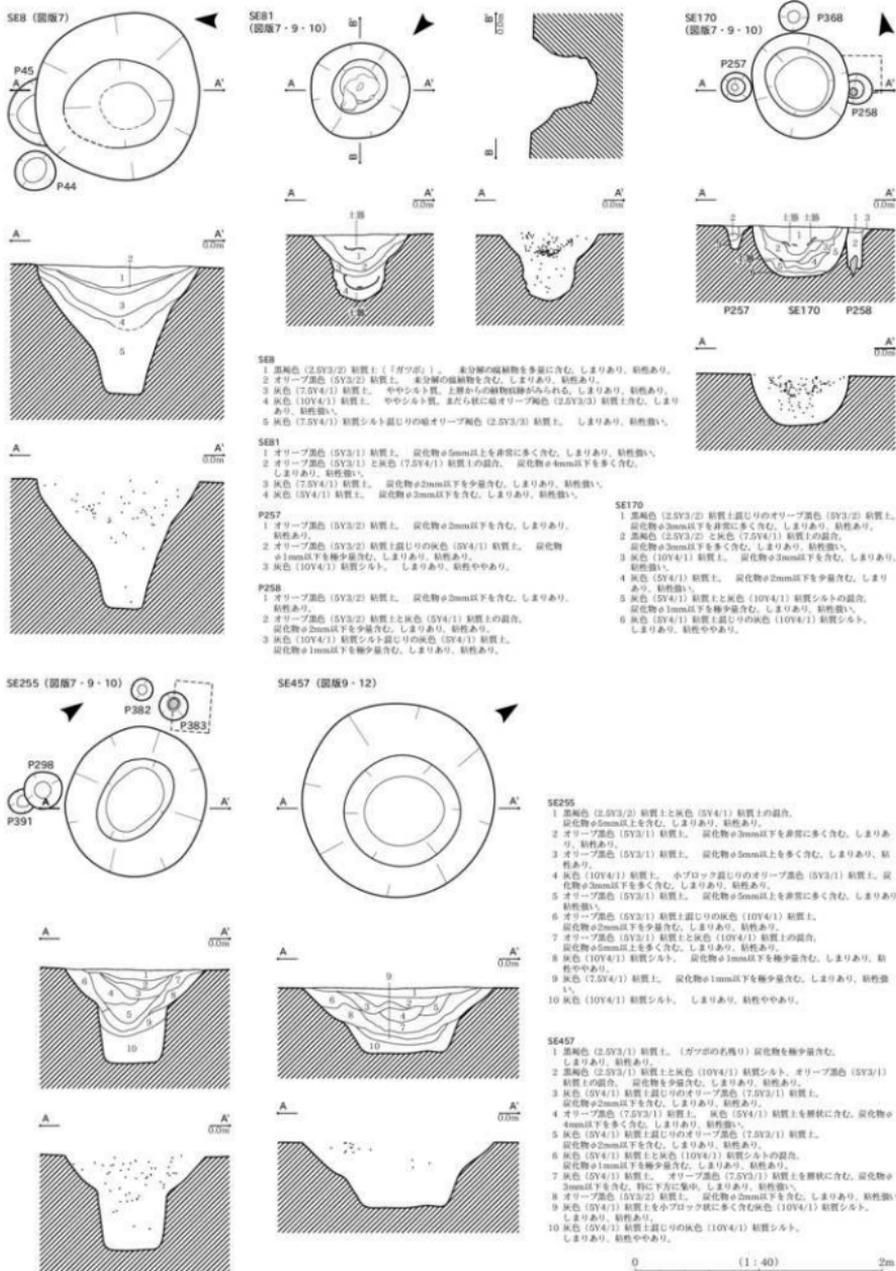


P465
 1 灰色 (T.SV4/1) 粘質土混じりの灰色 (T.SV5/1) 粘質土。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (T.SV4/1) 粘質土。灰色 (T.SV6/1) 粘質土をフロッツ状に含む。炭化物0.1~2mmを含む。しまりあり、粘粒あり。
 3 灰色 (T.SV5/1) 粘質土。しまりややあり、粘粒あり。

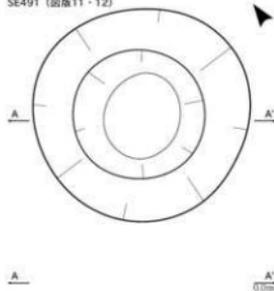
P535
 1 オリーブ灰色 (SV3/2) 粘質土。炭化物0.2mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (SV4/1) 粘質土。灰色 (10V4/1) 粘質土との混色。炭化物0.1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘粒あり。

P452
 1 オリーブ灰色 (SV3/2) と灰色 (SV4/1) 粘質土の混色。炭化物0.1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (10V4/1) 粘質土。混じり灰色 (SV4/1) 粘質土。しまりあり、粘粒あり。



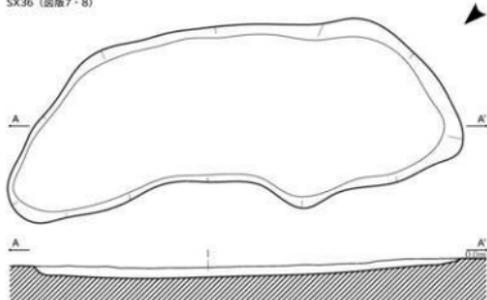


SE491 (図版11・12)



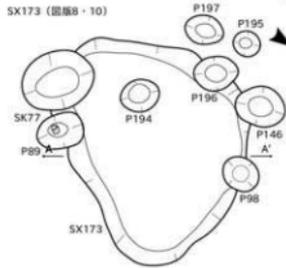
- SE491**
- 1 灰色 (2SV3/1) 粘質土。〔穿石部の北側〕炭化物を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10V4/1) 粘質土にじり目の黒褐色 (2SV3/1) 粘質土とオリーブ黒色 (5V3/1) 粘質土の混合。炭化物を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 3 オリーブ黒色 (5V3/2) 粘質土にじり目の灰色 (5V4/1) 粘質土。炭化物を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 4 オリーブ黒色 (5V3/1) 粘質土にじり目の灰色 (5V4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質土との混合。炭化物を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 5 灰色 (5V4/1) 粘質土とオリーブ黒色 (5V3/2) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質土との混合。炭化物を3mm以下を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 6 オリーブ黒色 (5V3/2) 粘質土と灰色 (5V4/1) 粘質土との混合。炭化物を3mm以下を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 7 オリーブ黒色 (5V3/1) 粘質土と灰色 (5V4/1) 粘質土との混合。炭化物を3mm以下を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 8 灰褐色 (5V4/1) 粘質土と灰褐色 (10V4/1) 粘質土との混合。しりりあり、粘性ややあり。

SX36 (図版7・8)



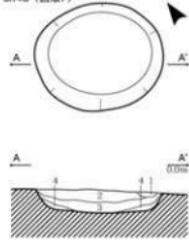
SX36
1 灰色 (10V4/1) 粘質土。炭化物を多く含む。しりりあり、粘性あり。

SX173 (図版8・10)



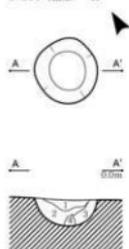
- SX173**
- 1 灰色 (7SV4/1) 粘質土。オリーブ黒色 (2SV3/1) 粘質土をブロック状に含む。炭化物を2~3mmを多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10V2/1) 粘質シルト。灰色 (7SV4/1) 粘質土をブロック状に含む。炭化物を1~3mmを含む。しりりあり、粘性ややあり。

SK48 (図版7)



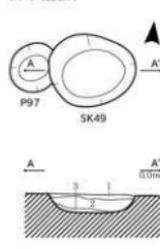
- SK48**
- 1 灰色 (7SV4/1) 粘質土。炭化物を4mmを少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10V4/1) 粘質シルトにじり目の灰褐色 (7SV4/1) 粘質土。炭化物を1mm以下を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 3 灰褐色 (7SV4/1) 粘質土と灰褐色 (10V4/1) 粘質シルトとの混合。しりりあり、粘性ややあり。
 - 4 灰褐色 (7SV4/1) 粘質土とオリーブ黒色にじり目の灰褐色 (10V4/1) 粘質シルト。しりりあり、粘性なし。

SK200 (図版7・8)



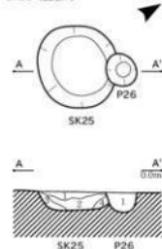
- SK200**
- 1 灰色 (5V4/1) 粘質土。炭化物を1mm以下を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰褐色 (7SV4/1) 粘質土。しりりあり、粘性強い。
 - 3 灰褐色 (10V4/1) 粘質土。しりりあり、粘性強い。
 - 4 灰褐色 (10V5/1) 粘質シルト。しりりあり、粘性あり。

SK49 (図版7)



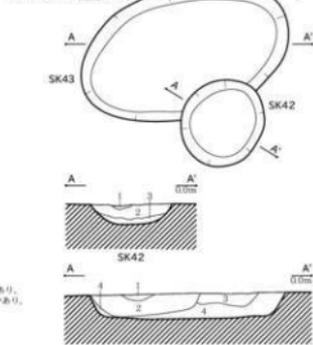
- SK49**
- 1 灰色 (5V4/1) 粘質土。炭化物を5mm以上を多く含む。しりりあり、粘性あり。

SK25 (図版7)



- SK25**
- 1 灰色 (5V4/1) 粘質土。炭化物を5mm以上を多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰褐色 (10V4/1) 粘質土。炭化物を3mm以下を含む。しりりあり、粘性ややあり。
 - 3 灰褐色 (10V4/1) 粘質土と灰褐色 (7SV4/1) 粘質シルトとの混合。しりりあり、粘性ややあり。
 - 4 灰褐色 (5V4/1) 粘質土。しりりあり、粘性あり。

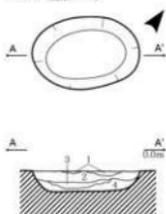
SK42・SK43 (図版7・8)



- SK42**
- 1 灰色 (5V4/1) 粘質土にじり目のオリーブ黒色 (5V3/1) 粘質土。炭化物を3mm以下を少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰褐色 (10V4/1) 粘質シルトにじり目の灰褐色 (7SV4/1) 粘質土。炭化物を1mm以下を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 3 灰褐色 (10V4/1) 粘質シルトにじり目の灰褐色 (10V2/1) 粘質土。炭化物を1mm以下を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 4 灰褐色 (10V5/1) 粘質土にじり目の灰褐色 (10V4/1) 粘質シルト。しりりあり、粘性あり。

- SK43**
- 1 灰褐色 (5V4/1) 粘質土にじり目のオリーブ黒色 (5V3/1) 粘質土。炭化物を3mm以下を少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰褐色 (10V4/1) 粘質土にじり目のオリーブ黒色 (5V3/1) 粘質土。炭化物を1mm以下を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 3 灰褐色 (10V4/1) 粘質土にじり目のオリーブ黒色 (5V3/1) 粘質土。炭化物を1mm以下を極少量含む。しりりあり、粘性あり。
 - 4 灰褐色 (10V4/1) 粘質土にじり目のオリーブ黒色 (5V3/1) 粘質土。炭化物を1mm以下を極少量含む。しりりあり、粘性あり。

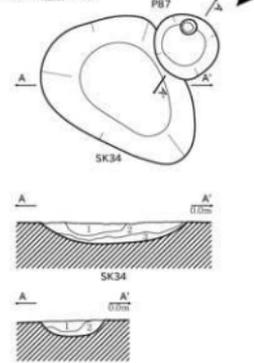
SK285 (図版7・8)



SK285
1 オリーブ灰色 (5Y3/2) 粘質土に黒い灰色 (5Y4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 2mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルトに黒い灰色 (7.5Y4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
3 灰色 (5Y4/1) 粘質土、灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘粒あり。
4 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土に黒い灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘粒中々あり。

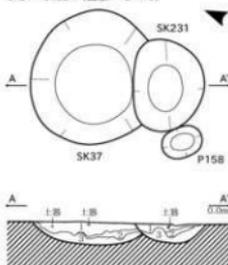
SK34
1 オリーブ灰色 (5Y3/2) 粘質土に黒い灰色 (5Y4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルトに黒い灰色 (5Y4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
3 灰色 (5Y4/1) 粘質土、黒い灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘粒中々あり。

SK34 (図版7・8)



SK34
1 オリーブ灰色 (5Y3/1) 粘質土に黒い灰色 (5Y4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘粒中々あり。

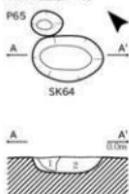
SK37・SK231 (図版7・8・10)



SK37
1 オリーブ灰色 (5Y3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 5mm以上を非常に多く含む。炭化物粒、下部に灰色 (5Y4/1) 粘質土混じり。しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルトと灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
3 SK231の灰色にほぼ同じであるが炭化物シルトがやや多い。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒中々あり。

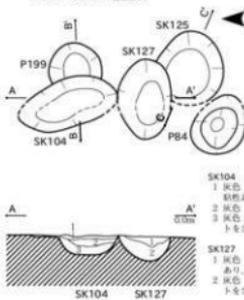
SK231
1 オリーブ灰色 (5Y3/1) 粘質土、炭化物 ϕ 5mm以上を非常に多く含む。炭化物粒、しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルトと灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物 ϕ 2mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
3 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒中々あり。

SK64 (図版7・8)



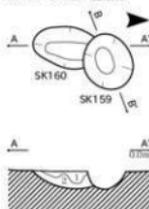
SK64
1 灰色 (10Y4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 3~4mmを含む。炭化物 ϕ 1~2mmを多く含む。しまりあり、粘粒あり。
2 オリーブ灰色 (5Y3/1) 粘質シルト、灰色 (7.5Y4/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりあり、粘粒中々あり。

SK104・SK127 (図版8)



SK104
1 灰色 (10Y4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1~2mmを含む。しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (10Y4/1) 粘質土を塊状に含む。しまりあり、粘粒あり。
3 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土、オリーブ灰色 (2.5GY3/1) 粘質シルトを含む。しまりあり、粘粒あり。
SK127
1 灰色 (10Y5/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1~2mmを多く含む。しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土、オリーブ灰色 (2.5GY3/1) 粘質シルトを含む。しまりあり、粘粒あり。

SK159・SK160 (図版8)



SK159
1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1~2mmを多く含む。灰色 (5Y4/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト、灰色 (7.5Y4/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりあり、粘粒あり。

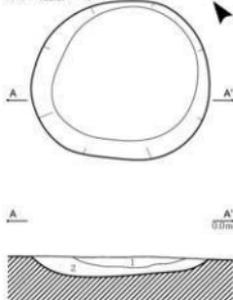
SK160
1 灰色 (10Y4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1~2mmを少量ブロック状に含む。炭化物 ϕ 2~3mmを多く含む。しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト、灰色 (7.5Y4/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりあり、粘粒中々あり。

SK172 (図版8)

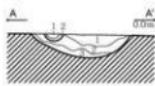
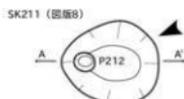
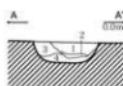
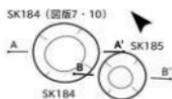


SK172
1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土、灰色 (7.5Y5/1) 粘質シルトをブロック状に含む。炭化物 ϕ 2~3mmを多く含む。しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト、同色の硬質シルトを含む。しまり中々あり、粘粒あり。

SK80 (図版7・9)

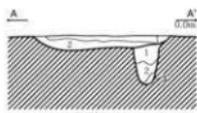
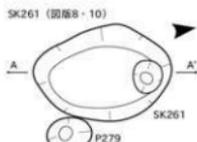


SK80
1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 2~4mmを少量含む。オリーブ灰色 (5Y3/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりあり、粘粒あり。
2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘粒あり。



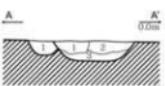
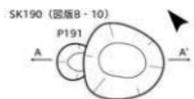
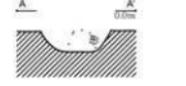
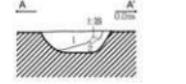
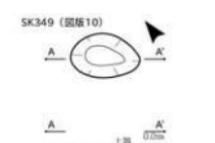
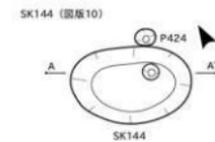
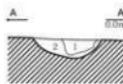
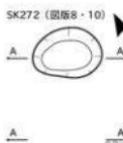
- SK184**
- 1 灰色 (5V4/1) 粘質土とオレンジ色の (5V3/2) 粘質土。炭化物が0.5mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10V4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5V4/1) 粘質土。炭化物が1mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (10V4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5V4/1) 粘質土。炭化物が1mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 4 灰色 (10V4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。しりりあり、粘性ややあり。

- SK185**
- 1 灰色 (5V4/1) 粘質土とオレンジ色の (5V3/2) 粘質土。炭化物が3mm以下を含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10V4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5V4/1) 粘質土。炭化物が1mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (10V4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5V4/1) 粘質土。炭化物が1mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。



- SK261**
- 1 灰色 (7.5V5/1) 粘質土とオレンジ色の (5V6/1) 粘質シルトの混合。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10V5/1) 粘質シルト。同色の粘質シルトを含む。しりりあり、粘性ややあり。

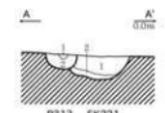
- SK261内周**
- 1 オリーブ灰色 (2.5G5/1) 粘質シルト。黒く腐り灰色色 (2.5G4/1) 粘質シルトを含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (7.5V5/1) 粘質土。しりりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (10V5/1) 粘質シルト。極少量同色の粘質土を含む。しりりややあり、粘性ややあり。



- SK211**
- 1 灰色 (7.5V4/1) 粘質土。炭化物が2~5mmを多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 オリーブ灰色 (2.5G5/1) 粘質シルト。しりりあり、粘性強。
 - 3 灰色 (10V5/1) 粘質シルト。しりりややあり、粘性ややあり。

- SK190**
- 1 灰色 (2.5G5/1) 粘質土とオレンジ色の (2.5G5/1) 粘質シルトの混合。炭化物が2~3mmを多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (7.5G5/1) 粘質シルト。同色の粘質土をブロック状に含む。しりりややあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (10V4/1) 粘質シルト。しりりややあり、粘性ややあり。

- SK77**
- 1 灰色 (10V4/1) 粘質土。炭化物が2~3mmを多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 オリーブ灰色 (2.5G5/1) 粘質シルト。灰色 (7.5V5/1) 粘質土をブロック状に含む。しりりあり、粘性ややあり。



- SK144**
- 1 灰色 (5V4/1) 粘質土とオレンジ色の (5V3/1) 粘質土。炭化物が0.5mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 オリーブ灰色 (5V3/1) 粘質土と灰色 (5V4/1) 粘質土。炭化物が2mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (5V4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。炭化物が1mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。

- SK144内周**
- 1 灰色 (5V4/1) 粘質土とオレンジ色の (5V3/1) 粘質土。炭化物が1mm以下を多く含む。しりりあり、粘性強。
 - 2 灰色 (5V4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。しりりあり、粘性あり。

- P313**
- 1 灰色 (5V4/1) 粘質土とオレンジ色の (5V3/2) 粘質土。炭化物が1mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 オリーブ灰色 (10V2) 粘質シルト混じりの灰色 (5V4/1) 粘質土。しりりあり、粘性あり。

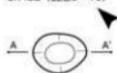
- SK221**
- 1 オリーブ灰色 (5V3/2) 粘質土とオレンジ色の (5V4/1) 粘質土と灰色 (5V4/1) 粘質シルトが少し混じる。土層に炭化物が1mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (5V4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。しりりあり、粘性あり。

- SK299**
- 1 灰色 (5V5/1) 粘質土と灰色 (10V5/1) 粘質土の混合。炭化物が2~8mmを多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (7.5G5/1) 粘質シルト。灰色 (10V5/1) 粘質土をブロック状に少量含む。しりりややあり、粘性あり。

- SK272**
- 1 灰色 (10V5/1) 粘質土。炭化物が2~3mmを多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10V5/1) 粘質シルト。オリーブ灰色 (2.5G5/1) を少量含む。しりりあり、粘性ややあり。

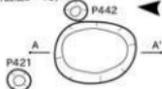
- SK349**
- 1 オリーブ灰色 (2.5G5/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5V4/1) 粘質土。炭化物が2~5mmを多く含む。しりりあり、粘性あり。
 - 2 オリーブ灰色 (2.5G5/1) 粘質シルト。同色の粘質シルトを含む。しりりややあり、粘性ややあり。

SK422 (図版9・10)



- SK422
 1 オリーブ灰色 (2.5G/3/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5G/4/1) 粘質土。炭化物 ϕ 1~3mmを多く含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (5.5G/1) 粘質シルト。同色の炭質シルトを含む。しまりややあり。粘粒あり。

SK418 (図版9・10)



- SK418
 1 灰色 (5.4/1) 粘質土。灰色 (10.5/1) 砂質シルトをプロック状に含む。炭化物 ϕ 1~2mmを含む。しまりあり。粘粒あり。
 2 灰色 (7.5G/1) 砂質シルト。同色の粘質土をブロック状に含む。しまりややあり。粘粒あり。
 3 灰色 (7.5G/1) 砂質シルト。しまりややあり。粘粒あり。

SK515 (図版9・12)



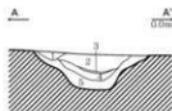
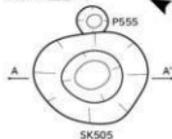
- SK515
 1 オリーブ褐色 (5.3/2) 粘質土。炭化物 ϕ 4mm以下を含む。しまりあり。粘粒あり。
 2 オリーブ褐色 (5.3/2) 粘質土と灰色 (5.4/1) 粘質土の混合。炭化物を少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 3 灰色 (5.4/1) 粘質土と灰色 (10.4/1) 粘質シルトの混合。炭化物を極少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 4 オリーブ褐色 (5.3/2) 粘質土混じりの灰色 (10.4/1) 粘質シルト。しまりあり。粘粒ややあり。
 5 灰色 (5.4/1) 粘質土と灰色 (10.4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり。粘粒あり。

SK458 (図版9・11・12)

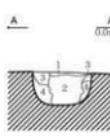
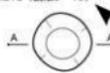


- SK458
 1 灰色 (5.4/1) 粘質土混じりのオリーブ褐色 (7.5G/1) 粘質土。炭化物 ϕ 5mm以上を含む。しまりあり。粘粒あり。
 2 灰色 (5.4/1) 粘質土混じりのオリーブ褐色 (7.5G/2) 粘質土。炭化物 ϕ 2mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 3 オリーブ褐色 (7.5G/2) 粘質土混じりの灰色 (10.4/1) 粘質シルト。炭化物 ϕ 1mm以下を極少量含む。しまりあり。粘粒ややあり。

SK505 (図版11)



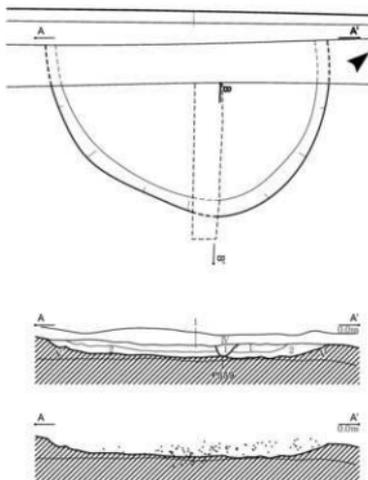
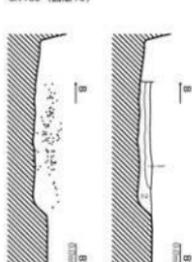
SK215 (図版9・10)



- SK505
 1 オリーブ褐色 (5.3/2) 粘質土と灰色 (5.4/1) 粘質土の混合。炭化物 ϕ 3mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 2 オリーブ褐色 (5.3/2) 粘質土と灰色 (5.4/1) 粘質土の混合。炭化物 ϕ 3mm以下を含む。しまりあり。粘粒あり。
 3 灰色 (10.4/1) 粘質シルト。しまりあり。粘粒あり。
 4 土はほぼ同じ式の灰色 (5.4/1) 粘質土より少ない。しまりあり。粘粒あり。
 5 灰色 (10.4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5.4/1) 粘質土。しまりあり。粘粒あり。

- SK215
 1 オリーブ褐色 (5.3/2) 粘質土。炭化物 ϕ 3mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 2 オリーブ褐色 (7.5G/2) 粘質土。炭化物 ϕ 2mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 3 灰色 (7.5G/1) 粘質土。炭化物を極少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 4 灰色 (7.5G/1) 粘質土混じりの灰色 (10.4/1) 粘質シルト。しまりあり。粘粒ややあり。

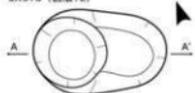
SK459 (図版10)



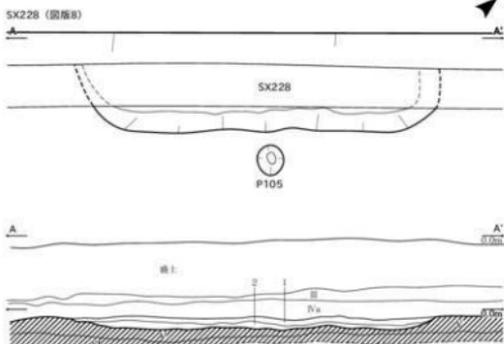
- SK459
 1 オリーブ褐色 (5.3/2) 粘質土。炭化物 ϕ 4~5mmを多く含む。しまりあり。粘粒あり。
 2 灰色 (5.4/1) 粘質土混じりの灰色 (10.4/1) 粘質シルト。しまりあり。粘粒ややあり。

- P559
 1 褐色灰色 (2.5G/2) 粘質土。しまりあり。粘粒あり。

SK513 (図版12)



- SK513
 1 オリーブ褐色 (5.4/1) 粘質土。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 2 灰色 (5.4/1) 粘質土と灰色 (10.4/1) 粘質土の混合。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 3 灰色 (5.4/1) 粘質土混じりの灰色 (10.4/1) 粘質シルト。炭化物 ϕ 1mm以下を極少量含む。しまりあり。粘粒あり。
 4 灰色 (10.4/1) 粘質シルト。しまりあり。粘粒ややあり。



SX228

- 1 オリーブ褐色 (2.SGY4/1) 粘質土。炭化物 ϕ 1~3mmを含む。しりりあり、粘性あり。
- 2 オリーブ灰色 (2.SGY5/1) 粘質土。褐色の粘質シルトを含む。しりりあり、粘性ややあり。

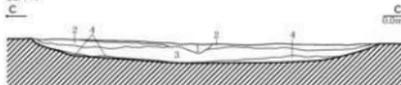
SD447 (図版9・10・12)



SD447



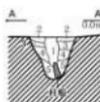
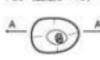
SD447



SD447

- 1 オリーブ褐色 (SY3/2) 粘質土。炭化物 ϕ 4~5mmを多く含む。炭化物を含む。しりりあり、粘性あり。
- 2 オリーブ灰色 (2.SGY5/1) 粘質土。褐色の粘質シルトを少量含む。しりりあり、粘性あり。
- 3 オリーブ灰色 (2.SGY5/1) と灰色 (7.DY5/1) 粘質土の混合。
- 4 黒色 (SY4/1) 粘質土と黒色の (10Y4/1) 粘質シルト。
- 5 しりりあり、粘性ややあり。

P89 (図版8・10)



P89

- 1 灰色 (SY4/1) 粘質土。オリーブ灰色 (2.SGY5/1) をブロック状に含む。しりりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (7.DY5/1) 粘質土。灰色 (SY4/1) が塊状に混じる。しりりあり、粘性ややあり。
- 3 オリーブ灰色 (2.SGY5/1) 粘質土。しりりあり、粘性あり。
- 4 黒色 (10Y5/1) 粘質シルト。灰色 (SY4/1) 粘質土をブロック状に含む。しりりややあり、粘性あり。
- 5 暗オリーブ灰色 (2.SGY4/1) 粘質シルト。しりりややあり、粘性あり。

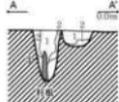
P339

- 1 オリーブ褐色 (SY3/2) 粘質土と灰色 (SY4/1) 粘質土の混合。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しりりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (SY4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しりりあり、粘性あり。

P321

- 1 オリーブ褐色 (SY3/2) 粘質土と灰色 (SY4/1) 粘質土の混合。炭化物 ϕ 3mm以下を少量含む。しりりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルトと黒色の (SY4/1) 粘質土。しりりあり、粘性あり。
- 3 灰色 (SY4/1) 粘質土と黒色の (10Y4/1) 粘質シルト。しりりあり、粘性ややあり。

P102 P107 (図版7)



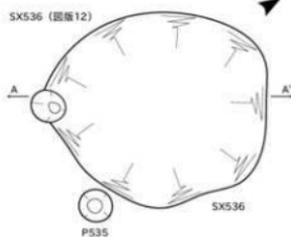
P102 P107

P102

- 1 オリーブ褐色 (SY4/1) 粘質土。炭化物 ϕ 2mm以下を含む。しりりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (7.DY4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しりりあり、粘性ややあり。
- 3 灰色 (7.DY4/1) 粘質土と黒色の (10Y4/1) 粘質シルト。しりりあり、粘性ややあり。

P107

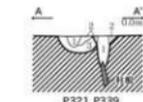
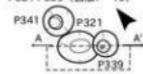
- 1 オリーブ褐色 (SY4/1) 粘質土。炭化物 ϕ 3mm以下を多く含む。しりりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (7.DY4/1) 粘質土と黒色の (10Y4/1) 粘質シルト。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しりりあり、粘性ややあり。



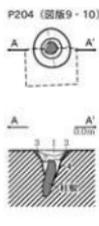
SX536

- 1 灰色 (SY4/1) 粘質土。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しりりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (SY4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しりりあり、粘性あり。

P321 P339 (図版7・10)



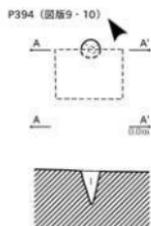
P321 P339



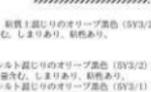
P204
 1 灰色 (SY4/1) 粘質土、粘質土混じりのオリープ黒色 (SY3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 3mm以下を含む。しまりあり、粘粒あり。



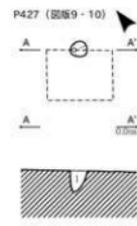
P204
 1 灰色 (7.5V4/1) 粘質シルト混じりのオリープ黒色 (SY3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (7.5V4/1) 粘質シルト混じりのオリープ黒色 (SY3/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 3 オリープ黒色 (SY3/2) 粘質土混じりの灰色 (7.5V4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 4 灰色 (SY4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘粒あり。



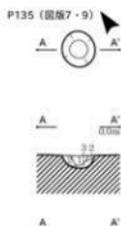
P394
 1 灰色 (SY4/1) 粘質土、粘質土混じりのオリープ黒色 (SY3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 3mm以下を含む。しまりあり、粘粒あり。



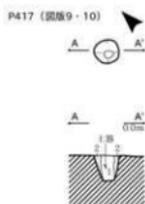
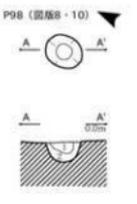
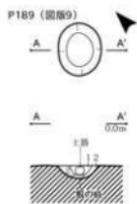
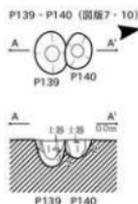
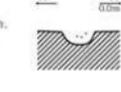
P394
 1 灰色 (7.5V4/1) 粘質シルト混じりのオリープ黒色 (SY3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (7.5V4/1) 粘質シルト混じりのオリープ黒色 (SY3/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 3 オリープ黒色 (SY3/2) 粘質土混じりの灰色 (7.5V4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 4 灰色 (SY4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘粒あり。



P427
 1 オリープ黒色 (SY3/2) 粘質土と灰色 (SY4/1) 粘質土の混合。炭化物 ϕ 3mm以下を多く含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (10V4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (SY4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 3 灰色 (SY4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘粒ややあり。

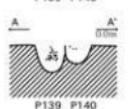


P135
 1 オリープ黒色 (SY3/2) 粘質土と灰色 (SY4/1) 粘質土の混合。炭化物 ϕ 3mm以下を多く含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (10V4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (SY4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 3 灰色 (SY4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘粒ややあり。



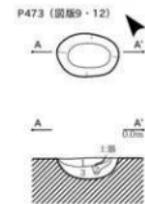
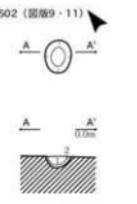
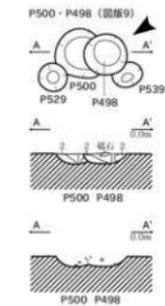
P189
 1 灰色 (SY4/1) 粘質土混じりのオリープ黒色 (SY3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 3mm以下を含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (10V4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (SY4/1) 粘質土、しまりあり、粘粒あり。

P98
 1 灰色 (7.5V4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 2~3mmを多く含む。灰色 (10V4/1) 粘質シルトをブロッケ状に少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (10V4/1) 粘質シルト、しまりあり、粘粒あり。



P139 P140
 1 灰色 (SY4/1) 粘質土とブロッケ状のオリープ黒色 (SY3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 5mm以上を多く含む。
 2 灰色 (SY4/1) 粘質シルトの混合。炭化物 ϕ 1mm以下を多く含む。
 3 灰色 (SY4/1) 粘質土混じりの灰色 (10V4/1) 粘質土、しまりあり、粘粒ややあり。

P98
 1 灰色 (7.5V4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 2~3mmを多く含む。灰色 (10V4/1) 粘質シルトをブロッケ状に少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (10V4/1) 粘質シルト、しまりあり、粘粒あり。



P139
 1 灰色 (SY4/1) 粘質土とブロッケ状のオリープ黒色 (SY3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 5mm以上を多く含む。
 2 灰色 (SY4/1) 粘質シルトの混合。炭化物 ϕ 1mm以下を多く含む。
 3 灰色 (SY4/1) 粘質土混じりの灰色 (10V4/1) 粘質土、しまりあり、粘粒ややあり。

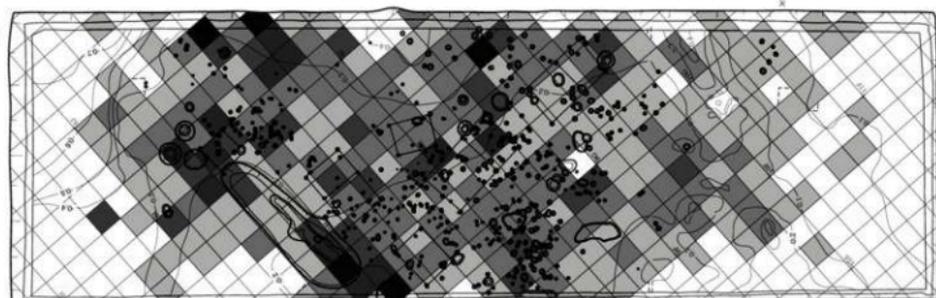
P473
 1 灰色 (SY4/1) 粘質土混じりのオリープ黒色 (SY3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を多く含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 オリープ黒色 (SY3/1) 粘質土混じりの灰色 (SY4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 3 灰色 (SY4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘粒あり。

P140
 1 灰色 (SY4/1) 粘質土とブロッケ状のオリープ黒色 (SY3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 4mm以下を多く含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (SY4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。炭化物 ϕ 1mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。

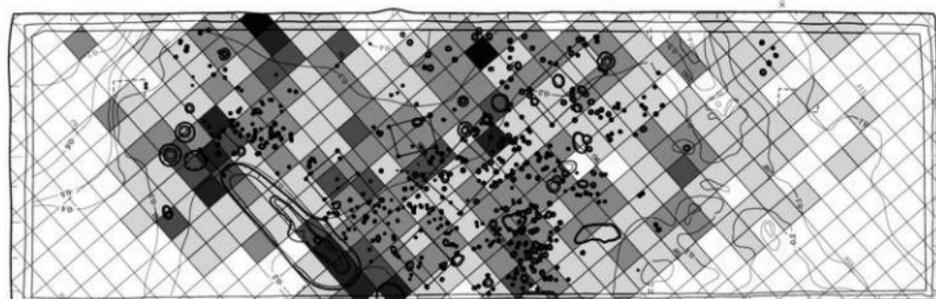
P498
 1 灰色 (SY4/1) 粘質土、炭化物 ϕ 2~3mmを多く含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 オリープ灰色 (SY3/2) 粘質土、オリープ黒色 (SY3/2) 粘質土をブロッケ状に少量含む。しまりあり、粘粒あり。

P417
 1 オリープ黒色 (7.5V3/1) 粘質土、炭化物 ϕ 2mm以下を少量含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 灰色 (7.5V4/1) 粘質土と灰色 (10V4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘粒あり。

P500
 1 黒褐色 (2.5V3/2) 粘質土、炭化物 ϕ 3~4mmを多く含む。しまりあり、粘粒あり。
 2 オリープ灰色 (SY3/2) 粘質土、しまりあり、粘粒あり。

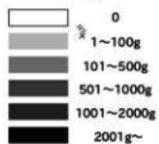


全器種

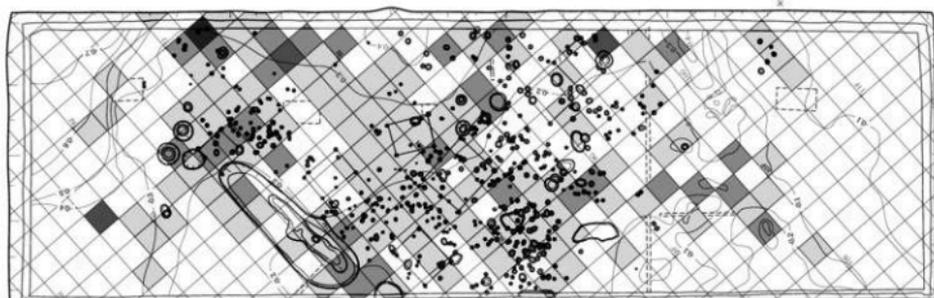


器分布図

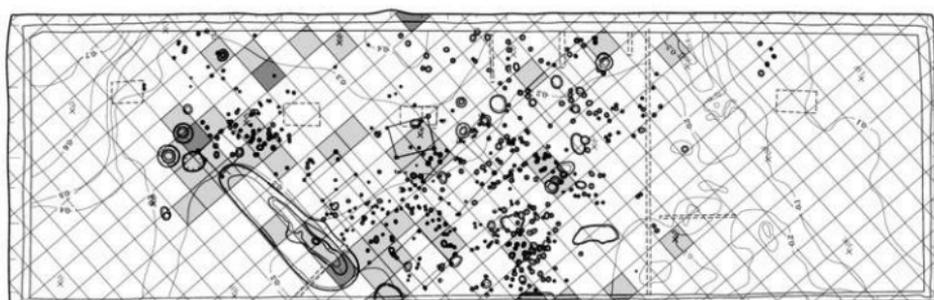
凡例



0 (1:400) 10m



重分布図

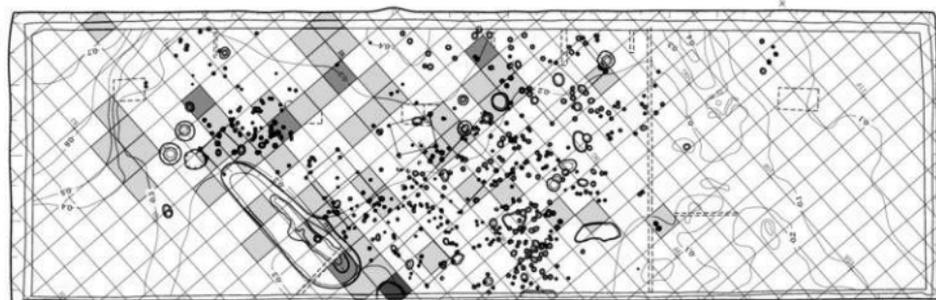


鉢分布図

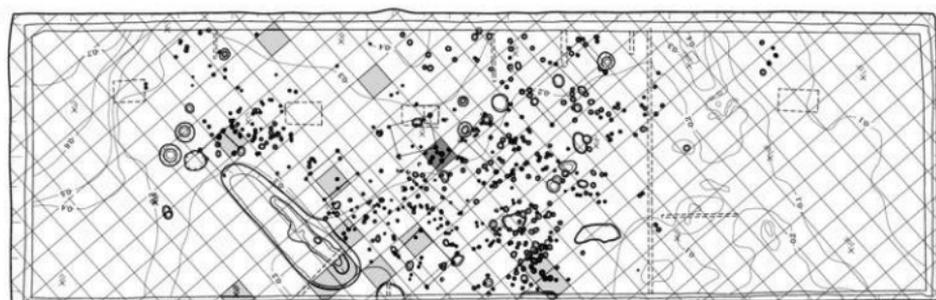
凡例



0 (1:400) 10m



高杯分布図



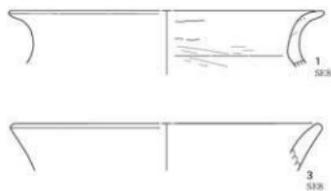
器台分布図

凡例

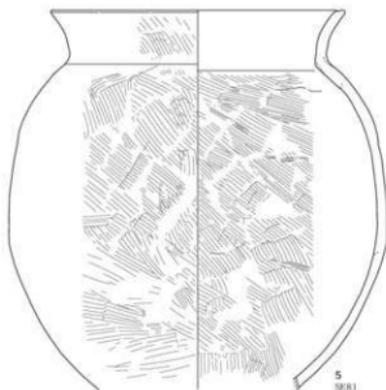
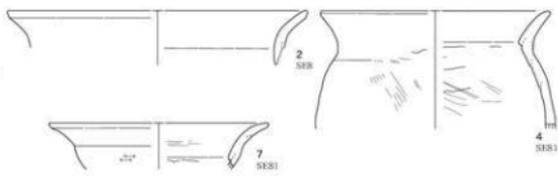


0 (1:400) 10m

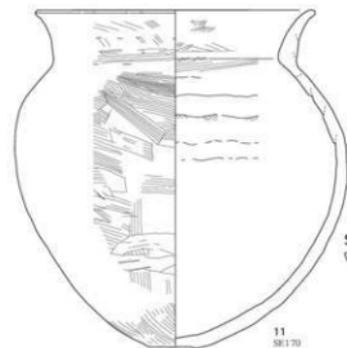
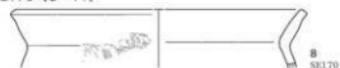
SE8 (1~3)



SE81 (4~7)



SE170 (8~11)



SE255 (12~14)



SE457 (15)

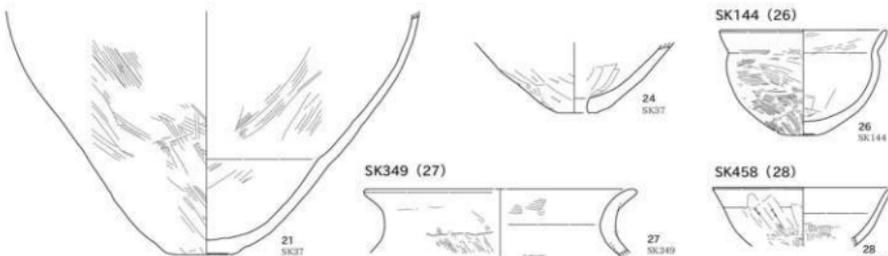
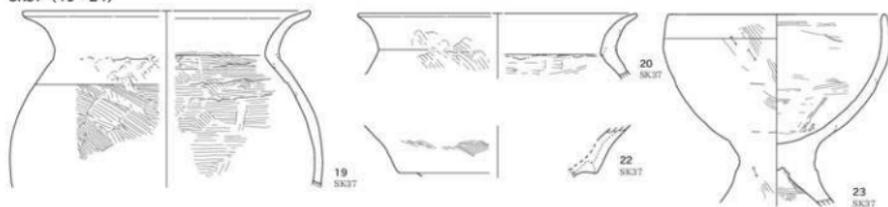


SE491 (16~18)

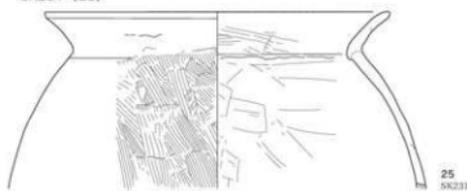


0 (1:3) 10cm

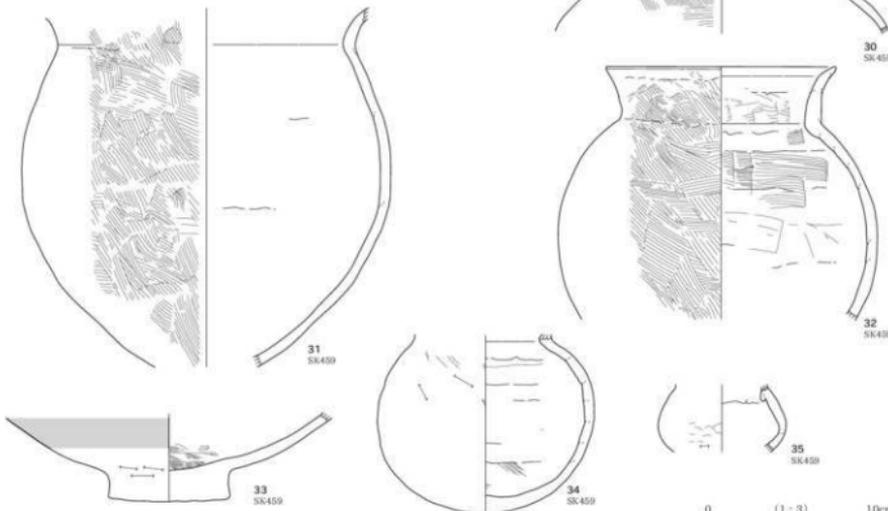
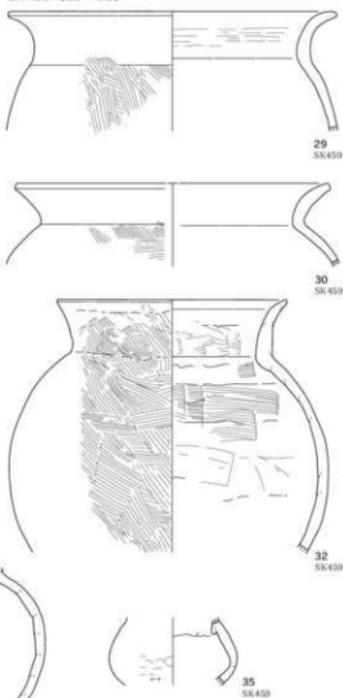
SK37 (19~24)



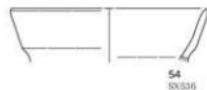
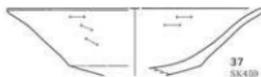
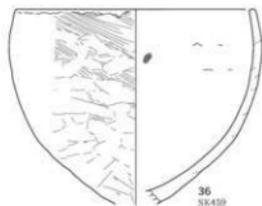
SK231 (25)



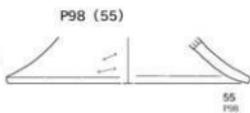
SK459 (29~35)



SK459 (36~38)

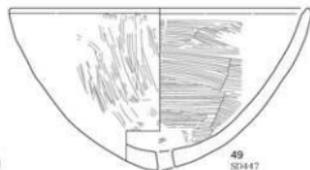
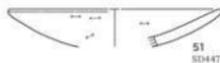
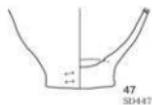
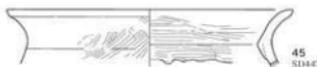
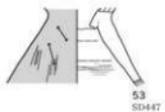
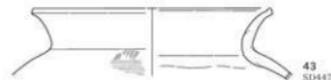
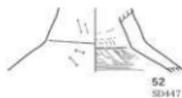
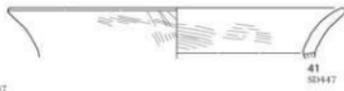
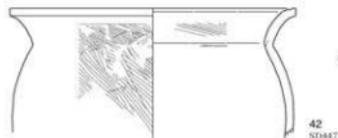
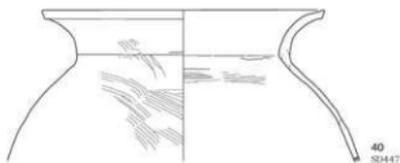
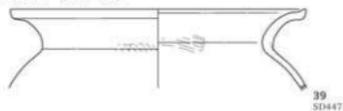


SX536 (54)

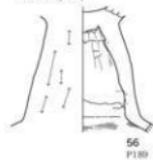


P98 (55)

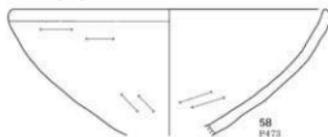
SD447 (39~53)



P189 (56)



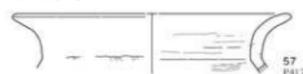
P473 (58)



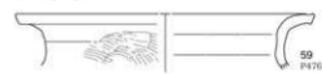
P502 (60)



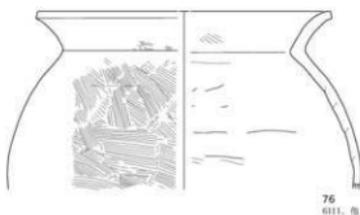
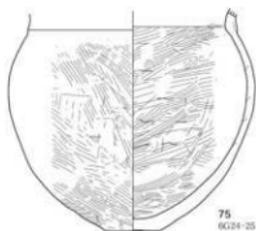
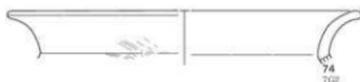
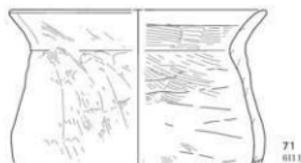
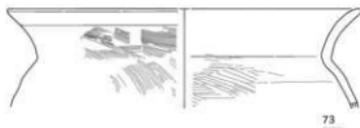
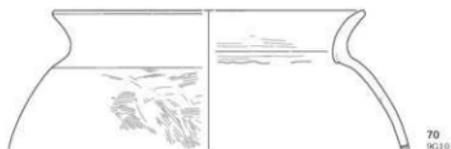
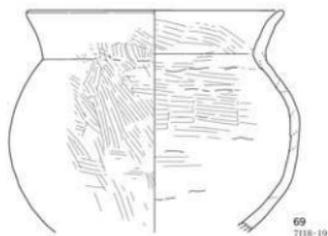
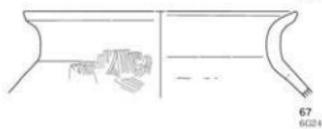
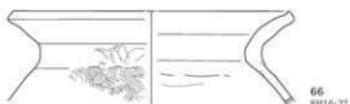
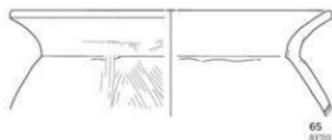
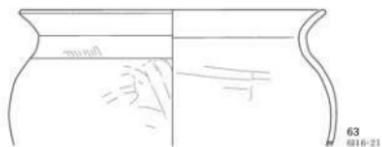
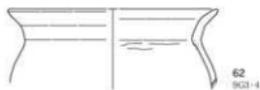
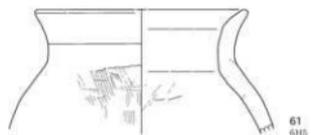
P417 (57)



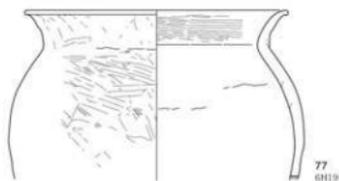
P476 (59)



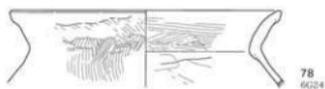
遺構外 (61~76)



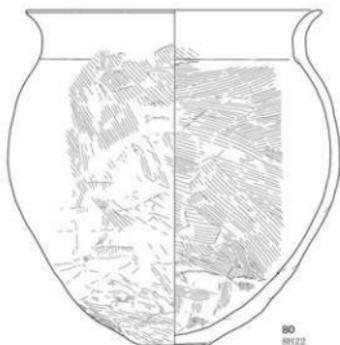
遺構外 (77~87)



77
6H19



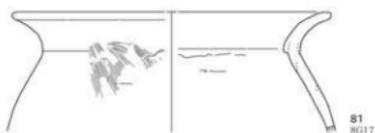
78
6G24



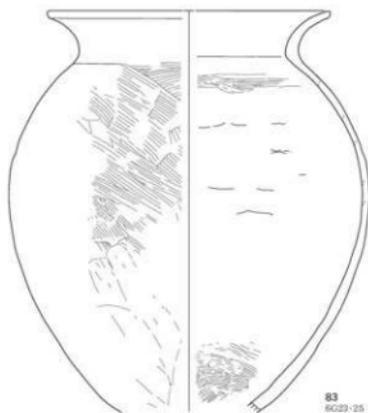
80
8H22



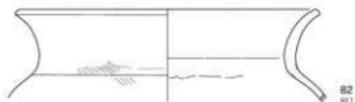
79
7G2



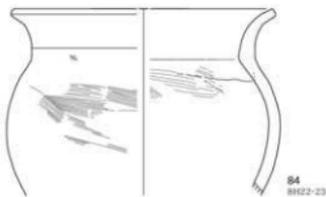
81
8G17



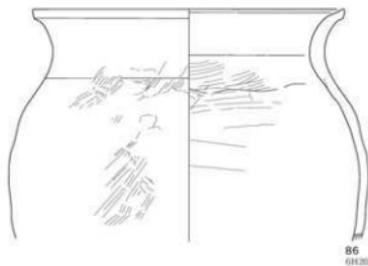
83
8G23-25



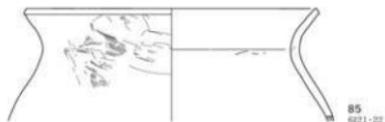
82
8I1



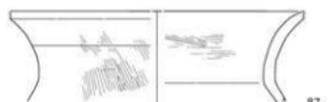
84
8H22-23



86
6H26

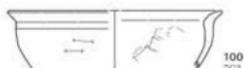
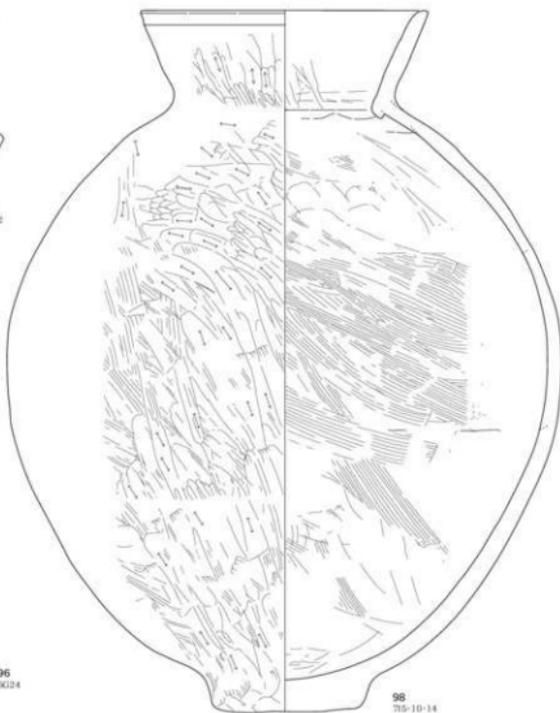
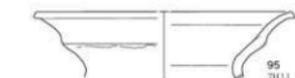
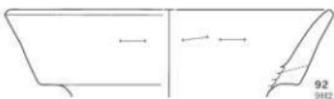
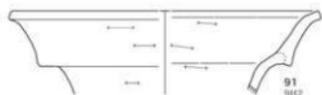
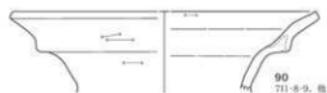
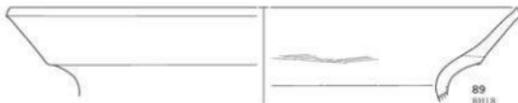


85
6G21-22



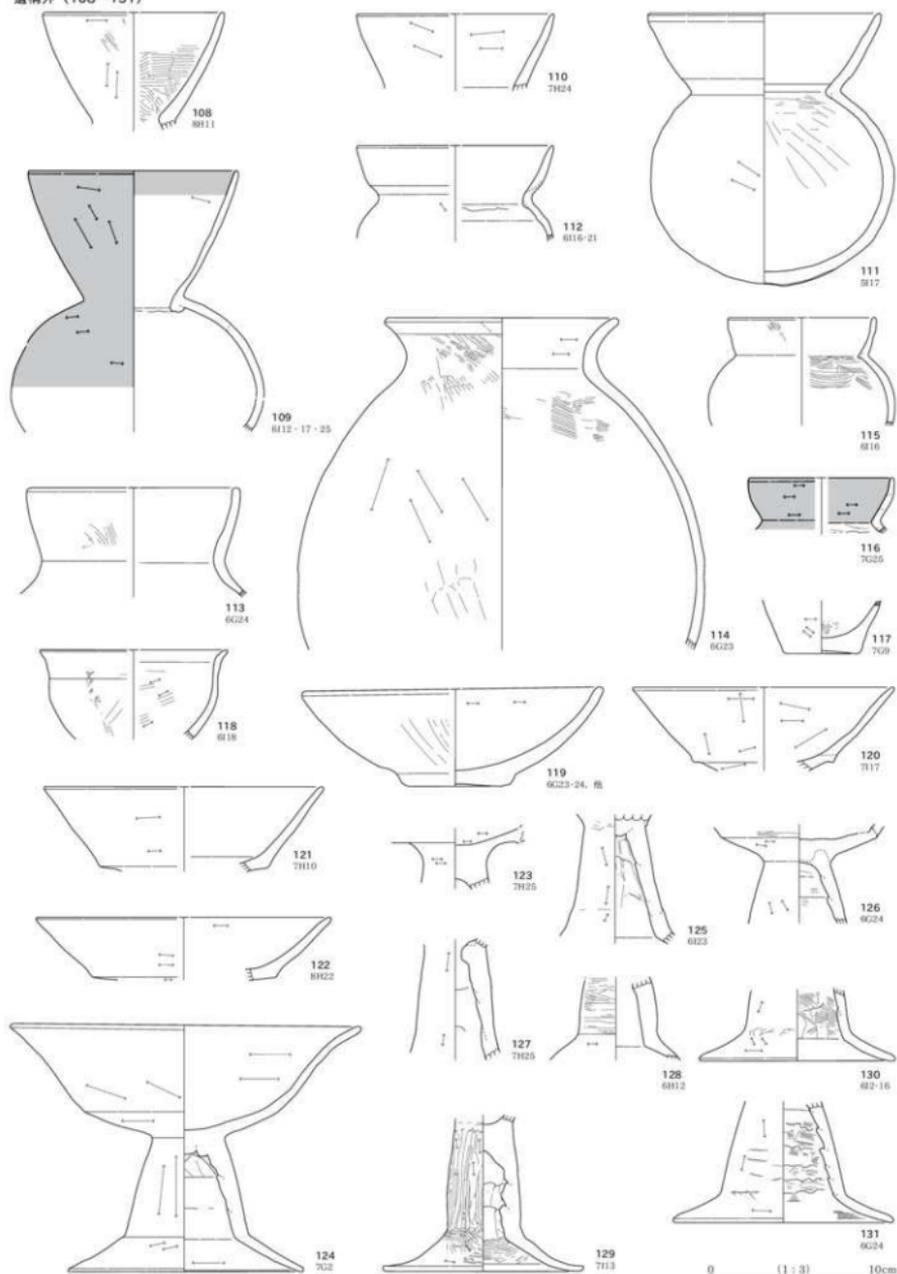
87
6H12

遺構外 (88~107)



0 (1:3) 10cm

遺構外 (108~131)



遺構外 (132~136)



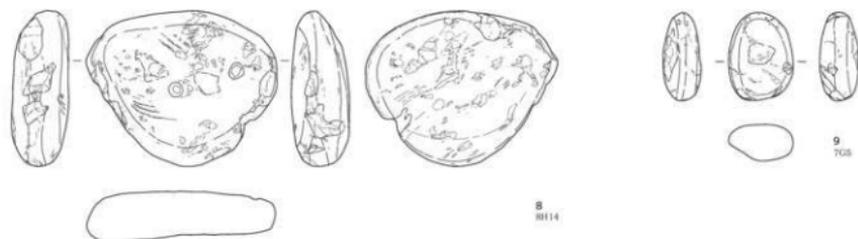
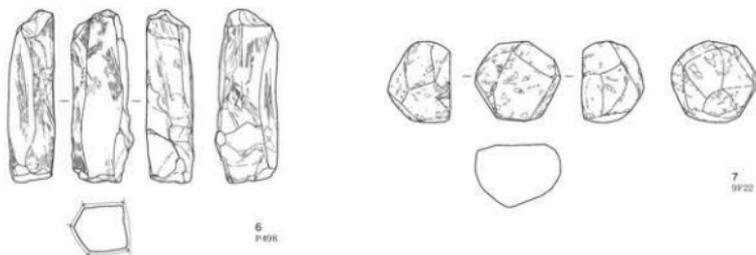
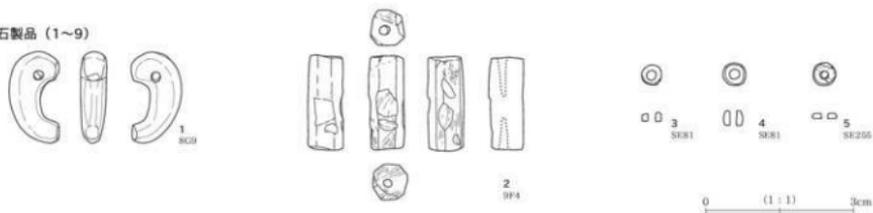
土製品 (137~142)



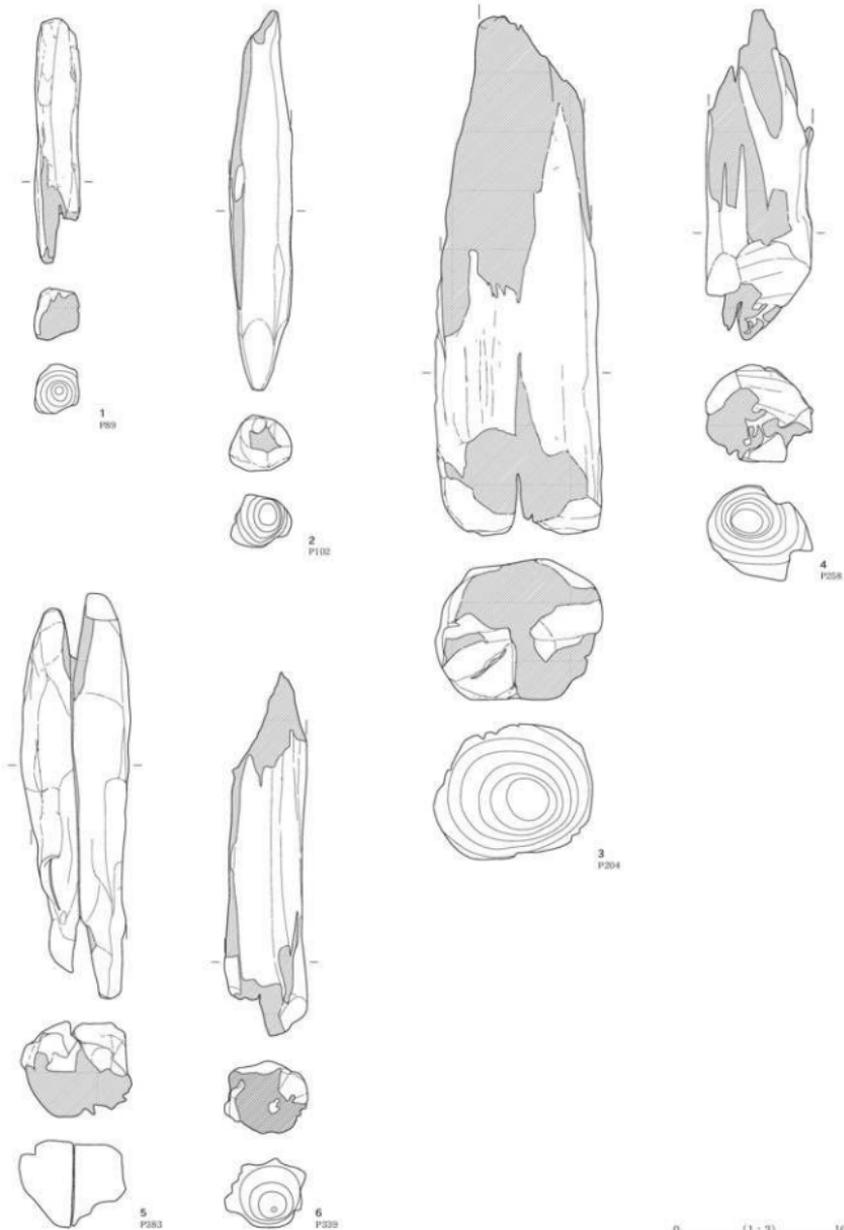
陶器 (143)



石製品 (1~9)



木製品 (1~6)



02RSP R 1389 7190 7 MAY 44



上太正街

五尺

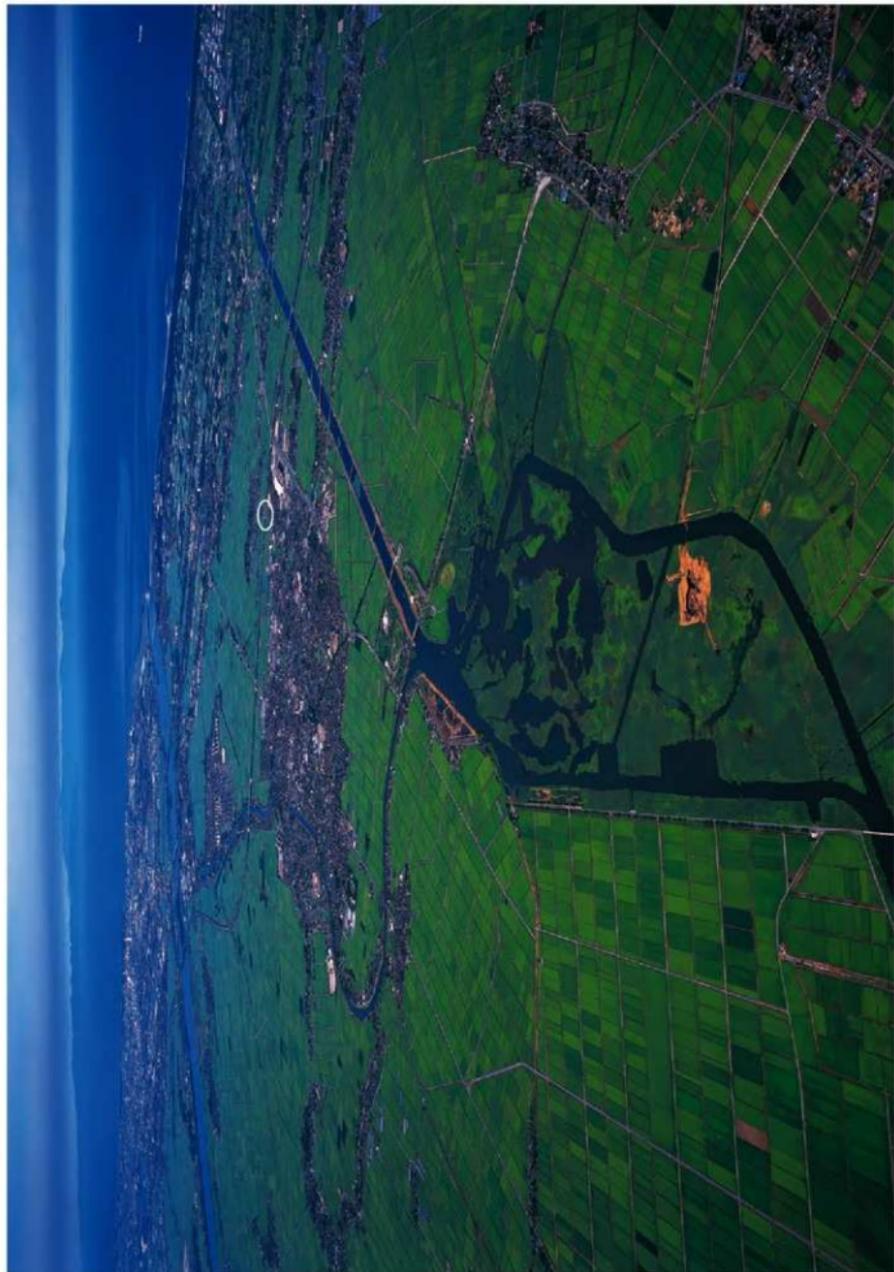
曹家桥

法花崗

葛家

牛莊溝

新井溝



上大川遺跡周辺空中写真（南東から）



空中写真（西から）



空中写真（北から）



空中写真 (全景)



完損状況 遺構集中区・SB601～SB604 (北から)



完掘状況 SB605・SB606・SD447（北から）



土器集合写真



調査前現況 1 (南から)



調査前現況 2 (北から)



東壁基本層序 1 (西から)



東壁基本層序 2 (西から)



東壁基本層序 3 (西から)



東壁基本層序 4 (西から)



東壁基本層序 5 (西から)



東壁基本層序 6 (西から)



SE8 土層断面 (西から)



SE8 完掘 (南から)



SE81 土層断面 (西から)



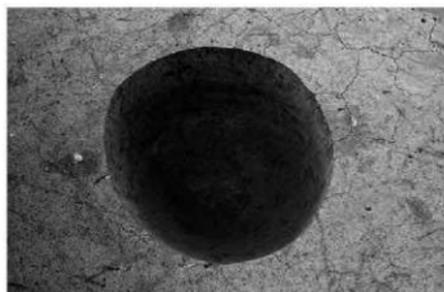
SE81 底面遺物出土状況 (西から)



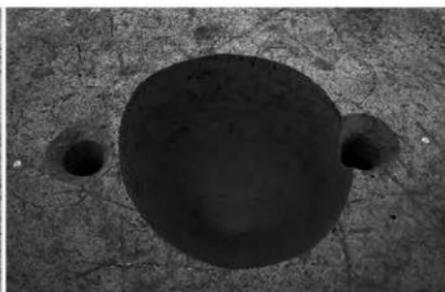
SE81 完掘 (西から)



SE170 土層断面 (南から)



SE170 完掘 (南から)



SE170・P258・P257 完掘 (南から)



SE255 土層断面 (東から)



SE255 完掘 (東から)



SE457 土層断面 (東から)



SE457 完掘 (東から)



SE491 土層断面 (南から)



SE491 完掘 (南から)



SX36 土層断面 (西から)



SX36 完掘 (西から)



SK173 土層断面 (北から)



SK173 完掘 (北から)



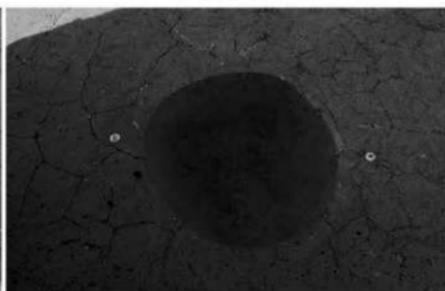
SK48 土層断面 (南から)



SK48 完掘 (南から)



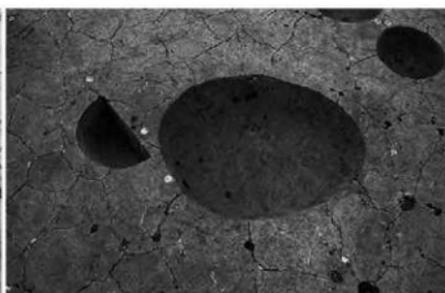
SK200 土層断面 (南から)



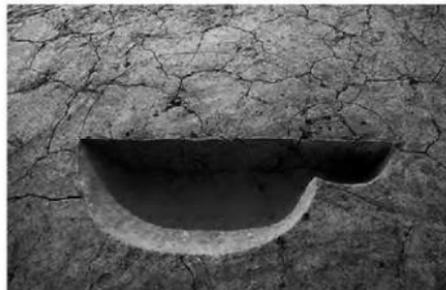
SK200 完掘 (南から)



SK49 土層断面 (東から)



SK49 完掘 (南から)



SK25・P26 土層断面 (東から)



SK25・P26 完掘 (東から)



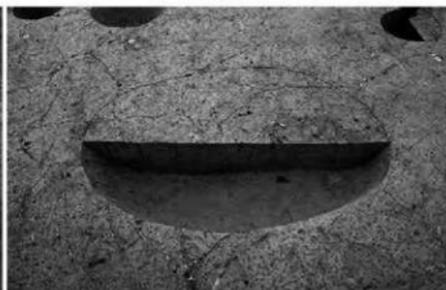
SK42 土層断面 (西から)



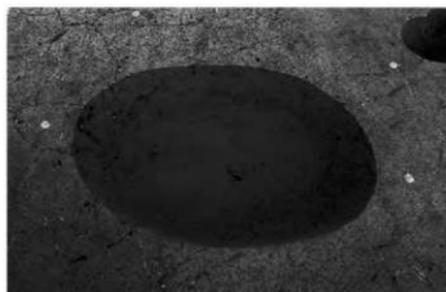
SK43 土層断面 (南から)



SK42・SK43 完掘 (北から)



SK285 土層断面 (東から)



SK285 完掘 (東から)



SK34 土層断面 (東から)



SK34 完掘 (東から)



SK37・SK231 遺物出土状況 (南から)



SK37・SK231 土層断面 (南から)



SK37・SK231 完掘 (北から)



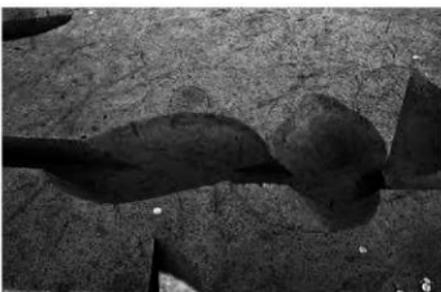
SK64 土層断面 (南から)



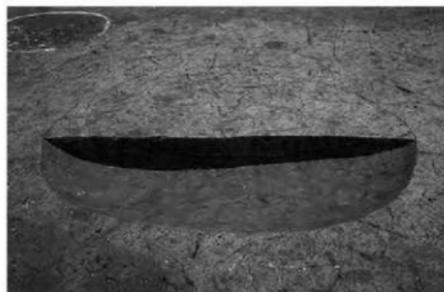
SK64 完掘 (南から)



SK104・SK127 土層断面 (西から)



SK104・SK127 完掘 (西から)



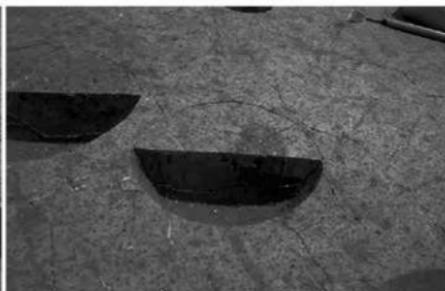
SK80 土層断面 (南から)



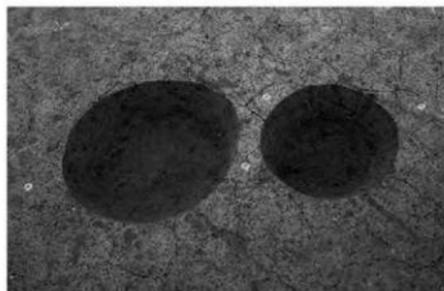
SK80 完掘 (南から)



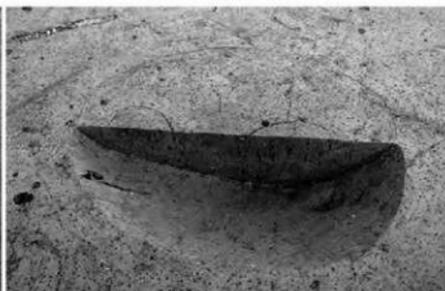
SK184 土層断面 (南から)



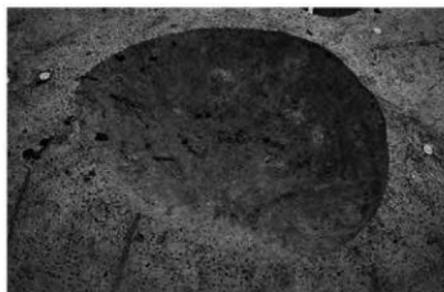
SK185 土層断面 (南から)



SK184・SK185 完掘 (南から)



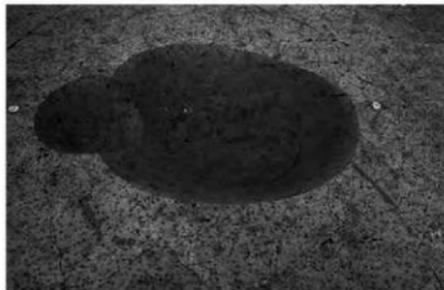
SK211・P212 土層断面 (西から)



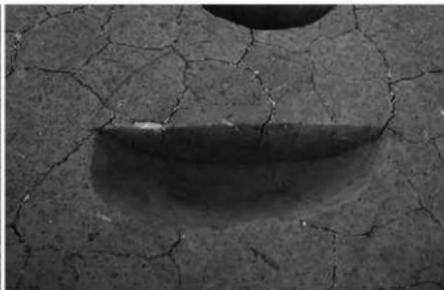
SK211 完掘 (西から)



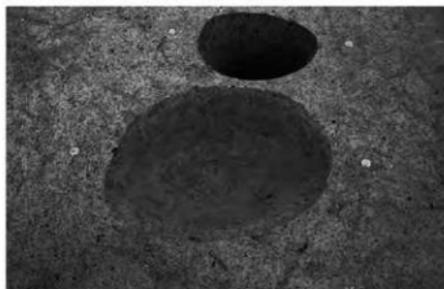
SK190・P191 土層断面 (南から)



SK190・P191 完掘 (南から)



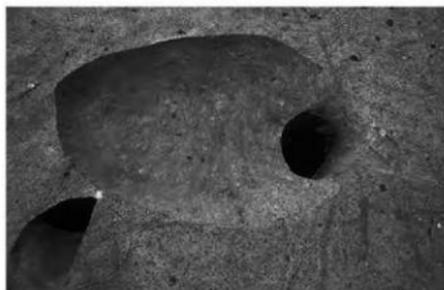
SK77 土層断面 (南から)



SK77 完掘 (南から)



SK261 土層断面 (東から)



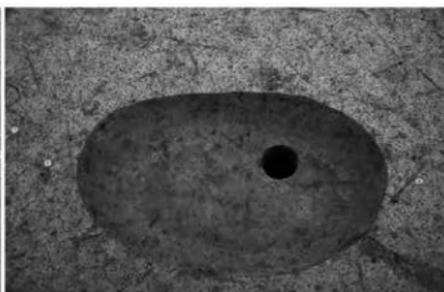
SK261 完掘 (東から)



SK144 土層断面 (南から)



SK144 遺物出土状況 (南から)



SK144 完掘 (南から)



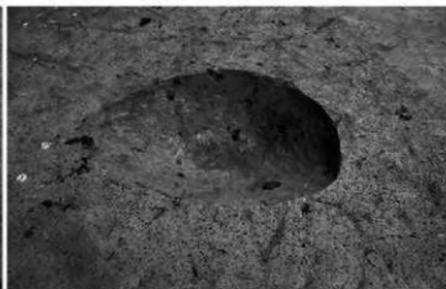
SK221 土層断面 (南から)



SK221 完掘 (南から)



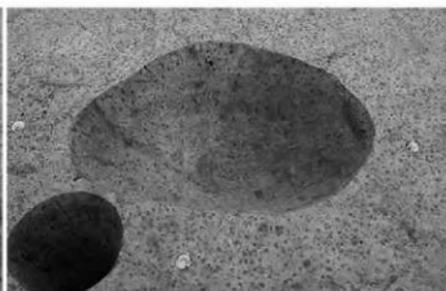
SK299 土層断面 (南から)



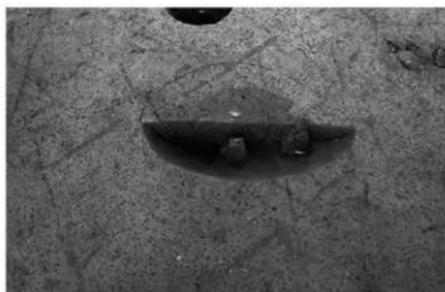
SK299 完掘 (南から)



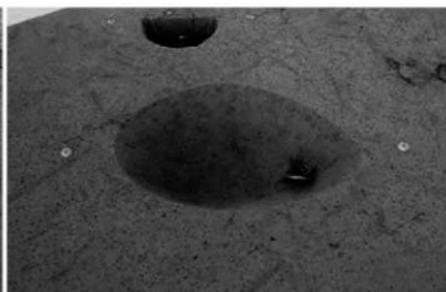
SK272 土層断面 (南から)



SK272 完掘 (南から)



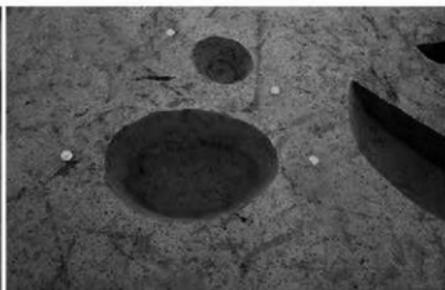
SK349 土層断面 (南から)



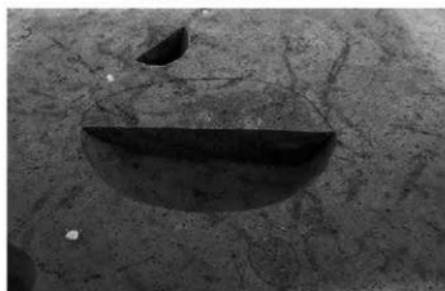
SK349 完掘 (南から)



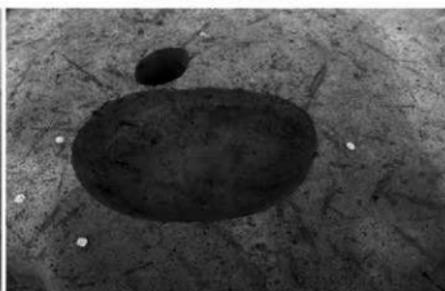
SK422 土層断面 (南から)



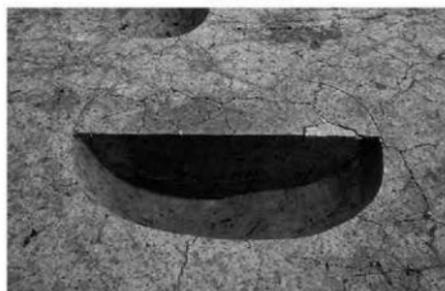
SK422 完掘 (南から)



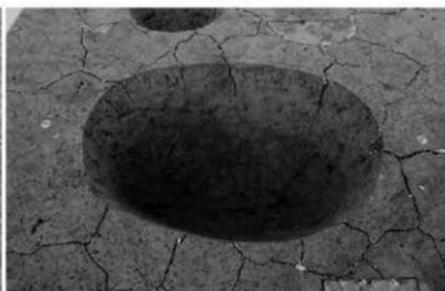
SK418 土層断面 (西から)



SK418 完掘 (西から)



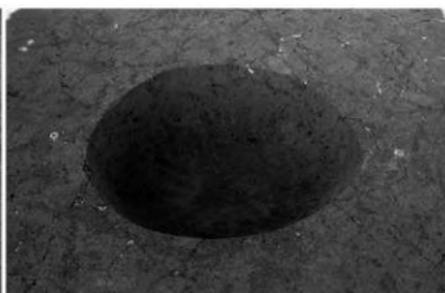
SK515 土層断面 (南から)



SK515 完掘 (南から)



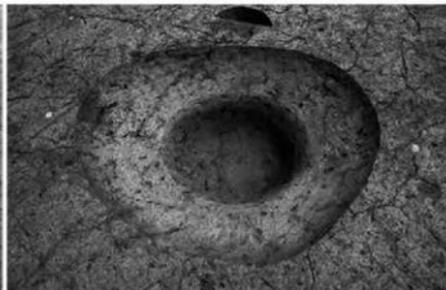
SK458 土層断面 (南から)



SK458 完掘 (南から)



SK505 土層断面 (南から)



SK505 完掘 (南から)



SK215 土層断面 (南から)



SX228 土層断面 (東から)



SK459 土層断面 (南から)



SK459 完掘 (東から)



SD447A 土層断面 (西から)



SD447B 土層断面 (西から)



SD447C 土層断面 (西から)



SX536 土層断面 (東から)



SX513 土層断面 (南から)



SX513 完掘 (南から)



P383 土層断面 (北から)



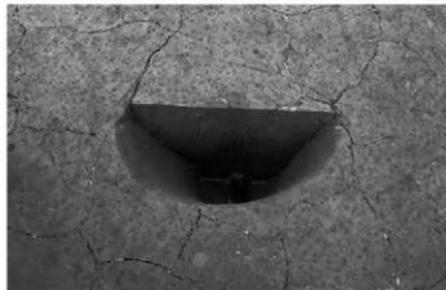
P258 土層断面 (北から)



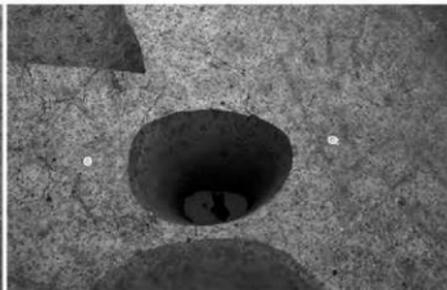
P327 土層断面 (南から)



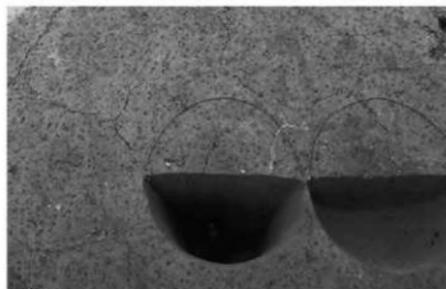
P430 土層断面 (南から)



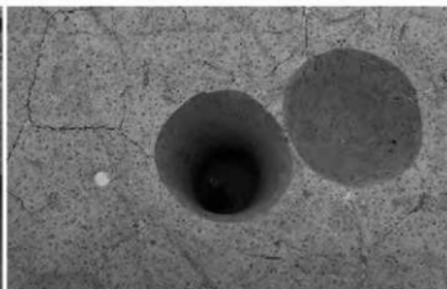
P89 土層断面 (南から)



P89 完掘 (南から)



P102 土層断面 (南から)



P102 完掘 (南から)



P339 土層断面 (南から)



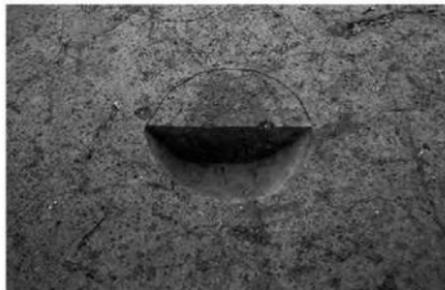
P204 土層断面 (南から)



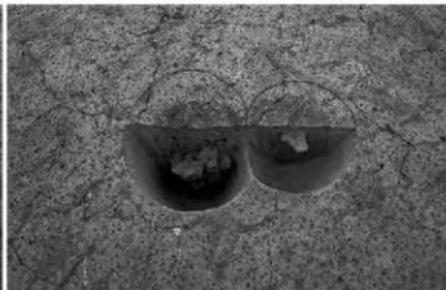
P394 土層断面 (南から)



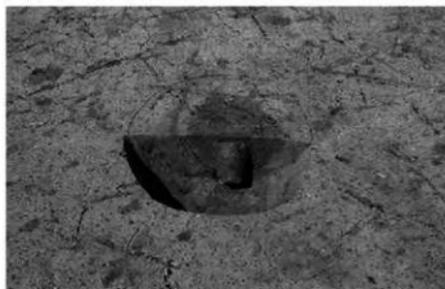
P427 土層断面 (南から)



P135 土層断面 (南から)



P139・P140 遺物出土状況 (東から)



P189 遺物出土状況 (南から)



P498・P500 砥石出土状況 (西から)



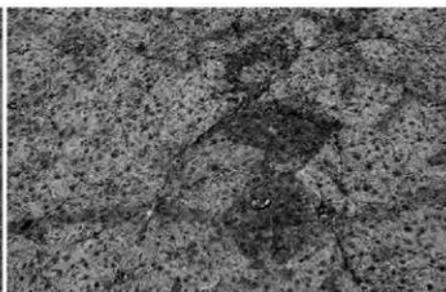
P473 遺物出土状況 (南から)



包含層遺物出土状況 (東から)

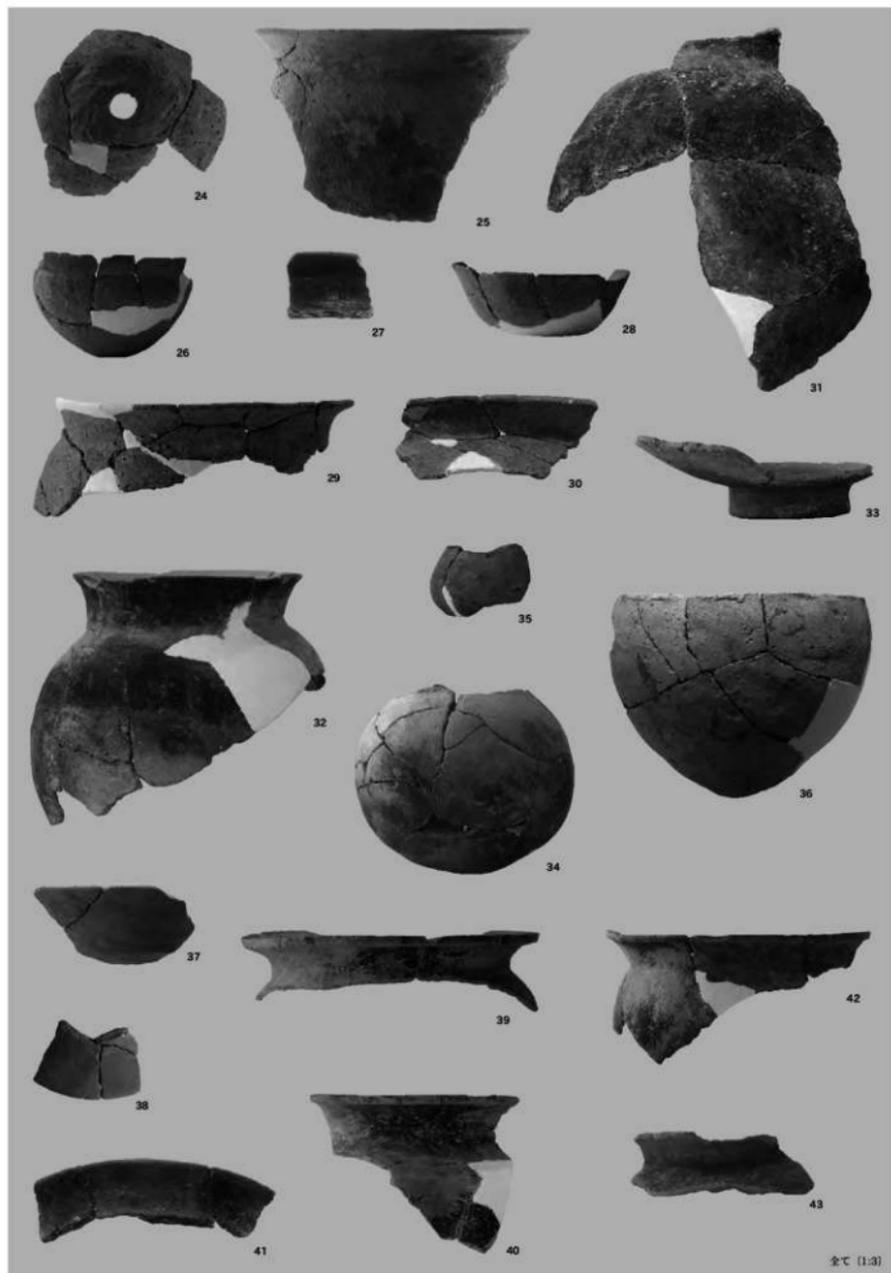


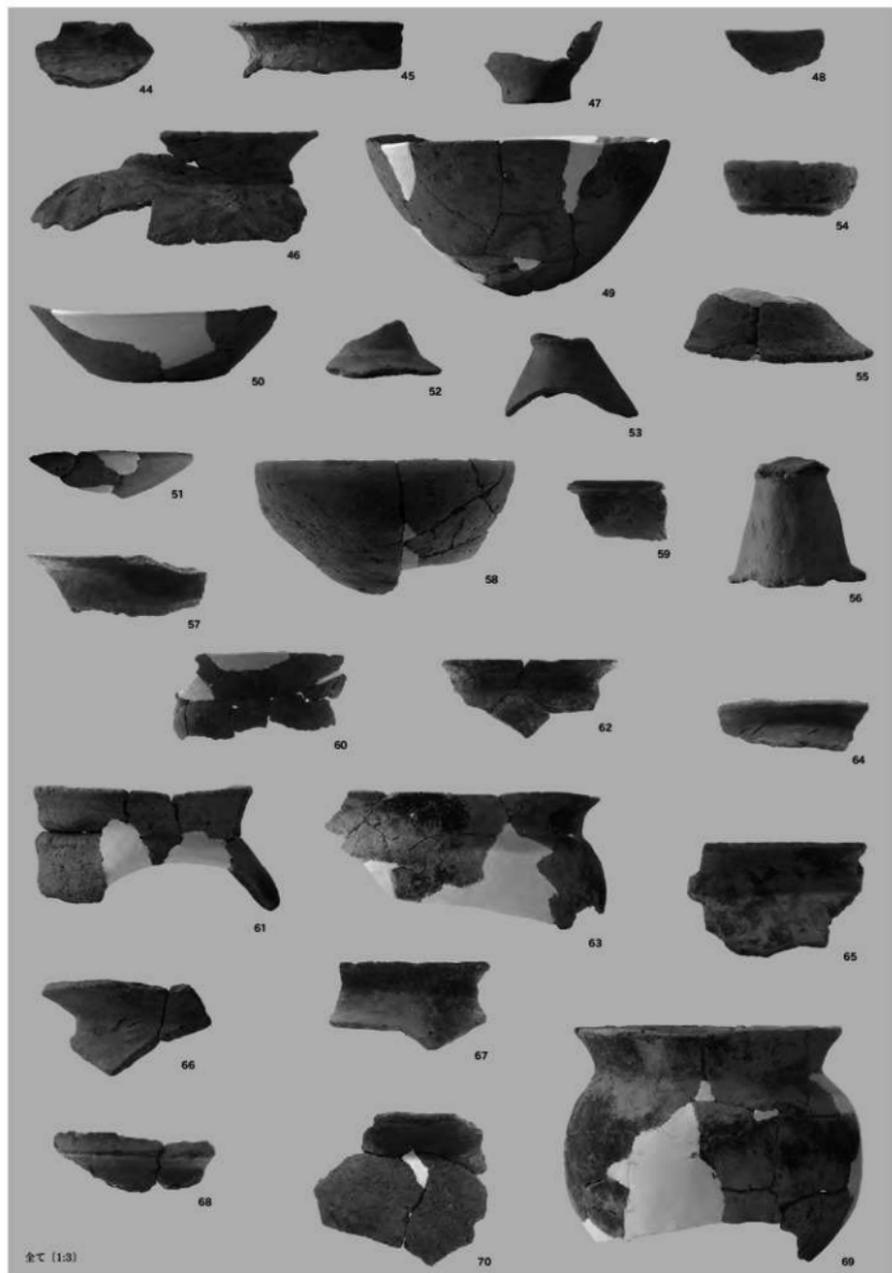
管玉出土状況 (南から)

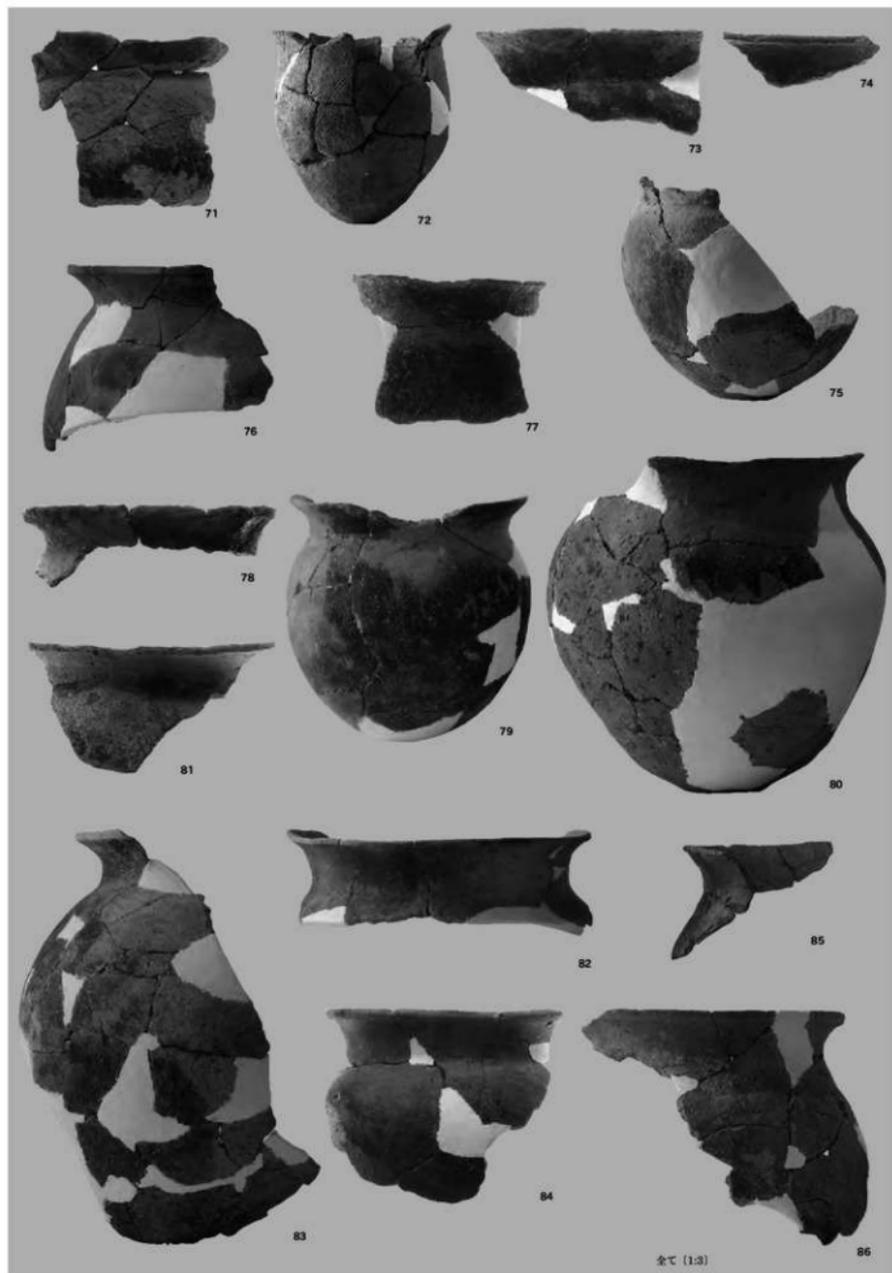


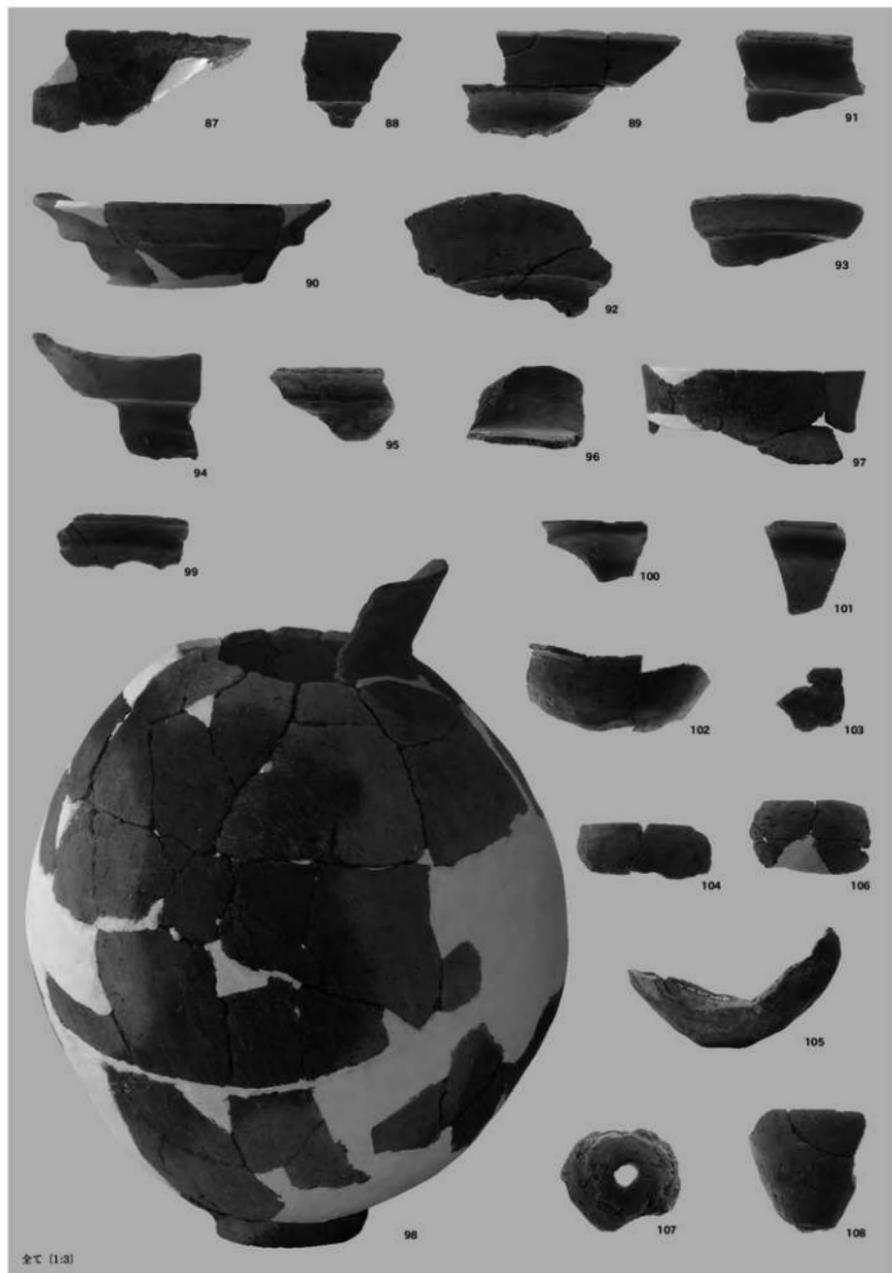
勾玉出土状況 (東から)



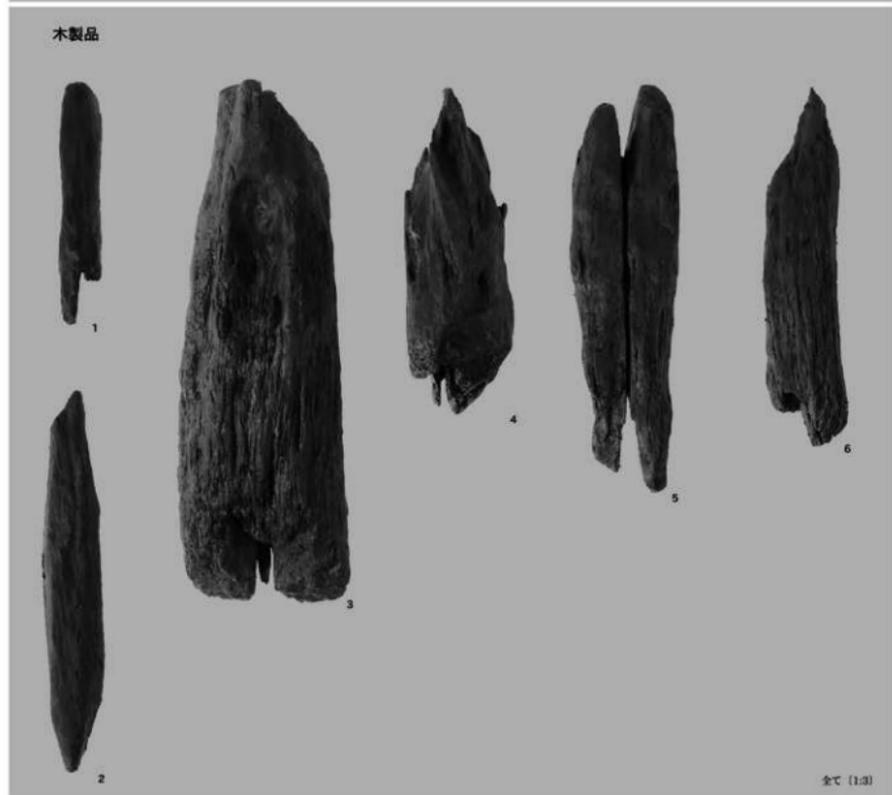
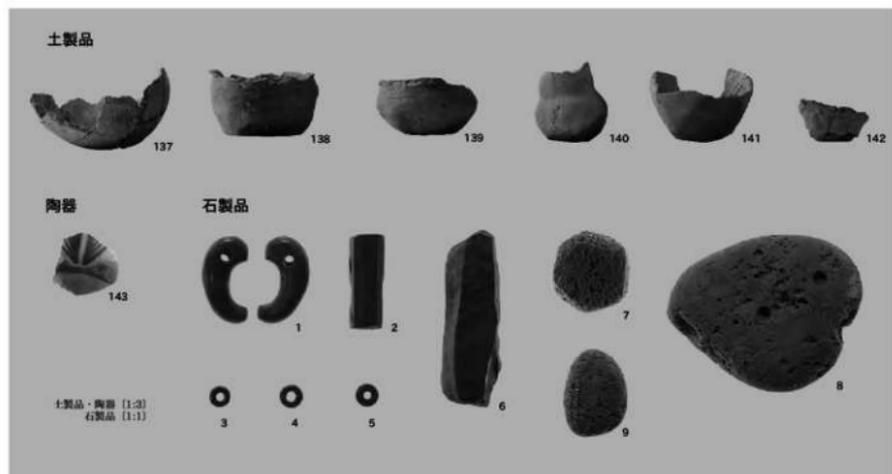












報告書抄録

ふりがな	かみおおかわいせき だいにじちようさ							
書名	上大川遺跡 第2次調査							
副書名	市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第2次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名								
編集機関	新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター							
所在地	〒950-3101 新潟県新潟市北区太郎代2554番地 025-255-2006							
発行年月	西暦2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
新潟県新潟市 北区葛塚字上 大川799番地 1ほか		151017	729	37° 55' 24"	139° 12' 59"	20080507～ 20080809	1,776.2 ㎡	道路改良工事に伴う 本発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
上大川遺跡	集落遺跡	古墳		掘立柱建物・井戸・ 溝・土坑・ピット・ 不明遺構		古墳時代の土師器・土製 品・石製品・木製品		
要約	<p>上大川遺跡は、阿賀野川右岸の強低湿地部の微高地に立地し、標高は1.2m前後（地表面から0.6～0.7m下）である。本発掘調査の結果、古墳時代前期の遺構・遺物が検出され、遺構では当該期の事例が少ない井戸が、また遺物では未成品を含む玉類が注目される。周辺には弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡が比較的多くまとっており、上大川遺跡はその後半に営まれた遺跡であるが、近接する遺跡との時期差や様相の違いがみられ、この遺跡がある特定の機能を有した遺跡である可能性がある。古墳時代になって沖積地に進出した人々の営みを垣間みせた遺跡として評価される。</p>							

上大川遺跡 第2次調査

—市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第2次発掘調査報告書—

2009年 3月30日印刷

2009年 3月31日発行

編集・発行 新潟市教育委員会

〒950-8550 新潟県新潟市中央区学校町通一番町602番地1

TEL (025) 228-1000

新潟市埋蔵文化財センター

〒950-3101 新潟県新潟市北区太郎代2554番地

TEL (025) 255-2006

印刷・製本

株式会社ハイグラフィック

〒950-2022 新潟県新潟市西区小針1丁目11番8号

TEL (025) 233-0321